

B ミズトラノオ シソ科

2009	B
2017	A
2023	B

Eusteralis yatabeana (Makino) Murata

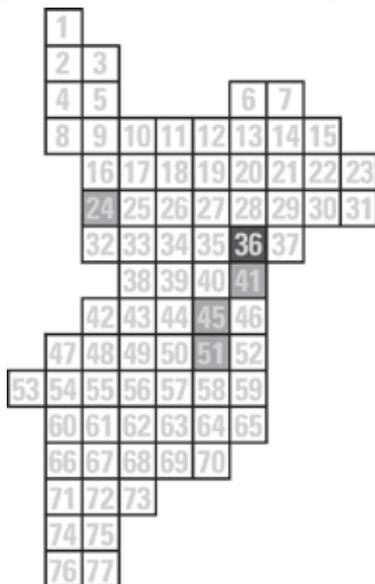
【種の特性】多年生草本。湿地に生える。葉は単葉で3～4輪生。虫媒で水散布。地中に横走る地下茎がある。虫媒で水散布。[HH]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】成田市、東金市、香取市、東金市、多古町、市原市、茂原市、富里市、市川市などで記録されているが一部はミズネコノオの誤認のおそれがある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。特に水質・水位の維持が大切である。

【文献】新千植誌 1975：376。／千植誌 2003：502,498



【写真】1953.9.21 長生村 標本：CBM BS-191165

(大場達之／天野誠)



B ヒメハッカ シソ科

2009	B
2017	A
2023	B

Mentha japonica (Miq.) Makino

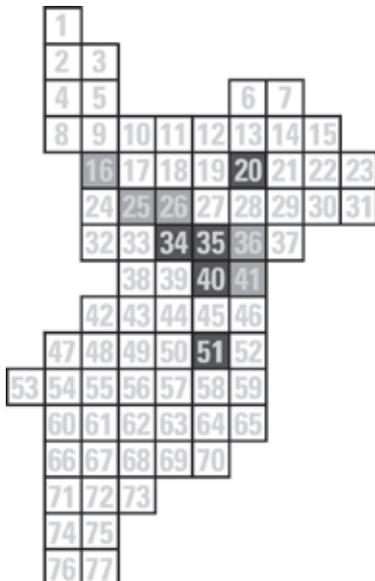
【種の特性】中形の多年生草本。茎は直立し枝分かれが少なく高さ20～40cm。葉は単葉で対生し卵状長楕円形。花は8～10月。茎の頂上に散状につき、淡紅紫色。虫媒で重力散布。[H] ヨシ群綱。

【分布】北海道・本州。

【県内の状況】湿地にスゲ類などに混じって生える。九十九里低地、習志野湿地（消滅）などから採集されているが、普通ではない。

【保護対策】湿原の保全。

【文献】千植誌 2003：504, 500



【写真】1927.10.5 山武市 標本：CBM BS-25736

(大場達之／天野誠)



B ヤマジソ シソ科

2009	C
2017	C
2023	B

Mosla japonica (Benth.) Maxim.

【種の特性】一年生草本。痩せた土地の芝生、あるいはススキ草原のなかの小裸地などに群れて生える葉は単葉で対生。[Th]葉は単葉で対生。[H]虫媒で重力散布。

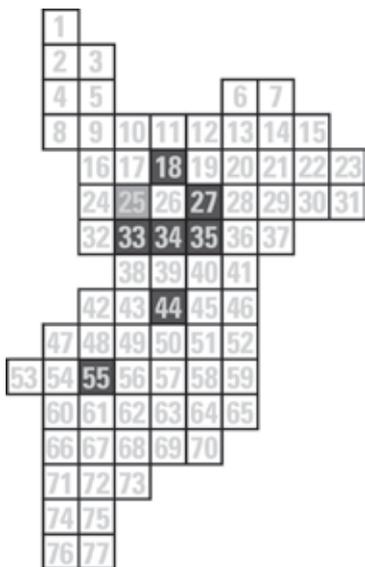
【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】かつての牧には多かったと推定される。下総台地で記録されているが、稀である。

【保護対策】半自然のススキ草地を維持管理することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：501, 497

【写真】1974.12.19 三重県 標本：CBM BS-205525
(大場達之／天野誠)



重要保護

B

B ヒキオコシ シソ科

2009	C
2017	A
2023	B

Rabdosia japonica (Burm.) H.Hara

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で、重力散布。ブナ帯要素。[H] ススキ群目。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】関東地方では山麓などに普通であるが、千葉県では少ない。かつての牧に多く見られた可能性がある。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003：492, 495

【写真】1968.10.10 富津市 標本：CBM BS-332511

(大場達之／天野誠)



B イヌタヌキモ タヌキモ科

2009	B
2017	B
2023	B

Utricularia australis R.Br.

【種の特性】浮遊性の一年生草本。葉は羽状複葉で対生。タヌキモに極めて似ているが、冬芽の鱗片に棘状の毛が多い。虫媒で水散布。[Th] ウキクサ群網。

【分布】本州・四国・九州。

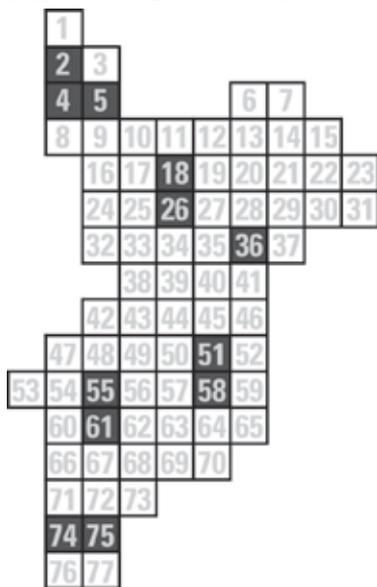
【県内の状況】タヌキモとの区別が微妙で、冬芽がないと確実な同定が困難なので分布の実態はあきらかではないが、タヌキモよりは多いと考えられる。

【保護対策】水田周辺などの水たまりなどを生物多様性維持のために保全する。

【文献】千植誌 2003：546,549

【写真】2004.6 宮城県 大場達之

(大場達之/天野誠)



B ミミカキグサ タヌキモ科

2009	B
2017	A
2023	B

Utricularia bifida L.

【種の特性】小形の多年生草本。湿地のわずかに水で潤されている裸地に群れて生える。葉は単葉で互生。花は7～10月に咲き黄色。虫媒で水散布。[HH] ミミカキグサーイヌノハナヒゲ群目。

【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。

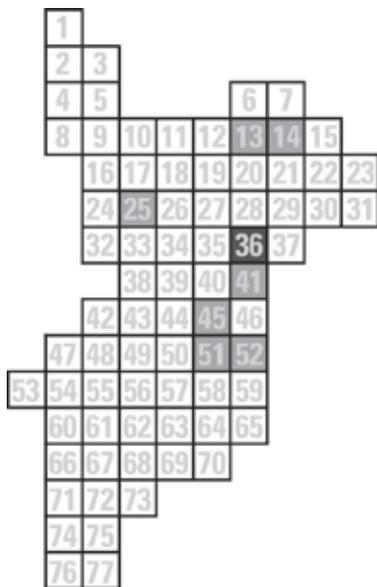
【県内の状況】成東・東金食虫植物群落、茂原市～長生村に多く見られたが現在では激減している。習志野市、佐原市などいくつかの既知の産地では絶滅している。

【保護対策】自然的な湿地を保護する。観賞用などでの採集を禁止する。

【文献】Komiya, S. & C. Shibata 1979 Distribution of the Lentibulariaceae in Japan. Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ. 9: 179-184 / 千植誌 2003：545, 549

【写真】山武市 大場達之

(大場達之/天野誠)



B ホザキノミミカキグサ タヌキモ科

2009	B
2017	B
2023	B

Utricularia caerulea L.

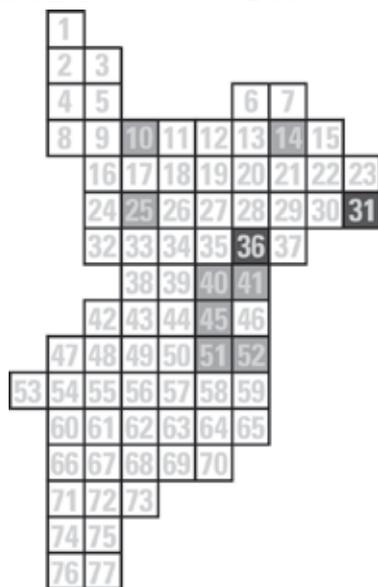
【種の特徴】 小形で食虫性の多年生草本であるが一年生草本として生育する場合がある。湿地に生える。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。ミミカキグサーイヌノハナヒゲ群目。[HH]

【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド。

【県内の状況】 九十九里浜平野に知られる。習志野市でみられたものは絶滅した。

【保護対策】 湿地環境を良好に維持することが望ましい。遷移が進行すると消失するので、遷移の初期～中期段階を保持することが大切である。

【文献】 小滝一夫 1950 習志野の湿地植物。船橋高校生物クラブ研究報告誌 3：22-27 / Komiya, S. & C. Shibata 1979 Distribution of the Lentibulariaceae in Japan. Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ. 9：192-195 / 千植誌 2003：544, 549



【写真】 1990 山武市 大場達之 (大場達之/天野誠)



B ムラサキミミカキグサ タヌキモ科

2009	B
2017	B
2023	B

Utricularia uliginosa Vahl

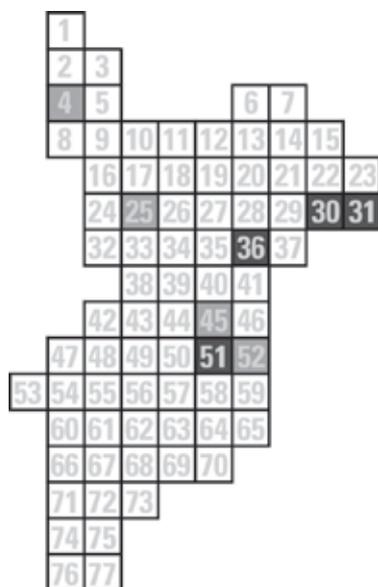
【種の特徴】 小形で食虫性の多年生草本。葉は単葉で互生。湿地に生える。虫媒で水散布。[HH] ミミカキグサーイヌノハナヒゲ群目。花の白い品種をシロバナミミカキグサ form. albida (Makino) H.Hara という。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。オーストラリア。

【県内の状況】 九十九里浜平野と銚子市から知られる。成東・東金食虫植物群落でも稀である。

【保護対策】 湿地環境を良好に維持することが望ましい。遷移が進行すると消失するので、遷移の初期～中期段階を保持することが大切である。

【文献】 小滝一夫・大賀宣彦 1975 千葉県の食虫植物群落の生態。新千植誌：115-135 / Komiya, S. & C. Shibata 1979 Distribution of the Lentibulariaceae in Japan. Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ. 9：192-195 / 千植誌 2003：545, 549



【写真】 1990 山武市 大場達之 (大場達之/天野誠)



重要保護
B

B トネリコ モクセイ科

2009	
2017	A
2023	B

Fraxinus japonicus Blume ex K.Koch

【種の特性】落葉性高木。高さ15mに達する。対生する葉は、羽状複葉。小葉には、4から10mmの柄があり、鋭尖頭、鋸歯がある。花には、花冠がない。虫媒で、風散布。花期は、4月～5月。落葉樹林に生育する。ハンノキ群目。

[MM]

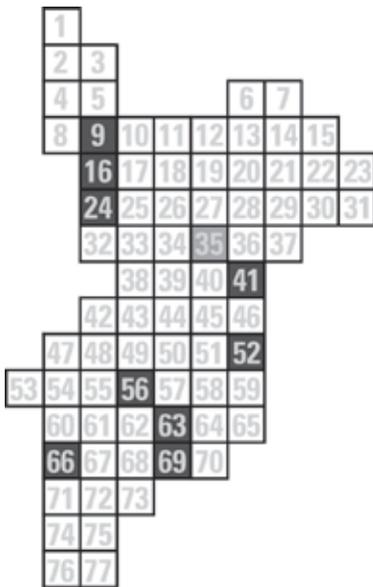
【分布】本州。

【県内の状況】船橋市で2000年5月16日に採集された標本（CBM BS-180025）と松戸市で1988年6月7日に採集された標本（CBM BS-140424）と山武市で1932年10月26日に採集された標本（CBM BS-519）がある。目視記録としては、流山市、君津市、鋸南町、大多喜町の記録がある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:339 / 新千植誌 1975:384 / 千植誌 2003:447 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:62

【写真】1988.6.7 松戸市 標本: CBM BS-140424



(天野誠)



B オオナンバンギセル ハマウツボ科

2009	C
2017	C
2023	B

Aeginetia sinensis G.Beck

【種の特性】寄生性の一年生草本。葉は無葉緑。虫媒で、風散布。[Th] トダシバーススキ群団。

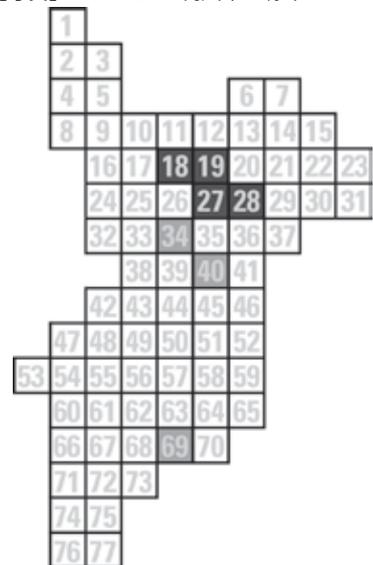
【分布】本州・四国・九州・琉球。中国。

【県内の状況】県内では8ヶ所で記録されている。ナンバンギセルとの混同があると考えられる。

【保護対策】自生地を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 543

【写真】1948.7.28 鴨川市 標本: CBM BS-167998



(大場達之/天野誠)



B ゴマクサ ハマウツボ科

2009	B
2017	B
2023	B

Centranthera cochinchinensis (Lour.) Merr. subsp. *lutea* (H.Hara) T.Yamaz.

【種の特性】 一年生草本。貧栄養な湿地に生える。葉は単葉で対生。茎は直立し高さ 20～40cm で斜上する堅い毛がある。花は 8～10 月に咲き淡い黄色。虫媒で風散布。[Th] ホシクサーコイヌノハナヒゲ群団。

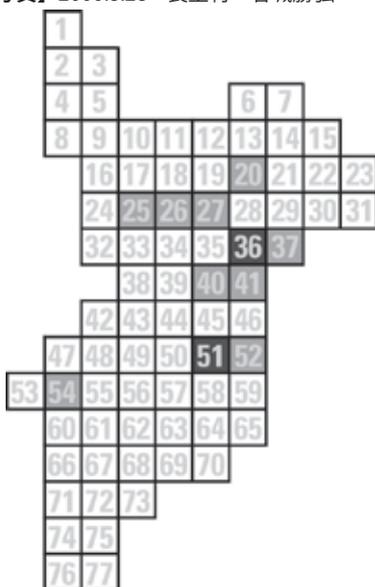
【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド。

【県内の状況】 九十九里平野、習志野市などに記録されているが現在は少ない。

【保護対策】 貧栄養な湿地を保全する。

【文献】 千植誌 2003：536, 527

【写真】 2000.8.28 長生村 谷城勝弘



(大場達之/天野誠)



B ハンカイシオガマ ハマウツボ科

2009	B
2017	B
2023	B

Pedicularis gloriosa Bisset & S.Moore

【種の特性】 中形の多年生草本。暗い湿った林に生える。葉は単葉で対生し羽状に深く切れる。花は 8～10 月。茎は斜上し先端付近に紅紫色の花を集めつける。虫媒で風散布。低地遺存ブナ帯要素。[H]

【分布】 本州（関東、中部）。

【県内の状況】 房総丘陵に見られるが少なくなっている。

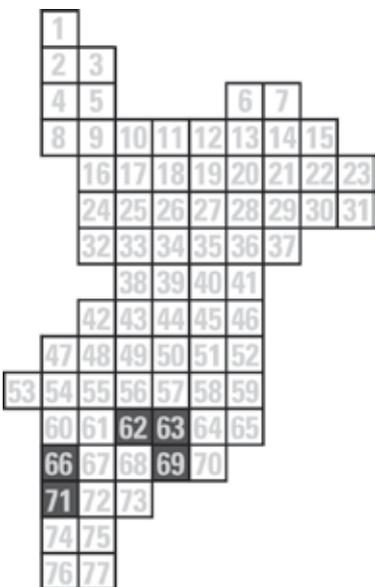
【保護対策】 観賞用などでの採取をやめる。

【文献】 千植誌 2003：537, 527

【写真】 2002.10.04 鋸山

大場達之

(大場達之/天野誠)



B シオガマギク ハマウツボ科

2009	B
2017	A
2023	B

Pedicularis resupinata L. var. *oppositifolia* Miq.

【種の特性】夏緑の半寄生性の多年生草本。ススキなどによりかかって生える。葉は単葉で対生。花は9～10月に咲き濃い紅紫色。虫媒で風散布。
[H] ススキ群目。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、シベリア、極東ロシア。

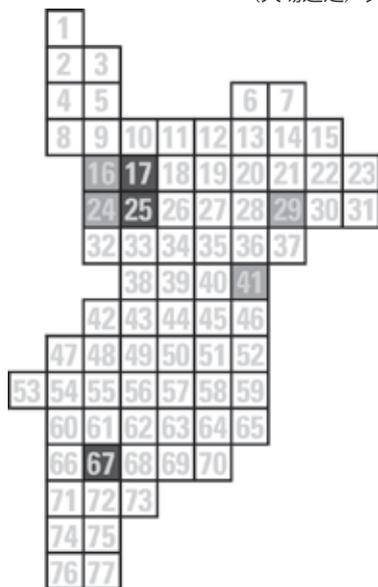
【県内の状況】ススキ草地の衰退により著しく少なくなっている。

【保護対策】人為的な刈り取りにより管理された半自然の草地を保全することが望ましい。また観賞用などでの採取を行わない。

【文献】千植誌 2003 : 537, 527

【写真】2007 山梨県 大場達之

(大場達之／天野誠)



B マルバノサウトウガラシ オオバコ科

2009	B
2017	B
2023	B

Deinostema adenocaulum (Maxim.) T.Yamaz.

【種の特性】小形の一年生草本。千葉県での記録はいずれも水田で、サウトウガラシと共存する。茎は上部に腺毛があり、高さ3～10cm。葉は対生し葉柄がなく広卵形。花は7～9月に咲き淡紫色。虫媒で水散布。[Th]

【分布】本州・四国・九州。済州島。

【県内の状況】新千植誌 1975 では成田市の記録があるが、稲刈り後の水田を綿密に調べることで、佐倉市、長南町でも発見することができた。かつては広く分布していたと考えられる。

【保護対策】種子を自宅の水盤にまいたところ5年以上に亘って継続生育したので、生育条件に特別の要求のある植物とも思えない。自家用米の水田など農薬の散布を制限した水田に見られることから、減農薬水田を維持することを望みたい。

【文献】新千植誌 1975 : 372 / 千植誌 2003 : 538, 528

【写真】1999.9.13 佐倉市 大場達之

(大場達之／天野誠)



B フジウツギ ゴマノハグサ科

2009	C
2017	C
2023	B

Buddleja japonica Hemsl.

【種の特性】 夏緑低木。葉は単葉で対生。虫媒で、風散布。やせた河原、切り通しなどに先駆的に現れる。[N] ニシキウツギーヤシャブシ群群網。

【分布】 本州・四国。

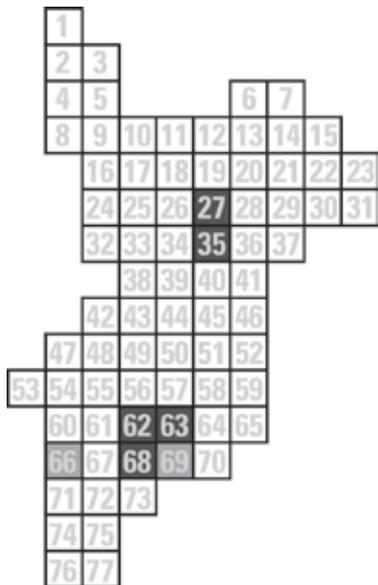
【県内の状況】 ブナ帯に分布の中心のある種類で丹沢山地などでは普通であるが、房総半島では希である。

【保護対策】 生育地の保全。林道法面などの過剰なコンクリート吹きつけをやめる。

【文献】 千植誌 2003：524, 516

【写真】 2000.6.8 大多喜町 CBM BS-252495

(大場達之／天野誠)



B オオヒナノウスツボ ゴマノハグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Scrophularia kakudensis Franch.

【種の特性】 大形の多年生草本。茎は4稜形で直立し高さ2mに達する。葉は単葉で対生し三角状長楕円形。花は8～10月。茎の先に集まって大きな円錐状花序をなし、花はゆがんだ壺状。虫媒で風散布。低地遺存ブナ帯要素。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

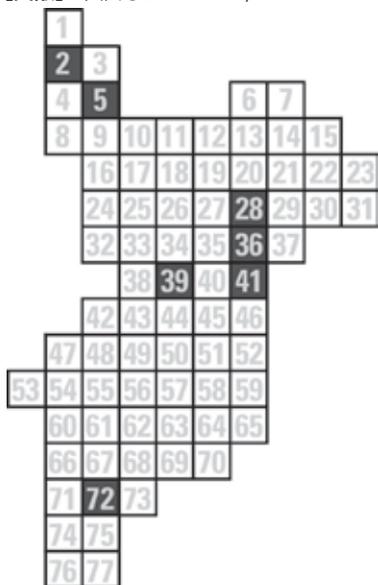
【県内の状況】 河川敷などの湿った草原に知られてきたが少なくなっている。

【保護対策】 河川敷の少なくとも一部を自然に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：536, 526

【写真】 (右) 1990.8.16 東金市 標本：CBM BS-83569, (左) 2001.9.15 東金市 福田洋

(大場達之／天野誠)



B アオイゴケ ヒルガオ科

2009	
2017	B
2023	B

Dichondra micrantha Urb.

【種の特性】 小型の多年生草本。匍匐して繁茂する。高さは2cmから5cmになる。葉は円形で心形。花柄は湾曲して下を向く。花冠は5裂する。雄蕊は5本、雌蕊は2裂する。果実は球形で2つ並んで着く。虫媒で、重力散布。花期は、4月から8月。明るい裸地に生育する。ダイコンドラの名前で、カリリナアオイゴケがグランドカバー植物として、栽培されていて、識別が困難である。[H]

【分布】 本州・四国・九州・琉球。世界の亜熱帯・熱帯。

【県内の状況】 主に東京湾の海岸と南房総の海岸に分布している。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975:432 / 千植誌 2003:479

【写真】 1999.5 館山市 標本: CBM BS-316553

(天野誠)



B ヤマホロシ ナス科

2009	C
2017	C
2023	B

Solanum japonense Nakai

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。[G]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 社寺などの林に生えるが、個体数は少ない。

【保護対策】 自生環境の保全。

【文献】 千植誌 2003 : 518, 512

【写真】 1996.11.6 大多喜町 標本: CBM BS-175292

(大場達之 / 天野誠)



B イヌムラサキ ムラサキ科

2009	
2017	B
2023	B

Lithospermum arvense L.

【種の特性】 中型の一年生草本。根に紫の色素を含まない。高さ 20～50cm。茎には剛毛が多い。葉は、長楕円形で無柄、長さ 2～4cm。花は直径 3～4mm、喉部に鱗片がない。果実は灰色で光沢がない。虫媒で、重力散布。花期は、4月から6月。乾いた草地に生育する。[Th]

【分布】 本州・四国・九州。ユーラシア、北アフリカ。

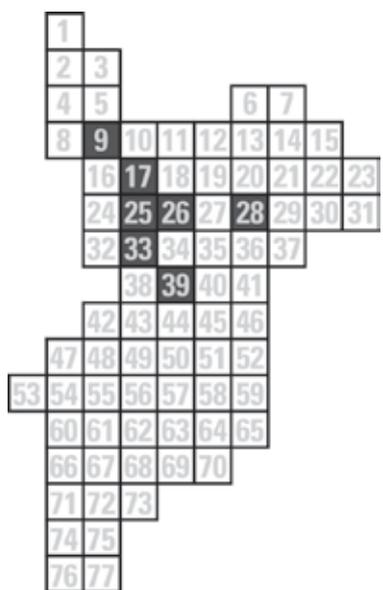
【県内の状況】 在来の系統と帰化の系統がある。保護すべきは前者である。八千代市などの草地に生えるものは、在来の系統と思われる。

【保護対策】 生育地を見極め、在来の系統の生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975：477 / 角野康郎 1994 日本水草図鑑：17 / 千植誌 2003 643,657

【写真】 1993.4.23 八千代市 標本：CBM BS-129556

(天野誠)



B ルリソウ ムラサキ科

2009	B
2017	B
2023	B

Omphalodes krameri Franch. & Sav.

【種の特性】 高さ約 25 cm の夏緑の多年生草本。やや湿った明るい林床に生える。葉は地表にロゼット状に広がる。茎はほぼ直立し、円筒形で、剛毛が生える。葉は互生、長楕円形で、両面に荒い毛が生える。葉柄は短い。さそり状花序を頂生および上部の葉腋につける。花序は 2 つに分枝する。花冠は水色、花筒は短い、径約 7 mm で、喉部に白い鱗片がつく。果実は白くて光沢のある小堅果で、ほぼ楕円形球、背面の凹みの周囲に刺がある。虫媒で付着散布。適湿で肥沃な夏緑林の林床に生える。ブナ群綱。[H]

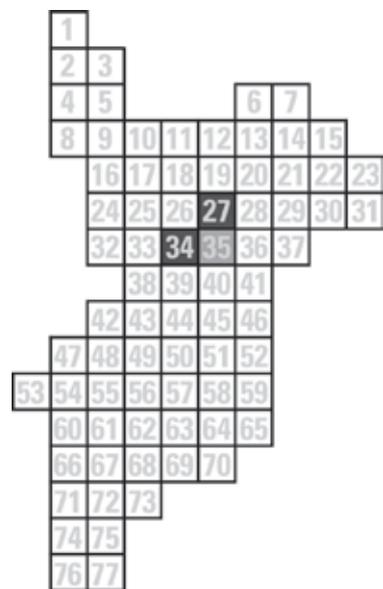
【分布】 北海道・本州。

【県内の状況】 1997 年に山武市と佐倉市で確認されている。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。生育環境は段丘下部の極めて限られたところなので立ち入りを控えることが望ましい。

【文献】 川名興・伊藤哲夫 1979 冬虫夏草 14 / 千植誌 484, 473

【写真】 1996.5.7 佐倉市 大場達之 (大場達之 / 天野 誠 追補)



B マルバチシャノキ チシャノキ科

2009	C
2017	C
2023	B

Ehretia dicksonii Hance

【種の特性】 高さ約3～4m程度の夏緑の高木。海岸部の林縁や急な崖に生える。枝は灰褐色で、樹皮は荒く割れる。葉は互生、広卵形で、鈍頭、基部は円形で、有柄、長さ約14cm、鋸歯縁で、硬い毛がある。枝先に散房花序を付ける。花は5数性。萼片は広披針形で、長さ約3mmで、短い萼筒がある。花冠は、星形で、白色で、径約10mm。雄しべは萼筒の先に癒合し、花糸は約5mm、柱頭は2裂し、心皮は合生。果実は球形の核果で、径6～8mm、黄熟する。萼と花柱は宿存する。虫媒で、鳥散布。[MM]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国。

【県内の状況】 鴨川市に知られ、付近では植えられたものもある。

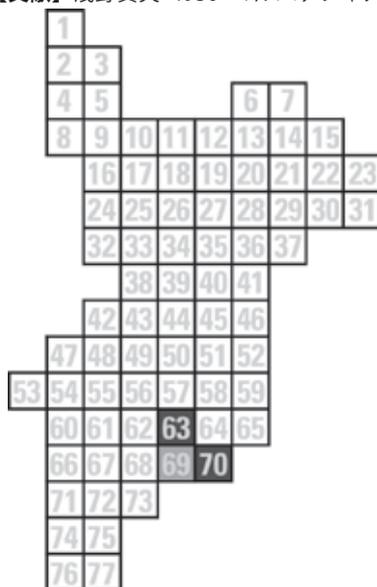
【保護対策】 生育地の保全。種子からはよく芽生えるので、生育環境を保全すれば存続は容易である。

【文献】 浅野貞夫 1950 マルバチシャノキ房総南部に自生す。

採集と飼育12(9):
286-287。／千植誌
2003: 482,472

【写真】 2005.6.12

鴨川市 福田洋
(大場達之/天野 誠
追補)



B オカダイコン キク科

2009	
2017	D
2023	B

Adenostemma madurense DC.

【種の特性】 多年性草本。高さ、30～150cm。葉は対生し、8対～12対。卵形で、葉身の長さは、10～30cm。多数の白い筒状花を付けた頭花を散房状に付ける。そう果は倒披針形で、腺点がある。花期は、7月～8月。虫媒で重力散布。湿った林縁に生育する。[H]

【分布】 本州・四国・九州。台湾、中国、東南アジア、南アジア。

【県内の状況】 主に安房の丘陵部に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 大場達之 2010 千植誌資料 26:24 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017 365

【写真】 2012.10.21 君津市 標本: CBM
BS-380843

(天野誠)



B ヤマハハコ キク科

2009	C
2017	C
2023	B

Anaphalis margaritacea (L.) Benth. & Hook.f. var. *angustior* (Miq.) Nakai

【種の特性】多年生草本。乾いて裸出した路傍などに見られる。茎は高さ30～50cm。葉は単葉で互生し線状披針形、密に白い蜘蛛毛をかぶり、全体が白く見える。花は9～10月に咲き、花序は散房状で多数の頭花が密に集まる。総苞は乾膜質で白色。虫媒で、風散布。オニシモツケーオオイタドリ群団。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、サハリン、千島、カムチャッカ。

【県内の状況】主として県北部に点々と記録があるが、造成地などの攪乱された裸地に生えることが多い。関東山地から風で飛来した種子にもとづく偶生である可能性がある。ブナ帯からの飛来要素か。

【保護対策】自生地の環境を維持する。

【文献】千植誌 2003：603, 606

【写真】1992.7.30 富里市 標本：CBM BS-61934

(大場達之/天野誠)



B カワラヨモギ キク科

2009	
2017	C
2023	B

Artemisia capillaris Thunb.

【種の特性】中型の多年性草本。下部は木質化して、垂れ木になる。花を付けない茎はロゼット状になる。植物体は、白い絹毛に覆われている。花茎の葉は、1から2回羽状に全裂する。花序は円錐状。頭花は、球形で長さ1.5から2mm。[Ch]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、東南アジア、ウスリー。

【県内の状況】主に内房から外房までの海岸に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:310 / 新千植誌 1975:353 / 千植誌 2003:619 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:330

【写真】2007.4.28 館山市 標本：CBM BS-290263

(天野誠)



B イヌヨモギ キク科

2009	
2017	B
2023	B

Artemisia keiskeana Miq.

【種の特性】 中小型の多年性草本。茎は高さ 30～80cm、花時、下の葉は枯れている。花の咲かない茎はロゼット状である。葉は広いさじ形で、大きな鈍鋸歯がある。総状円錐花序に下向きに多数の頭花を付ける。風媒で、風散布。花期は、8月～10月。乾いた丘陵の斜面に生育する。ススキ群綱。[H]

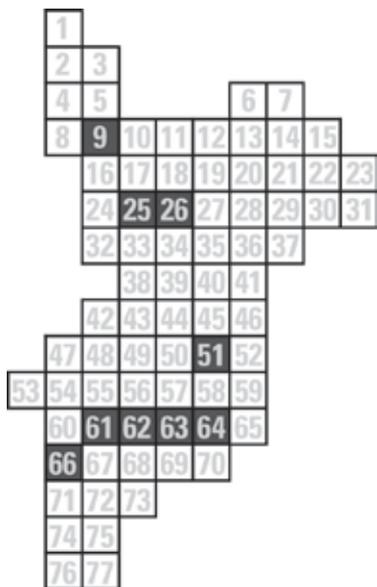
【分布】 北海道、本州、四国、九州。

【県内の状況】 富津市で 2007 年 9 月 22 日 (CBM BS-263120) に採集された標本と鋸南町で 1958 年 7 月 20 日 (CBM BS-9152) と富津市で 1994 年 5 月 26 日 (CBM BS-276072) に採集された標本がある。

【文献】 千植誌 1958 310 / 新千植誌 1975:353 / 千植誌 2003:618 / 改訂新版 日本の野生植物 5 2017:330

【写真】 2006.9.25 富津市 標本: CBM BS-285607

(大場達之/天野誠)



B ヒメシオン キク科

2009	B
2017	B
2023	B

Aster fastigiatus Fisch.

【種の特性】 夏緑多年生草本。茎は直立し高さ 30～100 cm。根生葉は花時には枯れている。葉は単葉で互生し線状披針形。花は 8～10 月に咲き、頭花は散房状に密に集まりつく。舌状花は白色。虫媒で風散布。[G] ヨシ群綱。

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国、プリモリア。

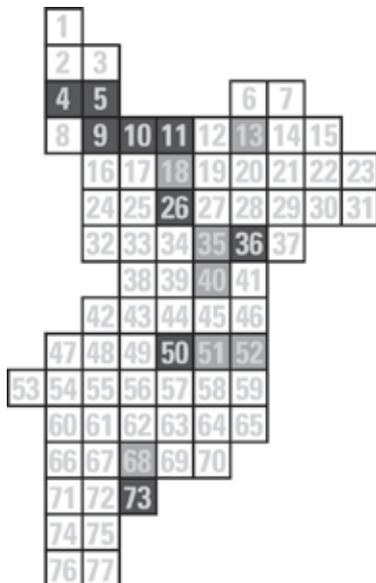
【県内の状況】 主に県の中～北部の湿地に記録されているが、鴨川市にも知られている。湿原の開発で少なくなっている。

【保護対策】 自然度の高い湿原を保全する。

【文献】 千植誌 2003 : 598, 585

【写真】 1963.10.20 香取市 標本: CBM BS-12326

(大場達之/天野誠)



B サワシロギク キク科

2009	B
2017	A
2023	B

Aster rugulosus Maxim.

【種の特性】 夏緑多年生草本。茎は高さ 30～50 cm。葉は単葉で線状披針形、互生し堅く折れやすく、下面は白色を帯びる。花は 8～10 月に咲き、頭花はまばらに茎の上部につき、舌状花は白色または、花の終わりの頃やや紅色を帯びる。虫媒で水散布。[H] ヨシ群綱。

【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 県北部の湿地に見られるが、湿地の開発で著しく少なくなっている。

【保護対策】 湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 598, 585

【写真】 1972.9.10 長生村 標本: CBM BS-13792

(大場達之/天野誠)



B キクタニギク キク科

2009	C
2017	C
2023	B

Chrysanthemum seticuspe (Maxim.) Hand.-Mazz. f. *boreale* (Makino) H.Ohashi & Yonek.

【種の特性】 夏緑多年生草本。葉は単葉で互生。茎は斜面などに倒れて垂れ下がることが多い。虫媒で、重力散布。[H]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 かつての自生地では、ほとんど失われているが、最近道路法面などの緑化のための混合種子に混じって、中国あるいは韓国産の系統が入り込んでいる。これは種としては同一であるが、遺伝的には別系統のものであり、排除すべきものと考えられる。RD に指定するものは日本に土着の系統である。

【保護対策】 生育地の環境を良好に維持する。

【文献】 千植誌 2003 : 617, 611

【写真】 1992.10.23 成田市 標本: CBM BS-81107

(大場達之/天野誠)



B シロバナタカアザミ キク科

2009	C
2017	C
2023	B

Cirsium pendulum Fisch. ex DC. var. *albiflorum* Makino

【種の特性】タカアザミに似るが筒状花は白色で6月頃に咲き、河川のより浸水頻度の高いところに生える。生態的特質から単なる白色花の品種ではなく変種相当の分類群と考えられる。

【分布】タカアザミと同じ範囲に分布すると考えられるが、明らかでない。

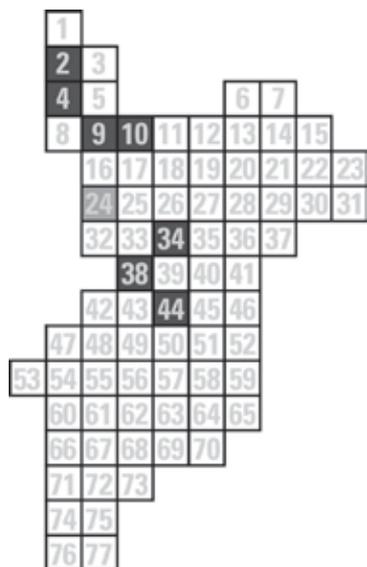
【県内の状況】千葉市から野田市にかけて点々と産地が知られている。

【保護対策】自生地の河川敷の改変を避ける。

【文献】千植誌 2003 : 579, 570

【写真】2014.6.26 野田市 岩槻秀明

(大場達之/天野誠)



B キセルアザミ キク科

2009	B
2017	B
2023	B

Cirsium sieboldii Miq.

【種の特性】多年生草本。湿原、ハンノキ林などに生える。茎は高さ50～100 cmで直立。葉は単葉で互生し根生葉は花時まで残りロゼット状。頭花は長い柄があって単生し、下向きに咲く。筒状花は紅紫色。虫媒で風散布。[HH] ヨシ群綱。別名マアザミ

【分布】本州・四国・九州。

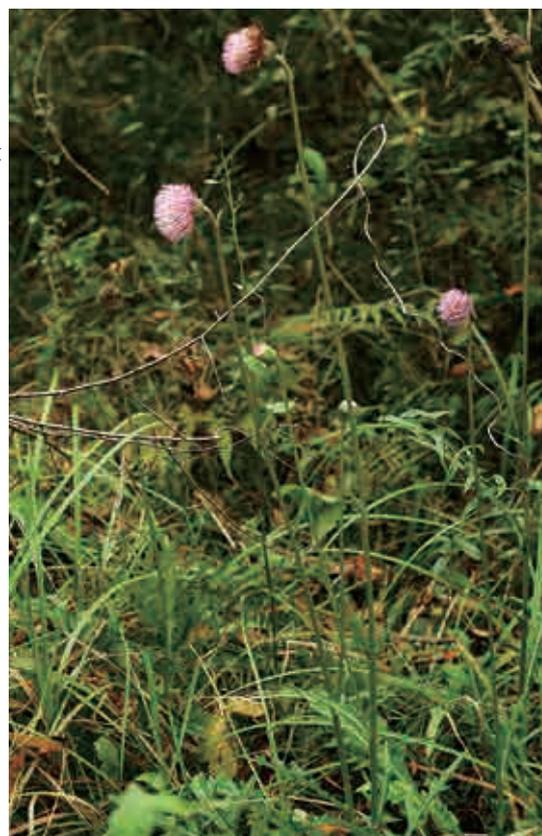
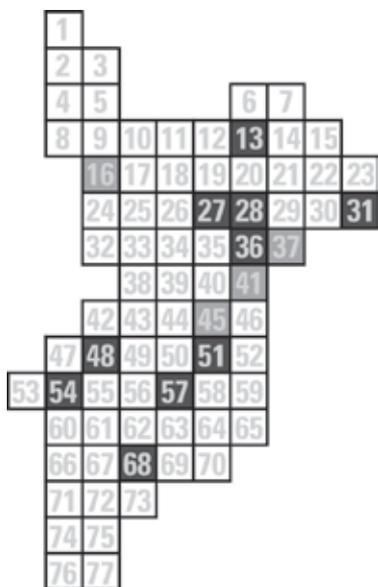
【県内の状況】かつては茂原市～長生村には稀でなかったが、湿地の開発によって産地が失われ少なくなっている。

【保護対策】自然度の高い湿地の保全。

【文献】千植誌 2003 : 577, 568

【写真】木更津市 大場達之

(大場達之/天野誠)

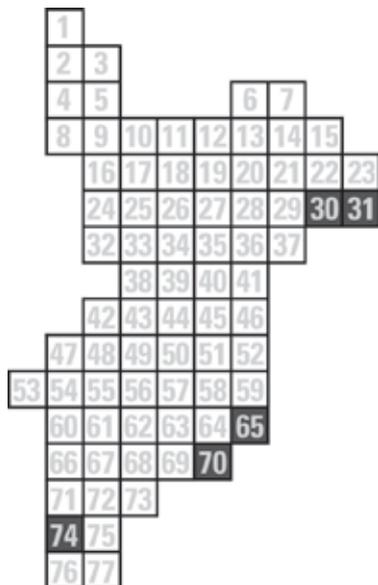


B ハマサワヒヨドリ キク科

2009	A
2017	B
2023	B

Eupatorium lindleyanum DC. var. *yasushii* Tuyama

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。サワヒヨドリに似ているが節間がつまっていて、高さ 20cm ほどであるが、クロマツの影に生えたものでは 60cm ほどになることもある。茎に開出毛が密にあり、葉が広く丸みがあって毛が多い点がサワヒヨドリと異なる。サワヒヨドリが伊豆諸島とその対岸本土の地域に分化した変種で、学名は津山（1956）により三宅島の標本をもとに命名されたが、和名は銚子産の標本に基づいて檜山（1951）が命名したものである。海崖の草地に生えるが銚子では海岸近くの湿地周辺にも見られる。[H] イソギクハチジョウススキ群集。



【分布】 本州（千葉）・伊豆諸島。

【県内の状況】 銚子市のほか、いすみ市、御宿町、館山市などからも採集されている。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 檜山庫三 1951 ボタニカルノート 2.13. ハマサワヒヨドリ. 野草 17(139): 2 / 津山尚 1956 ヒヨドリバナの海岸型. 植物研究雑誌 31: 28 / 新千植誌 1975: 358 / 千植誌 2003: 592, 582

【写真】 2000.8.18 銚子市 谷城勝弘 (大場達之/天野誠)



B アキノハハコグサ キク科

2009	B
2017	B
2023	B

Gnaphalium hypoleucum DC.

【種の特性】 二年生草本。痩せた草地の裸の部分に一時的に生える。茎は直立し高さ 30～60cm で、茎の上部で多く枝分かれする。葉は単葉で互生。花時には茎下部の葉は枯れている。花は 9～10 月で総苞は黄色で光沢がある。虫媒で風散布。[Th] ハタガヤーイトハナビテンツキ群集。

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、インド。

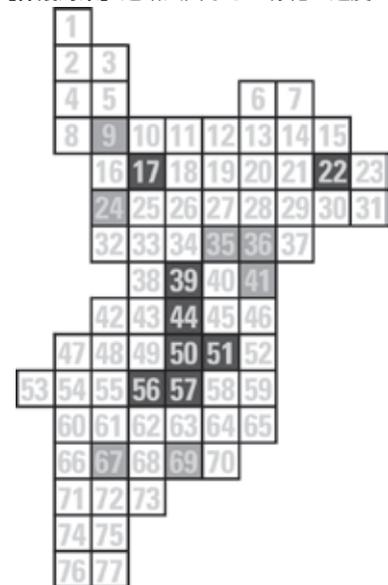
【県内の状況】 全域から記録されているが個体数は少なく、同一箇所継続的に観察できることは希である。貧栄養で乾燥した裸地に一時的に現れる先駆的な植物であり、環境全体の富栄養化にともなって生活域が減少していると考えられる。

【保護対策】 道路法面などの緑化を適度にとどめ、自生植物が生えうる余地を残す。

【文献】 千植誌 2003: 603, 607

【写真】 1992.11.6 市原市 標本: CBM BS-47789

(大場達之/天野誠)



B ハマアキノキリンソウ キク科

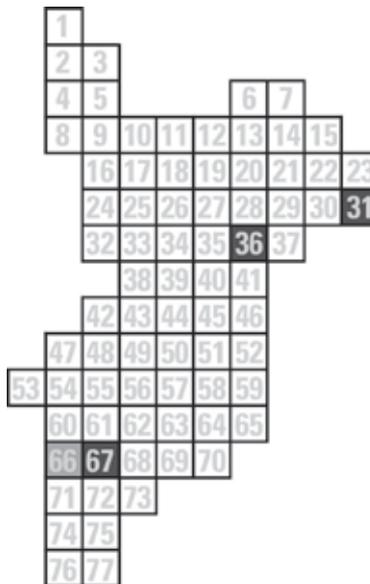
2009	B
2017	B
2023	B

Solidago virgaurea L. subsp. *leiocarpa* (Benth.) Hultèn var. *ovata* Honda

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。ハチジョウアキノキリンソウに似ているが、葉の鋸歯が低く、植物体は丈が低い。鋸山の標本をもとに記載された。海岸の崖に生える。ハチジョウアキノキリンソウとアキノキリンソウの交雑種である可能性が高い。虫媒で風散布。イソギク-ハチジョウススキ群集。[H]

【分布】本州（関東南部）。

【県内の状況】銚子市、鋸山、成東・東金食虫植物群落などから記録されている。



【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】Honda, M. (1932) Bot. Mag. Tokyo 51: 645.; 千植誌 2003: 594, 584

【写真】2005.11.6 銚子市 福田洋 (大場達之/天野誠)



B オヤマボクチ キク科

2009	B
2017	B
2023	B

Synurus pungens (Franch. & Sav.) Kitam.

【種の特性】大形の夏緑多年草。茎は高さ1～1.5 m、茎の葉は基部心形または切形。根生葉は長い柄があって卵形で基部は心形、長さ15～35cm。下面は、密に蜘蛛毛があって白色。花は9～10月に咲き、頭花は長い柄があって下向きに咲き、総苞は鐘状球形で長さ3cm、筒状花は紫色。虫媒で風散布。[H]

【分布】北海道・本州（中部以東）。

【県内の状況】房総丘陵に分布するが少ない。県北部からの報告はハバヤマボクチの誤りである。



【保護対策】鑑賞目的などでの採集を行わない。

【文献】千植誌 2003: 574, 566

【写真】2002.9.19 君津市 大場達之 (大場達之/天野誠)

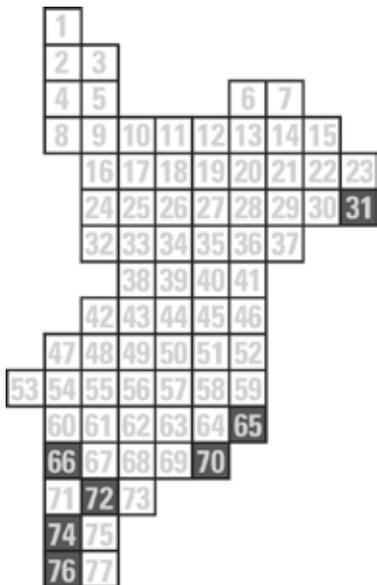


B マルバノハマシャジン キキョウ科

2009	A
2017	A
2023	B

Adenophora triphylla (Thunb. ex Murray) A.DC. f. *rotundifolia* Hiyama

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で輪生、幅広く、厚手で光沢がある。虫媒で風散布。ツリガネニンジンに似て丈は低く、節間がつまり、ハマシャジンも同じようにツリガネンジンの海岸型で千葉県沿岸に散布するが、ツリガネニンジンとの間は連続的である。ハマシャジンとマルバノハマシャジンは同所的に見られ、分類的に再検討が必要であるが、両者は別系統のものとも考えられる。マルバノハマシャジンは銚子が基準標本産地である。品種ではなく変種が適当であろう。海崖の草地に生える。イソギクハチジョウススキ群集。[H]
【分布】 本州（千葉、神奈川の海岸）、伊豆諸島。神奈川県植物誌(1988)にハマシャジンとされている図はマルバノハマシャジンである。



【県内の状況】 銚子市に産することが古くから知られているが、1995年に鋸山でも発見された。

【保護対策】 保護の具体策を実施すると共に生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 檜山庫三 1951 ボタニカルノート 2.12. マルバノハマシャジン. 野草 17(139): 2 / 檜山庫三 (1952) マルバノハマシャジン. 植物研究雑誌 27: 52 / 千植誌 2003: 561, 555

【写真】 2003.8.19 銚子市 谷城勝弘 (大場達之/谷城勝弘 追補)



B バアソブ キキョウ科

2009	B
2017	B
2023	B

Codonopsis ussuriensis (Rupr. & Maxim.) Hemsl.

【種の特性】 多年生草本のつる草。球状の根茎がある。茎は細く柔らかで、切れば白乳液を出す。花は7~8月頃咲き、花冠内部の上方は濃紫色である。本種によく似たツルニンジン *C. lanceolata* (Siebold et Zucc.) Travu. の花冠内部の上方は褐紫色の斑点があり、濃紫色にならない。ススキ群集。[G]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

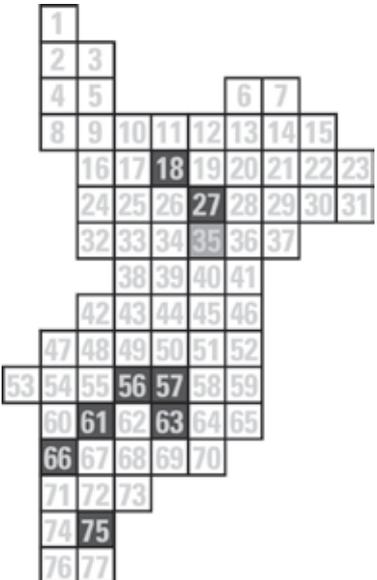
【県内の状況】 県内の生育は少ない。北総域では谷津の台地斜面下方の湿度の高い所に生えるものが数個体観察されている。

【保護対策】 生育に適正な環境を維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003: 561, 555

【写真】 2017.8.26 東京都植栽 石川和宏

(谷城勝弘)



B サワギキョウ キキョウ科

2009	B
2017	B
2023	B

Lobelia sessilifolia Lamb.

【種の特性】多年生草本。湿原に生える。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。1mに達する。[HH] ホソバナノヨツバムグラー大形スゲ群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】花が美しいので観賞用に採取されることが多いほか、自生地の湿地の減少のために激減した。多古光湿原には100個体を超える生育がある。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。多古光湿原は現存する最大の自生地であり、保護の具体的措置をとることが望ましい。

【文献】千植誌 1975：365 / 千植誌 2003：563, 556

【写真】2008.10.5 多古光湿原
谷城勝弘

(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



B キキョウ キキョウ科

2009	A
2017	A
2023	B

Platycodon grandiflorum (Jacq.) A.DC.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。地下に肥厚した根がある。ススキ草原あるいはコナラ二次林などに生える。トダシバーススキ群団。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州、琉球（奄美大島）。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】半自然的な草地の多かった時代には稀な植物ではなく、また花の目立つ植物なので採集者から注目され、ほとんど県内全域から多くの産地の報告がある。半自然的草地の減少と、観賞用としての選択的採取のために激減し、現在では極めて稀なものになっている。しかし1990年代でも市原市、酒々井町、芝山町、成田市、多古町などから記録されている。

【保護対策】観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。昔ながらの定期的な刈り取りを行う草地環境を維持することが望ましい。市原市の例ではコナラ林の伐採跡地で観察されており、これは埋土種子からの回復である可能性が高い。千葉県は古くから牧野の多い所であり、種類の多いススキ草原は郷土の景観として重要な存在である。市原市におけるように埋土種子からの回復が最も適当な手段であろう。

【文献】千植誌 2003：561, 555

【写真】1998 市原市 平田和弘

(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



B ヒナギキョウ キキョウ科

2009	C
2017	C
2023	B

Wahlenbergia marginata (Thunb. ex Murray) A.DC.

【種の特性】 多年生草本。乾いた芝草地、路傍、砂浜の後背地などに見られるが少ない。葉は単葉で互生。虫媒で、風散布。シバスゲ群目。[H]

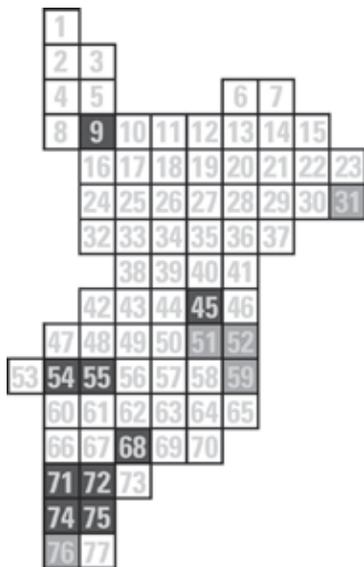
【分布】 本州（関東以西）・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】 海岸付近の砂地などに点在する。

【保護対策】 適切な人為管理を行って草地環境を維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：561,555

【写真】1996.10.23 茂原市 CBM BS-376556
(大場達之/谷城勝弘 追補)



B ミツガシワ ミツガシワ科

2009	B
2017	B
2023	B

Menyanthes trifoliata L.

【種の特性】 多年生草本。湿地に生える。地下に横走する太い地下茎がある。葉は3出複葉で根生、小葉は長楕円形または菱状楕円形で先端はやや尖り、無毛で厚みがあり、光沢がある。花は千葉県では4～5月に咲き、白色で花冠は5裂。虫媒で水散布。[Th]

【分布】 本州・四国・九州。北半球の夏緑林帯以北に多く分布する。

【県内の状況】 寒冷期からの遺存と考えられるものが、冷涼な湧水で涵養される湿地に見られるが、現在では自生地は極めて限られ、木更津市、野田市などで見られる他、佐倉市では鹿島川沿いにあった自生地から数ヶ所に

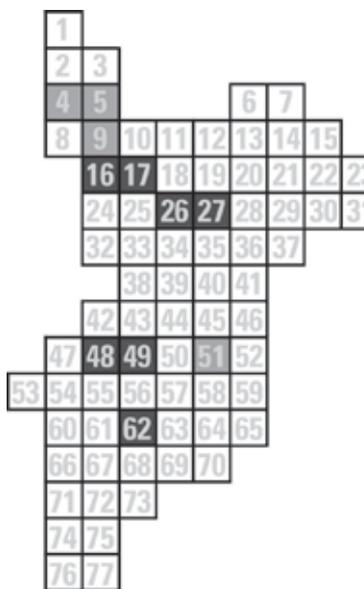
移植したものが生き残っている。かつては茂原市、成田市、東金市、袖ヶ浦市などからも記録されている。

【保護対策】 現在自生している環境を保護地として維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975 384。千植誌 2003 461,453

【写真】1997.5.8 木更津市 大場達之

(大場達之/天野誠)



B アサザ ミツガシワ科

2009	B
2017	A
2023	B

Nymphoides peltata (Gmel.) O.Kuntze

【種の特性】多年生の浮葉水草。地中に横に這う根茎がある。葉は単葉で対生し水面に浮かび、円形で深心形で両縁は深く重なり、直径4～12cmで縁はやや波曲し表面はやや光沢があり、下面は紫色をおびることがある、長い柄がある。花は6～9月に咲く。花冠は5裂し黄色、直径3～4cm、裂片は縁に毛がある。虫媒で、水散布。池に生える。[Th]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国、ユーラシア大陸に広く分布。

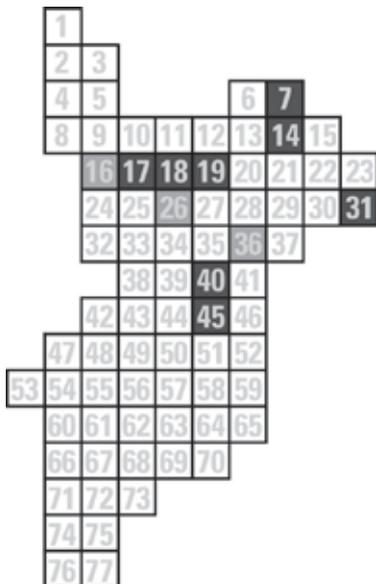
【県内の状況】やや規模の大きい池・沼に生え、印旛沼、手賀沼には多かったが、現在は生育が認められず、周辺の水路、池などに埋土種子などに由来するものが生えるのみである。

【保護対策】池・沼の水質を回復させる事が重要である。

【文献】新千植誌 1975、千植誌 2003 461,453

【写真】2008 成田市 大場達之

(大場達之/天野誠)



B エキサイゼリ セリ科

2009	A
2017	A
2023	B

Apodicarpum ikenoi Makino

【種の特性】小型の多年生草本。葉は羽状複葉で互生。虫媒で水散布。オギ群落の下層に生え、オギの茎葉の伸長する前に葉を展開し開花結実する春植物。夏には凋落して確認は困難である。果実は6月に熟す。新しく形成されたオギ群落にも進出することが認められる。ハナムグラーオギ群集。日本の固有種、固有属。(1属1種)。[G]

【分布】本州(関東地方、愛知県)。

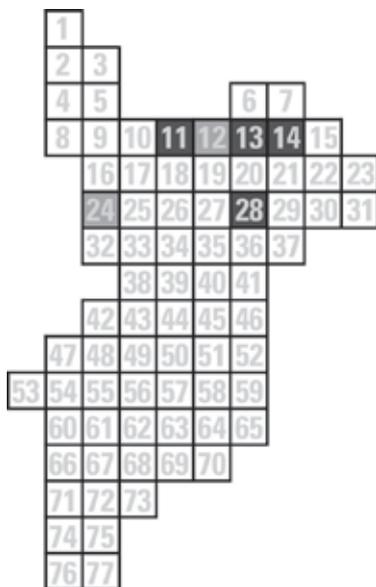
【県内の状況】江戸川沿岸及び利根川に見られ、生育環境はかつてよりも著しく狭められている。近年、栗山川で大群落が確認されている。

【保護対策】河川敷のオギ群落を保全することが望ましい。場所によってはゴミの集中堆積が著しいのでオギの刈り取り、野焼きなどの管理が大切である。

【文献】千植誌 2003: 424, 414

【写真】2002.5 横芝光町 谷城勝弘

(大場達之/天野誠)



B ホタルサイコ セリ科

2009	B
2017	B
2023	B

Bupleurum longiradiatum Turcz. var. *breviradiatum* F.Schm.

【種の特性】 中形の多年生草本。葉は単葉で互生し広披針形または長楕円形で、平行脈が目立ち下面は白っぽい。花は8～10月に咲き黄色。小散形花序に10～15花がつく。虫媒で、重力散布。[H] ススキ群綱。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国。

【県内の状況】 房総丘陵南部に分布し、時に海崖の草原にも見られるが、個体数は少ない。

【保護対策】 無用の採集を行わない。

【文献】 千植誌 2003 : 424, 414

【写真】 1942 清澄山 標本 : CBM BS-95660

(大場達之/天野誠)



B ミヤマチドメ ウコギ科

2009	
2017	C
2023	B

Hydrocotyle japonica Miq.

【種の特性】 小型の匍匐多年生草本。高さ、1 cm～4 cm。茎は糸状で地を這う。葉身は円形、深く5裂する。花は緑色で枝の先端に2個から4個付く。花期は、6月～11月。虫媒で、重力散布。常緑樹の林床に生育する。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

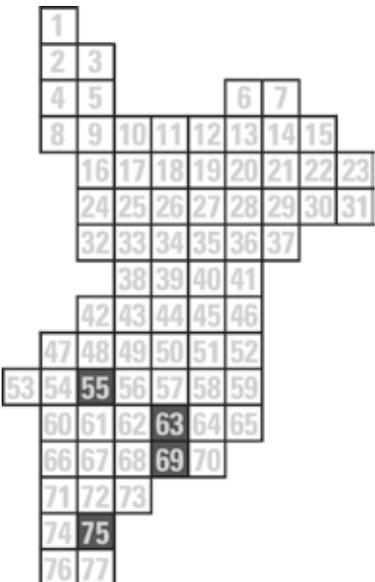
【県内の状況】 主に丘陵部の常緑樹林の林床に生育する

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:346 / 新千植誌 1975:395 / 千植誌 2003:421 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:381

【写真】 2011.9.15 君津市 標本 : CBM BS-316716

(天野誠)





C ヒメタデ 2003年9月6日 成田市
谷城勝弘 351ページ



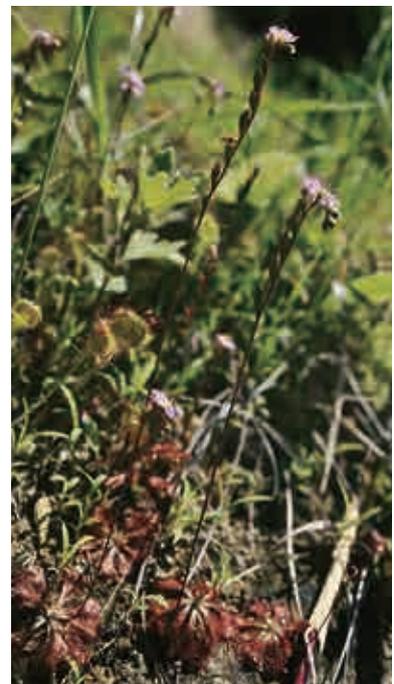
C ホソバイヌタデ 1993年9月
野田市 大場達之 351ページ



C フモツスミレ 1998年4月30日 清澄山
大場達之 345ページ



C スハマソウ 1999年3月 印西市 大場達之 343ページ



C コモウセンゴケ 市原市
平田和弘 350ページ



D モウセンゴケ 1999年7月22日 茂原市
大場達之 391ページ



D シャクジョウソウ 2004年6月12日 市川市
福田洋 ページ



C サツマイナモリ 2004年12月 鴨川市 谷城勝弘 356ページ

D ヒロハノカワラサイコ 2006年7月30日 印西市
大場達之 387ページ



D イチリンソウ 2007年4月22日
佐倉市 谷城勝弘 381ページ



C スナビキソウ 2001年5月 館山市
大場達之 360ページ



D ミゾコウジュ 1995年6月8日
佐原市 腰野文男 395ページ



D ホシクサ 2003年10月5日 長生村 谷城勝弘 377ページ



D ニッポンイヌノヒゲ 2006年9月30日 成田市
谷城勝弘 377ページ



D アマナ 佐倉市 1996年5月3日
大場達之 ページ366



C ウキシバ 1989年8月26日 千葉市 大場達之 342ページ



D ミクリ 成田市 2005年6月26日
谷城勝弘 380ページ



D イトイヌノヒゲ 2003年10月5日
長生村 谷城勝弘 377ページ



D オオアオスゲ 2005年5月3日 佐倉市
谷城勝弘 371ページ



D ジョウロウスゲ 2006年5月30日 我孫子市
谷城勝弘 370ページ



C ミヤマシラスゲ 2005年5月29日 東金市
谷城勝弘 337ページ



D ヒゲスゲ 2006年6月4日 銚子市 谷城勝弘 372ページ



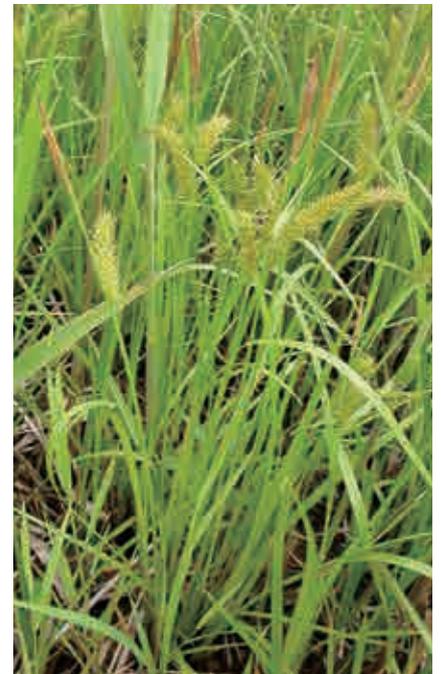
C タチスゲ 2006年5月14日 横芝光町 谷城勝弘 337ページ



D シオクグ 2006年5月14日 横芝光町 谷城勝弘 373ページ



C オオクグ 2004年5月8日 東庄町 谷城勝弘 338ページ



D オニナルコスゲ 2004年5月4日 多古光湿原 谷城勝弘 373ページ



C オオアゼテンツキ 2005年7月17日 成田市 谷城勝弘 339ページ



C ナガボテンツキ 2008年9月15日 東庄町 谷城勝弘 339ページ



C ビロードテンツキ 2004年9月4日 旭市 谷城勝弘 340ページ



D ヒトモトススキ 2007年9月9日 旭市
谷城勝弘 372ページ



C クロヤツシロラン 1998年10月 印西市
大場達之 334ページ



C ヒメアオガヤツリ 2004年10月2日 睦沢町
谷城勝弘 339ページ



D ツチアケビ (左:果実)1998年 市原市 平田和弘/
(右:花) 1996年6月30日 長柄町 福田洋 369ページ



D ササバギンラン 1998年4月 佐倉市
大場達之 369ページ



D ギンラン 2008年5月5日
千葉市 大場達之 368ページ



C サガミラン 1990年6月 千葉市
大場達之 334ページ



D サイハイラン 2008年5月 流山市 木村陽子 369ページ



D ナツエビネ 2002年8月28日 君津市 木村陽子 68ページ

C イブキ ヒノキ科

2009	C
2017	C
2023	C

Juniperus chinensis L.

【種の特性】常緑高木。海岸の崖、時に磯浜、稀に内陸の岩場に生育する。葉は鱗片状で対生。風媒で鳥散布。[N～M] ツルオオバマサキートベラ群集またはウバメガシ群集。

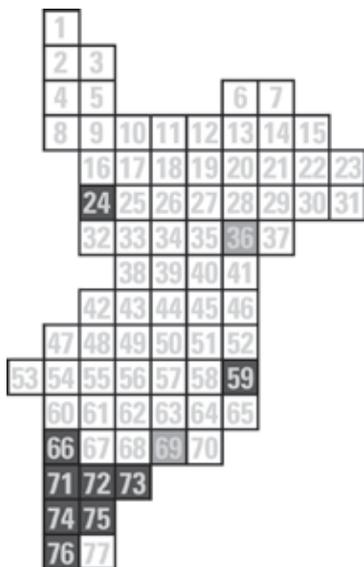
【分布】本州（北部以南）・四国・九州・琉球。朝鮮、中国。

【県内の状況】鋸南町、館山市、鴨川市の海岸に見られる。館山市、鋸南町にあることは地元では古くから知られてきたが、植物研究者には認識されていなかった。鴨川市に分布することも報告されている。

【保護対策】崖に生えるので人為の影響は比較的少ないが、古くから盆栽用として小形の株が採取されており、このような行為を行わないことが望ましい。庭園・街路などにしばしば植栽される（特に品種のカイズカイブキ）ので、それとの遺伝的交雑を防ぎ、千葉県の子体群の遺伝的特性を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：67,83.

(齊木健一)



C ヤナギスブタ トチカガミ科

2009	C
2017	C
2023	C

Blyxa japonica (Miq.) Maxim. ex Asch. & Grke.

【種の特性】沈水性の一年生草本。茎は5～20cm 伸長して枝を分かつ。葉は単葉で互生。花は8～10月に咲き柄が無く苞鞘につつまれて1個着き両性。水媒で水散布。[Th] ヒツジグサ群団。

【分布】本州～琉球。朝鮮、台湾、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】各地の水田および周辺の水路に見られるが、除草剤の使用などで、谷津の奥の水田などに生育が限られている。

【保護対策】除草剤などを使用しない生物多様性保存水田の実現を望みたい。

【文献】千植誌 2003：655,644.
(大場達之/天野誠)



C トウゴクヘラオモダカ オモダカ科

2009	C
2017	C
2023	C

Alisma rariflorum Sam.

【種の特性】ため池、水路に生える抽水性または湿地性の多年生草本。ヘラオモダカに似るが、葉身は小型楕円形で花弁は6～7mmで、大形である。花序の最下の柄は普通2本。花は午後1～2時頃から咲き始める（ヘラオモダカは午前中から咲く）。

【分布】本州・九州。

【県内の状況】県中～北部に点在する。清涼な絞り水で潤った台地斜面下の湿所で見出されることが多い。従来の記録が少ないのは、ヘラオモダカやサジオモダカと混同されてきたためと思われる。

【保護対策】生育適地となる湿地や水辺の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】薄葉満 1986 水草研究会会報(25):16-19 / 千植誌 2003：652,643.

(谷城勝弘)



C クロモ トチカガミ科

2009	C
2017	C
2023	C

Hydrilla verticillata (L.f.) Royle

【種の特性】沈水性の多年生草本。葉は単葉で4～8葉を輪生。葉は披針形で鋸歯があり、長さ1～2cm。花は8～10月に咲き、雌花は葉腋に着き、雄花は熟すると苞鞘から離れて水面に浮かぶ。水媒で水散布。[HH] ヒツジグサ群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。熱帯アジア、オーストラリア。

【県内の状況】印旛沼など既存の産地は水質悪化で絶滅したところが多く、山間地の湧水で涵養される池などに産地が限られている。水質の汚濁と共にオオカナダモに置き換わっているところが多い。

【保護対策】池・沼の水質を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003：654,661.
(大場達之/天野誠)



C トチカガミ トチカガミ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

【種の特性】 浮葉性の多年生草本。葉は単葉で互生し円形で光沢があり径4～8cm、下面に浮き袋がある。花は8～10月に水面に浮かんで咲き、果皮は3枚で白色。水媒あるいは虫媒で、水散布。[HH] ヒルムシロ群団。

【分布】 本州・四国・九州・琉球。熱帯アジア、オーストラリア。

【県内の状況】 主に九十九里低地や利根川水系の池・沼に見られたが著しく少なくなっている。

【保護対策】 水田周辺の水質保全。

【文献】 千植誌 2003：656,661。

(大場達之/天野誠)



C トリゲモ トチカガミ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

【種の特性】 池沼、ため池などの生える一年生の沈水植物。植物体は硬く、葉は1～2cmで外側に反り返る。雄ずいの葯は1室。通常は水深が10～20cmの場所に生育する。[HH] ヒツジグサ群団。

【分布】 本州・四国・九州・琉球。世界の温帯～熱帯。

【県内の状況】 近年は手賀沼畔、印旛沼畔の実験池などに少数個体の生育が確認されている。オオトリゲモと同所的に混生して生えることが多い。かつての湿田状態の稲作水田で比較的良好にみられた水田雑草

であるが、農業の近代化に伴い水田地帯では急減した。

【保護対策】 生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：671。

(谷城勝弘)



C セキショウモ トチカガミ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

【種の特性】 沈水性の多年生草本。地中に平滑で白色の地下茎がある。葉は線形で螺旋状によじれることが多い。葉の縁の鋸歯は低い。花は8～10月に咲き、雌花の花茎は長く、花の後で螺旋状に巻いて果実を水中に引き込む。雄花の花茎は長さ2～3cmで熟すると離脱して水面に浮かぶ。水媒で、水散布。ヒツジグサ群団。[HH]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。東アジア。

【県内の状況】 かつては水田周辺の用水路に普通であったが、現在で

はほとんど見られなくなっている。

【保護対策】 水田周辺の水質および水路の構造の改善。

【文献】 千植誌 2003：655,661。

(大場達之/天野誠)



C リュウノヒゲモ ヒルムシロ科	2009	B
	2017	C
	2023	C

【種の特性】 沈水性の多年生草本。湖沼、河川（やや海岸性要素が強い）に生える。葉は単葉で互生～対生。沈水葉は針状で、縁に鋸歯がない。花茎は5～20cmに達する。風媒で水散布。[HH] ヒルムシロ群団。

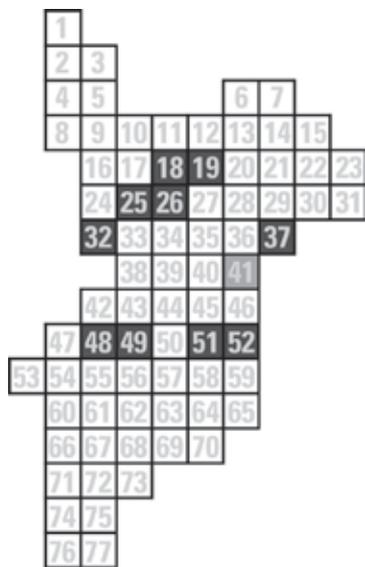
【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。世界に広く分布。

【県内の状況】 九十九里平野の記録がある。野田市、八千代市、印旛沼にも記録されるが、近年の確認は稀である。水質の汚濁や環境の改変によって消滅した生育地が多い。近年、印西市に大規模の群落が確認された。

【保護対策】 旧生育地や現生育地での生育可能な環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958：432 / 千植誌 1975：479 / 千植誌 2003：660,664 / 千植写真 2005：369。

(谷城勝弘)



C ソクシンラン キンコウカ科

2009	C
2017	D
2023	C

Aletris spicata (Thunb.) Franch.

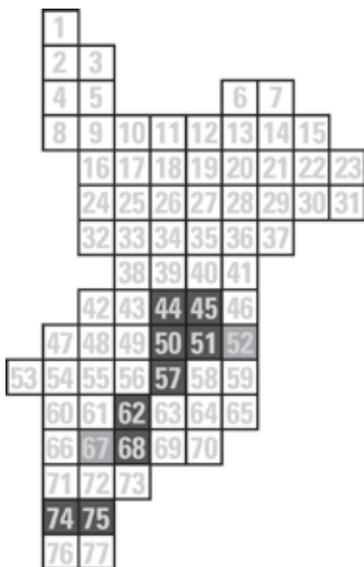
【種の特性】小型の多年生草本。葉は単葉で根元に多数が互生して広がる。花茎は直立して枝分かれせず、淡紅色を帯びた花を多数つける。虫媒で、風散布。[H] ススキ群綱。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国、フィリピン。

【県内の状況】湿った崖の斜面に見られることが多い。銚子市・長南町・長柄町、館山市などに多く見られ、よく草刈りの行われている谷津田の側壁にノグサ、コケリンドウなどと共に生えることが多い。

【保護対策】斜面草地の保存をはかる。

【文献】千植誌 2003 : 676, 677
(大場達之/天野誠)



C カタクリ ユリ科

2009	B
2017	B
2023	C

Erythronium japonicum Decne.

【種の特性】多年生草本。地下深くに細長い球根があり、若年個体では葉が1枚、開花株では2枚の葉を出汁、花茎の先に1個の花を下向きにつける。虫媒でアリ散布。[G]

【分布】北海道・本州・四国。朝鮮、中国、サハリン、プリモリア。

【県内の状況】段丘崖の北斜面下部に生える。県北部に分布が集中し、君津市の離れた分布が2ヶ所ある。

【保護対策】防護策などを設置しているところもあるが、鑑賞目的での盗採が著しく多く全滅寸前の場所もある。鑑賞目的での採集をしないことを徹底する。

【文献】千植誌 2003 : 688, 682
(大場達之/天野誠)



C カエデコロ ヤマノイモ科

2009	
2017	A
2023	C

Dioscorea quinqueloba Thunb.

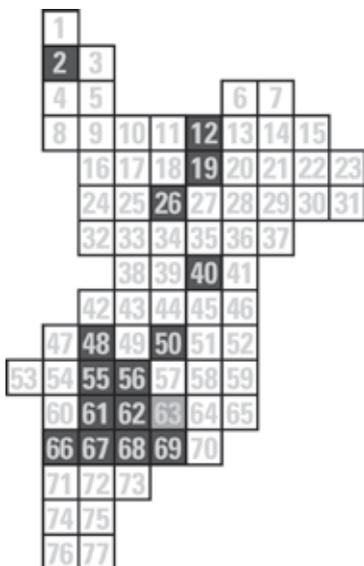
【種の特性】つる性の多年生草本。横走する根茎がある。葉は、3浅裂または掌状に5裂〜9裂する。乾燥させても黒変しない。雄花序は、上向き。種子の全縁に翼がある。虫媒で、風散布。花期は、7月〜8月。林縁に生育する。[G]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国。

【県内の状況】野田市で2012年8月4日に採集された標本 (CBM BS-353292) と鴨川市で2012年11月21日に採集された標本 (CBM BS-330881) と南房総市で2007年5月24日に採集された標本 (CBM BS-252081) と大多喜町で1955年8月11日に採集された標本 (CBM BS-2544002) がある。他に目視として、君津市、長南町、鋸南町、富津市、市原市、木更津市、千葉市、栄町に記録がある。

【保護対策】斜面草地の保存をはかる。

【文献】新千植誌 1975:447 / 千植誌 2003:701 / 改訂新版日本の野生植物 1 2016:150
(天野誠)



C コオニユリ ユリ科

2009	C
2017	C
2023	C

Lilium leichtliuii Hook.f. var. *tigrinum* (Regel) Nichols.

【種の特性】中型の多年生草本。湿地、水田の土手に見られることが多いが、ススキ草原にも見られ。海岸の崖にも生える。平坦地では直立するが、斜面では垂れて生える。葉は単葉で互生。花は夏に咲き橙赤色で紫黒色の斑点がある。花被片は強く反曲する。虫媒で風散布。オニユリに似ているが葉腋にムカゴはできない。ススキ群綱。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県内各地に点在する。花が著しいので採集されることが多く、どこでも個体数が少ない。

【保護対策】鑑賞目的での採集を禁止するべきである。

【文献】千植誌 2003 : 687, 681
(大場達之/天野誠)



C ツクシショウジョウバカマ シュロソウ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

Helonias breviscapa (Maxim.) N.Tanaka

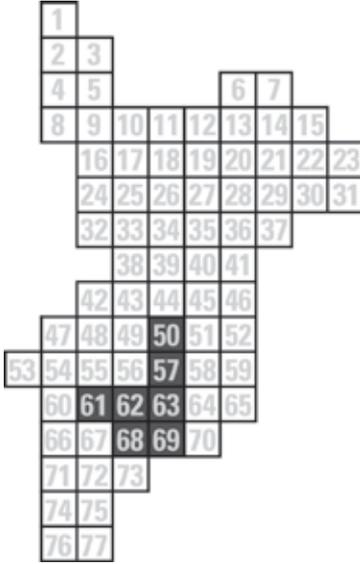
【種の特性】 小型の多年生草本。湿った川岸の崖に生える。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。ショウジョウバカマに似ているが、葉は薄く縁は波曲し、細鋸歯状の突起が並ぶ。花はわずかに紅色を帯びた白色。これまで千葉県でシロバナショウジョウバカマと呼ばれてきた。[G]

【分布】 本州（関東以西）・四国。

【県内の状況】 市原市から鴨川市までの房総丘陵に分布する。

【保護対策】 鑑賞目的での採集を禁止すべきである。

【文献】 N.Tanaka 1998 Journ. Jap. Bot. 73:111 / 千植誌 2003 : 676,678 (大場達之/天野誠)



C ナギラン ラン科	2009	B
	2017	B
	2023	C

Cymbidium lancifolium Hook.

【種の特性】 常緑多年生草本。照葉樹林の林床に生える。葉は単葉で、光沢のある2枚の葉をつける。花は夏の終わりに咲き、緑白色で唇弁に紅紫色の斑がある。虫媒で、風散布。[H]カクレミノースダジイ群目。
【分布】 本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国南部、インド、マレーシア。

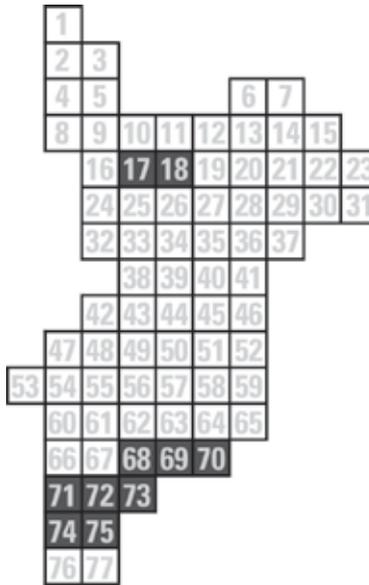
【県内の状況】 鴨川市、和田町などの記録があり、2007～2008年には館山市で観察されている。

【保護対策】 生育環境の自然林を良好な状態に保護するとともに、観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 浅野貞夫 1957 千葉県下ナギランの分布・採集と飼育。18(11) : 327 / 新千植誌 1975 : 442 / 千植誌 2003 : 922, 909.

【写真】 2006 館山市 大場達之

(大場達之/天野誠)



C ワニグチソウ キジカクシ科	2009	B
	2017	C
	2023	C

Polygonatum involucreatum (Franch. & Sav.) Maxim.

【種の特性】 小形の多年生草本。ナルコユリの類に似ているが、花序の基部に一对の苞葉がある点の特徴。花は苞葉に包まれて2個の花が咲く。結実した個体の報告は極めて少なく。増殖はもっぱら根茎の伸長分岐に依存していると考えられる。葉は単葉で互生。虫媒で鳥散布。[G]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、ウズリ。

【県内の状況】 県北部に分布が集中し、南限は市原市。クヌギ・コナラの二次林の減少と、管理の放棄で個体数は減少しつつあると考えられる。

【保護対策】 鑑賞目的での採集をしない。コナラ二次林の環境を保つ。

【文献】 千植誌 2003 : 674, 667

(大場達之/天野誠)



C マヤラン ラン科	2009	C
	2017	C
	2023	C

Cymbidium macrorhizon Lindl.

【種の特性】 多年生草本。林の中に生えるが土手の草地に生えた例も知られる。葉は無葉緑。地下に太い菌根が発達する。6～7月に開花するが、花茎が損なわれると花茎基部から新茎を発生し、夏の終わりから秋に咲くこともある。虫媒で、風散布。[G～H?]

【分布】 本州・四国・九州・琉球。中国、インド。

【県内の状況】 ほぼ全域から、かなり多くの記録があり、出現地に持続せず、突然現れて数年後に消滅することが普通である。

【保護対策】 種子は広域に散布され生育好適地に到達すると、数年の菌根茎発育後に開花して数年で消失する。開花株を保全し種子の散布が十分に行われるように配慮する。

【文献】 齊藤吉永 1963 千生誌 13(1) : 16-17 / 浅野貞夫 1971 植物採集ニュース 64 : 51 / 齊藤吉永 1973 植物採集ニュース 66 : 67 / 若名東一 1973 植物採集ニュース 66 : 67 / 橋本保・神田淳 1981 原色野生ラン : 185 / 柳川定春・高橋秀男・大場達之 1981 神奈川県のマヤラン類。神奈川自然誌資料 2 : 47-54 / 千植誌 2003 : 922, 909

(大場達之/天野誠)



C サガミラン ラン科

2009	C
2017	C
2023	C

Cymbidium macrorhizon Lindl. f. *aberrans* (Finet) Hid.takah. & Ohba

【種の特性】 多年生草本。葉は無葉緑。マヤランに似て花が白色で濃紅色の斑のないもの。別属あるいは別種とされたこともあるがマヤランと同一場所に生えることも多い。単なる白花品種にすぎないとする説と別種であるとする見解がある。虫媒で、風散布。[H]

【分布】 マヤランの分布域の中に点々と知られる。

【県内の状況】 大東岬近くの松林で採集されたものにダイトウラン (*Cymbidium aphrodite* Makino et F. Maekawa) の名を与えたが正式に発表されなかった。1990年6月に千葉県立中央博物館の構内のコナ



ラ林の林床にマヤランと並んで生えているのが発見された。その後千葉市の他地点、市原市、佐倉市などでも発見されている。

【保護対策】 1ヶ所に安定して生育するものではなく、保護は難しい。

【文献】 牧野富太郎 1950 図説普通植物検索表：291 / 柳川定春・高橋秀男・大場達之 1981 神奈川県のマヤラン類。神奈川自然誌資料 2：47-54 / 千植誌 2003：922,909

(大場達之 / 天野誠)

C タシロラン ラン科

2009	C
2017	C
2023	C

Epipogium roseum (D.Don) Lindl.

【種の特性】 多年生草本。地下に根茎を延ばし群生する。葉は無葉緑で鱗片状。花は6~7月、茎は高さ20~50cmで、花柄は細く、10~30個の白い花を垂れてつける。果実が開裂する時期でも花被片が残る。虫媒で、風散布。菌根性。腐植質の多い暗い照葉樹林などに生える。カクレミノースダジイ群目。[G]

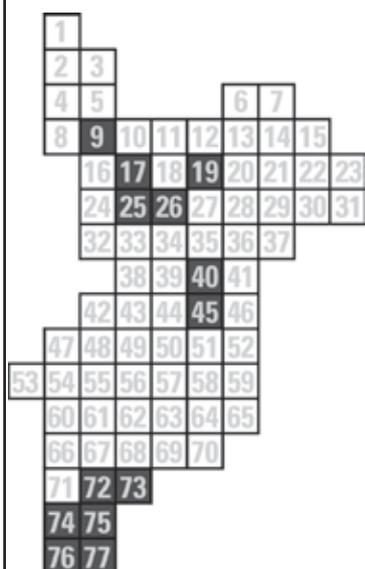
【分布】 本州（関東以西）・九州・琉球。台湾、中国、熱帯アジア、オーストラリア。

【県内の状況】 1995年に千葉市で発見し、その後、南房総市、大網白里市などで記録された。神奈川県でも1953年にはじめて発見され、気候の温暖化によって南方から分布が広がったと推定されている。

【保護対策】 このような分布が急拡大している植物の保護は、拡散の状態を綿密に追跡して、適時に対策を講ずることが必要。

【文献】 岩瀬徹・福田洋 1996 タシロラン (*Epipogium roseum*) が千葉市内に出現した。千生誌 45(2)：28 / 千植誌 2003：907,917

(大場達之 / 天野誠)



C クマガイソウ ラン科

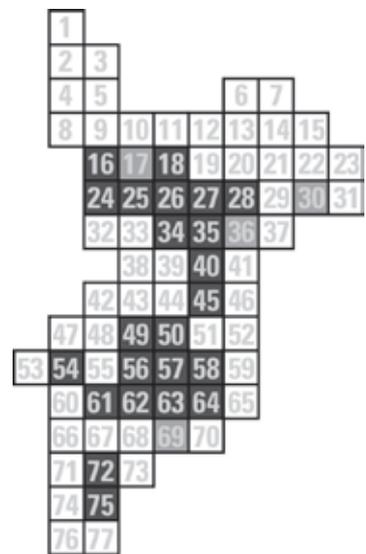
2009	B
2017	B
2023	C

Cypripedium japonicum Thunb.

【種の特性】 多年生草本。竹林、スギ林あるいはコナラ等の二次林に生える。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。地下茎を伸ばして群生することが多い。扇形で縦しわの目立つ葉を2枚対生につける。唇弁は袋状で大きく目立つ。[G] ブナ群綱。

【分布】 北海道（西部）・本州・四国・九州。中国。

【県内の状況】 かつては県全域に広く分布が知られ、旧成東町八幡台のスギ林の下に生えた大きな群落は県指定の天然記念物に指定されていた。しかしスギ植林の林地が、枝打ち、間伐などの管理が行われなくなったために、林内が暗くなり絶滅した。どこでも里山の管理が行われなくなり、林床の遷移が進んでクマガイソウは激減している。また観賞用の採取も無視できない。佐倉市、富里市、



印西市、横芝光町、市原市など多くのところで1990年以降に存在が確認されているが、どこも個体数が少なく開花に至らない貧弱な個体のみが記録されたところも多い。

【保護対策】 観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 興世里盛春・沼田真 1958 クマガイソウの群生地。千葉県文化財要：1-3 / 西田誠 1971 成東町クマガイソウ。千葉県天然記念物調査報告書：113117 / 岩瀬徹・小幡和男 1978-1980 千葉県指定天然記念物成東町クマガイソウ調査報告書I-III / 田中強 1983 八千代市少年自然の家のカタクリとクマガイソウものがたり。カタクリ研究 2：10-11 / 千植誌 2003：911,901

(大場達之 / 天野誠)

C クロヤツシロラン ラン科

2009	C
2017	C
2023	C

Gastrodia pubilabiata Sawa

【種の特性】 多年生草本。菌根性。竹林及びスギ植林の林床に群生することがある。葉は無葉緑で鱗片状。花は8~9月に落ち葉に半ば埋もれて咲き、黒褐色で平開し、花被片の外面にはアキザキヤツシロランに見られるようなイボ状突起はない。花後、花柄が高さ30~50cmほどに急伸長するが、冬には崩れて残らない。果実・花柄は黒色を帯びる。果序の分岐点は地中にある。虫媒で、風散布。[G]

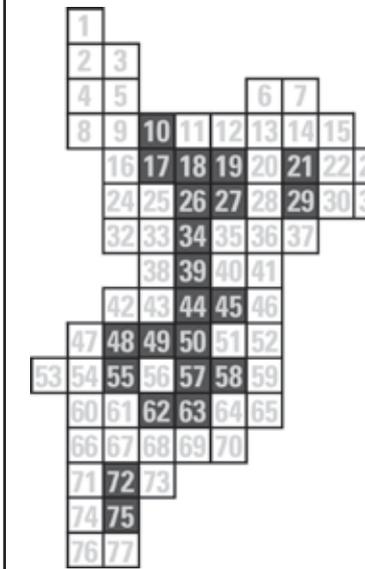
【分布】 本州（関東以西）・四国。

【県内の状況】 栄町から館山市まで広く分布する。果実期に竹林（特にモウソウチク林）を探すと比較的容易に発見できる。

【保護対策】 生育地を良好な状態に保つ。

【文献】 Sawa, Y. (1980) *Spontaneous orchids in the intermediate zone of Kochi Prefecture*. in Res. Rep. Kochi Univ. 29: 65 / 大野景徳・竹内美亀 (1997) クロヤツシロランが八千代市に産する。千植誌資料 10：72 / 千植誌 2003：917,906

(大場達之 / 天野誠)



C アキザキヤツシロラン ラン科	2009	B
	2017	B
	2023	C

【種の特性】 小形の多年生草本。菌根性モウソウチク林およびスギ林に見られ、時にクロヤツシロランと混生する。葉は無葉緑。花は9月中旬から下旬。半ば落ち葉に埋もれて咲く。花被片の外面にはヒキガエルの皮膚に似たイボ状の凹凸があり、花は平開せず、先端のみが開く。花後、果柄は30～40cmほど伸張し、果実はワラ色を帯びる。花序は地表より上で分岐する。虫媒で、風散布。[G]

【分布】 本州・四国・九州。

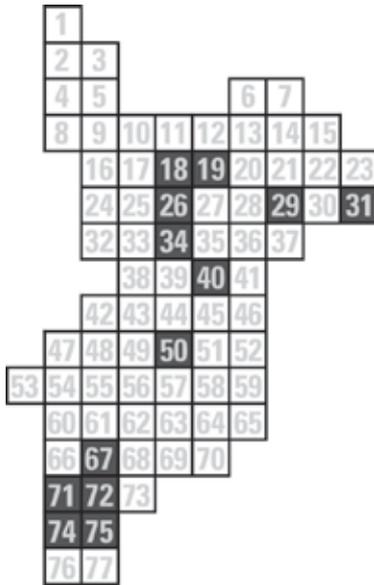
【県内の状況】 クロヤツシロランとほぼ同じ範囲に分布するが、やや少ない。

【保護対策】 自生地の環境を保つ。

【文献】 津山尚・杉野孝雄 1966 日本産オニノヤガラ属雑記(3). 植物研究雑誌 41: 339-346 / 千植誌 2003: 917, 906

【写真】 2008.10.5 佐倉市 和田求司

(大場達之/天野誠)



C アケボノシュスラン ラン科	2009	B
	2017	B
	2023	C

【種の特性】 小形の多年生草本。照葉樹林の湿ったところに生える。茎は地表を長く這って分岐し、群れて生える。葉は単葉で互生、中肋沿いが白い。花は9～10月に5～6花が集まって咲き、萼片は淡紅褐色で、内花被片は白色、虫媒で、風散布。[H]

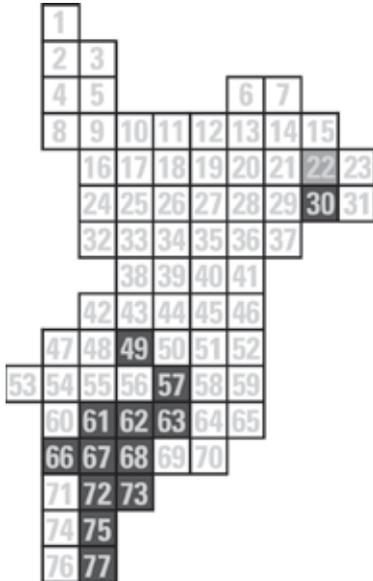
【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】 市原市以南に分布するが、例外的に銚子市に産地が知られている。

【保護対策】 観賞用目的の採取をしない。

【文献】 千植誌 2003: 918, 907

(大場達之/天野誠)



C クロムヨウラン ラン科	2009	B
	2017	C
	2023	C

【種の特性】 小形の多年生草本。菌根性で無葉。照葉樹林の林床に生える。花は8月に咲き淡黄白色で唇弁は紅紫色の部分がある。茎は直立しわずかに分岐し、細く堅く、花後は黒色となり、翌年までたっている。花の終わった後の茎に黒色の開出した毛状の物が見られることがあるが、これは寄生菌によるものだという。虫媒で、風散布。[G]

【分布】 本州・九州。

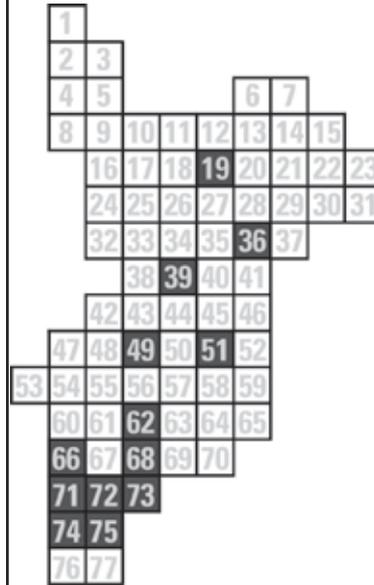
【県内の状況】 主として市原市以南の房総丘陵から記録されているが、横芝光町からの記録もある。

【保護対策】 鑑賞目的などの採取を行わない。

【文献】 千植誌 2003: 916, 906

【写真】 (左) 1997 旧横芝町、(右) 1985 神奈川県 大場達之

(大場達之/天野誠)



C ハリガネスゲ カヤツリグサ科	2009	
	2017	C
	2023	C

【種の特性】 多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。風媒で水散布。マツバスゲ *C. biwensis* Franch. に似るが、果胞は2.5～3.0mmで大きく、熟して開出する。根は乾燥してやや白色を帯びる。[H]

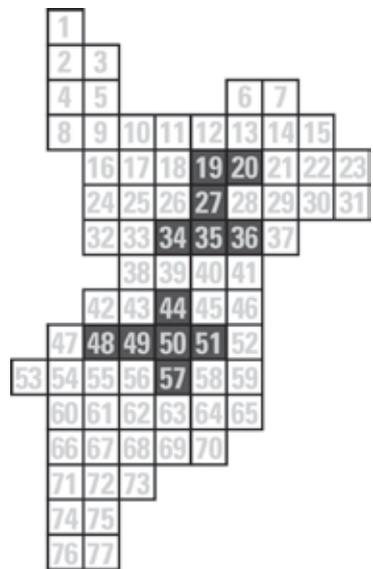
【分布】 北海道、本州、九州。朝鮮、中国、インド、オーストラリア。

【県内の状況】 県中北部、九十九里平野南部で確認されている。多古町次浦の湿地では、1990年代までマツバスゲ、エゾツリスゲ *C. papulosa* Boott などと混生して多数個体が生育したが、過度の刈り取りにより消滅した。

【保護対策】 湧水源付近の環境を維持、保全する。

【文献】 谷城勝弘 1991 調査会目録: 169 / 谷城勝弘 1992 調査会目録: 165 / 岩瀬・谷城・小野沢 1993 栗山川中流部の湿原. 千葉県自然環境保全学術調査報告書: 7-56 / 調査会目録: 250 / 折目 1994 調査会目録: 110-111 / 調査会目録: 116 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物. 新版千葉県の生物: 37-50 / 千植誌 2003: 819

(谷城勝弘)



C ナルコスゲ カヤツリグサ科

2009	C
2017	C
2023	C

Carex curvicollis Franch. & Sav.

【種の特性】多年生草本。溪流のほとりに生える。葉は単葉で互生。風媒で水散布。[H]

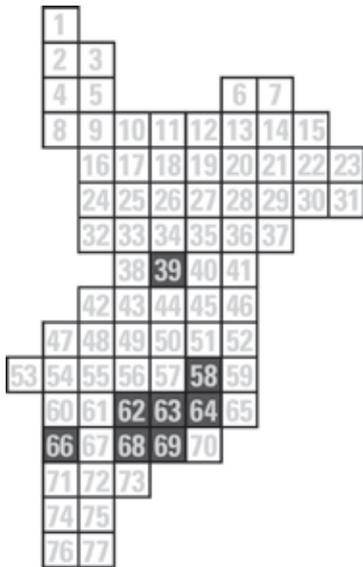
【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】県南部の丘陵地の川沿いに生育する。小櫃川上流、養老川上流域には広範囲に群落が形成されている。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 409 / 大場ほか 1994 市原市の維管束植物・市原市自然環境実態調査報告書 : 322 / 谷城勝弘 1996 調査会 目録 : 118 / 千植誌 2003 : 832

(谷城勝弘)



C ヤガミスゲ カヤツリグサ科

2009	C
2017	D
2023	C

Carex maackii Maxim.

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。風媒で水散布。葉幅 2 ~ 3mm、小穂は接近し、雌雄性。果胞は、卵形、扁平で広い翼があり、3.5mm。柱頭 2。[H]

【分布】北海道・本州・九州。朝鮮、中国、アムール。

【県内の状況】利根川河畔、河川敷に点在するほか、同水系周辺の湿地にもまれに生育する。

【保護対策】定期的な刈り取りなどによる管理を行い、群落の遷移を抑えることが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 411 / 新千植誌 1975 : 457 / 千植誌 2003 : 829,822

(谷城勝弘)



C ウマスゲ カヤツリグサ科

2009	B
2017	B
2023	C

Carex idzuroei Franch. & Sav.

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。果胞は乾くと光沢を失う。風媒で、水散布。[HH]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。中国。

【県内の状況】利根川流域や九十九里平野の低湿地の河川敷に点在する。近年、低湿地の土地改変が著しく、既知生育地の多くは消滅している。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 410 / 千植誌 1975 : 456 / 千植誌 2003 : 832,823 / 千植写真 2005 : 370

(谷城勝弘)



C ヌカスゲ カヤツリグサ科

2009	C
2017	D
2023	C

Carex mitrata Franch.

【種の特性】多年生草本。林縁または草酸性。葉は単葉で互生。基部は光沢のある褐色で繊維に分解しない。雌鱗片に芒がない。風媒で、重力散布。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国。朝鮮、台湾。

【県内の状況】地域のフロラ調査における多数の記録があるが、ノゲヌカスゲ (var. aristata Ohwi) や他のアオスゲ類の誤同定が多い。酒々井町、市川市の確認標本がある。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 411 / 新千植誌 1975 : 457 / 千植誌 2003 : 838,826

(谷城勝弘)



要保護 C

C タチスゲ カヤツリグサ科	2009	C
	2017	D
	2023	C

Carex maculata Boott

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。全草粉緑色で柔らかい。小穂はほぼ直立する。風媒で、水散布。[H]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮南部、中国、インド。

【県内の状況】九十九里平野中～南部の湿地に点在する。横芝光町、茂原市～長生村の湿地帯には複数の群生地があったが、湿地の放置によるヨシ優占群落への遷移の進行や土地の改変によって適的な環境が急減した。

【保護対策】生育地を良好に維持・保全していくことが望ましい。

【文献】千植誌 1958：411 / 新千植誌 1975：457 / 谷城・細川・伊藤・小野沢・山田・野口・久保田 1996 乾草沼・千葉県自然環境保全学術調査報告書 / 千植誌 2003：843,846 / 谷城勝弘 2004 栗山川中流部の湿原の植物 千葉県自然環境保全学術調査報告書 千葉県環境生活部自然保護課 7-29

(谷城勝弘)



C オタルスゲ カヤツリグサ科	2009	C
	2017	D
	2023	C

Carex otaruensis Franch.

【種の特性】多年生草本。森林の陰湿地または斜面湿地性。葉は単葉で互生。テクリスゲに似るが、基部は赤色を帯びることもある。果胞は長さ2.5～3mm、葉幅は3～5mm。風媒で、水散布。[H]

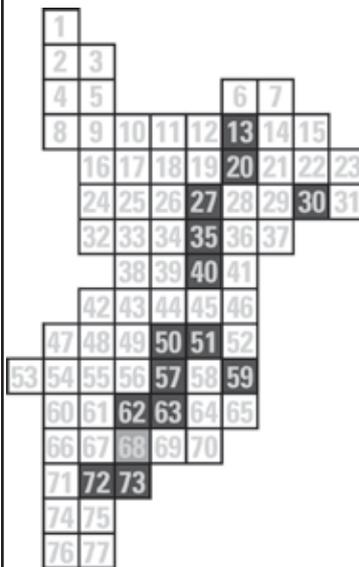
【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】県内では初め成田市で確認された(1990.5.3 CBM BS-135131)。本県北東部や中南部にも点在する。山地性要素の種であり、県内では冷涼な環境を反映した分布特性がある。個体数は少ない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1991 調査会目録：166 / 谷城勝弘 1992 調査会目録：164 / 谷城勝弘 1994 調査会目録：121 / 谷城勝弘 1995 調査会目録：114 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物・新版千葉県の生物：37-50 / 谷城勝弘 1997 大栄町のカヤツリグサ科植物・大栄町史自然編：80-97 / 千植誌 2003：830.

(谷城勝弘)



C ミヤマシラスゲ カヤツリグサ科	2009	C
	2017	D
	2023	C

Carex olivacea Boott var. *angustior* Kük.

【種の特性】多年生草本。森林性(湿所)または湿地性。葉は単葉で互生。シラスゲに似るが、葉は幅広く8～15mm。小穂は直立し、ほとんど下垂しない。果胞は著しく密接してつき、短い嘴がある。果胞は乾くと黒変する。風媒で、重力散布。[HH]

【分布】本州・四国・九州。

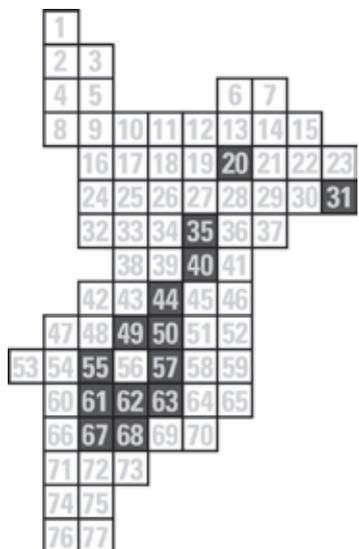
【県内の状況】県南部の丘陵地の谷川沿いの湿地や県北部の台地斜面下の湧水源に点在する。古くは鴨川市嶺岡山で採集された標本がある(1956.5.27 CBM BS-166192)。かつての記録にはシラスゲ *C. doniana* を誤

同定したものが多く含まれる。

【保護対策】生育環境を良好に維持する。

【文献】谷城勝弘 1992 調査会目録：165 / 谷城 1994 調査会目録：121 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物・新版千葉県の生物：37-50 / 谷城勝弘 1997 袖ヶ浦市の水辺と湿地の植物。袖ヶ浦の植物：22-44 / 谷城勝弘 1997 大栄町のカヤツリグサ科植物・大栄町史自然編：80-97 / 千植誌 2003：833,823

(谷城勝弘)



C イトアオスゲ カヤツリグサ科	2009	
	2017	C
	2023	C

Carex puberula Boott

【種の特性】小型の多年生草本。高さ、10～30cm。匍匐枝は出さない。基部の鞘は淡色。雄小穂は短く、細い。雌小穂の花の数は少なく、数個。雌花穎の芒は短い。花期は、4月～6月。風媒で重力散布。山地の草地に生育する。[H]

【分布】北海道・本州・九州。朝鮮。

【県内の状況】主に内陸の丘陵地の草地に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2013:838 / 日本カヤツリグサ科植物図譜 2011 260-261.

(天野誠)



C シラコスゲ カヤツリグサ科

2009	
2017	D
2023	C

Carex rhizopoda Maxim.

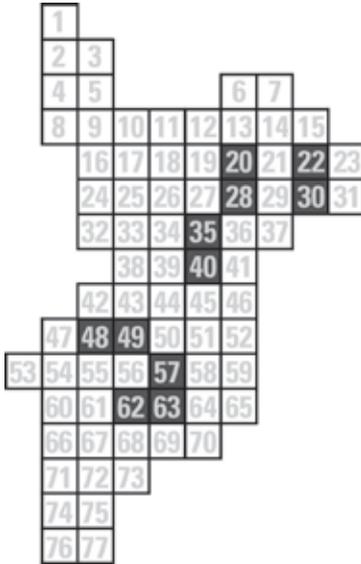
【種の特性】多年生草本。山間の水湿地に生える。葉は単葉で互生。風媒で水散布。小穂は1個で頂生する。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】丘陵地の谷間や谷津奥の水湿地、湧水源付近に生育する。個体数は少なく、広範囲に及ぶ群生地はない。県北部では特に生育地の荒廃によって減少傾向が著しい。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 : 458 / 谷城勝弘 1997 大栄町のカヤツリグサ科植物。大栄町史自然編 : 80-97 / 千植誌 2003 : 818,803 (谷城勝弘)



C オオクグ カヤツリグサ科

2009	
2017	D
2023	C

Carex rugulosa Kük.

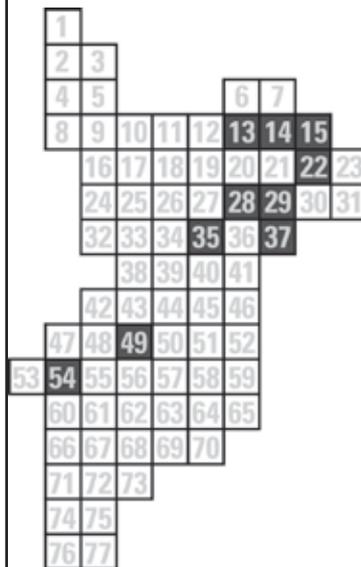
【種の特性】多年生草本。湿地に生育する。葉は単葉で互生。根茎あり。果胞は大きく、コルク質。シオクグに似るが、葉幅は4~10mmで幅広く裏面は粉緑色。海水の出入りする河畔、風媒で、水散布。[HH]

【分布】北海道・本州・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県内では初め一宮川で発見された。現在、同地では確認できない。香取市から東庄町にかけての河畔に広範な群落がある。本来は汽水域を生育の中心地とするが、多古光原や袖ヶ浦市など海岸から離れて生育することがある。このような特異な分布は海進期の遺存と判断され、本種のもつ広範囲の塩分適応性を示唆する。

【保護対策】湿地環境を良好に維持する。

【文献】千植誌 1958 : 412 / 浅野貞夫 1963 採集ニュース 6 : 21 / 新千植誌 1975 : 458 / 谷城勝弘 1987 千葉県自然環境保全地域等適地調報 : 265-291 / 岩瀬・谷城・小野沢 1993 千葉県自然環境保全学術調報 : 7-56 / 谷城勝弘 1997 袖ヶ浦の植物 : 22-44 / 千植誌 2003 : 854,847 / 谷城勝弘 2005 千生誌 55(1) : 9-16 (谷城勝弘)



C ヤブスゲ カヤツリグサ科

2009	B
2017	C
2023	C

Carex rochebrunii Franch. & Sav.

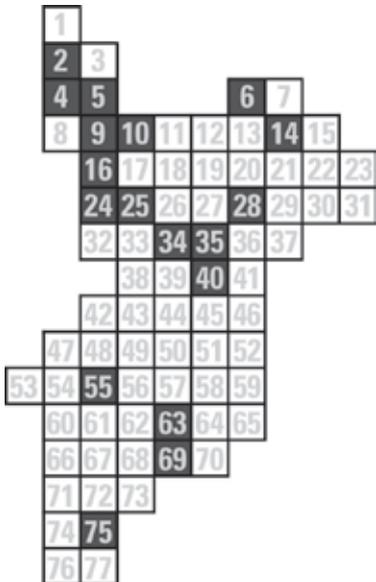
【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。マスクサに似るが、果胞は細長く、翼は狭い。柱頭2。低地、風媒で、重力散布。[H]

【分布】本州・四国。台湾、マレーシア。

【県内の状況】地域のフロラ調査などに記録があるが、マスクサを誤同定したものが多く含まれる。標本は我孫子市、千葉市、佐倉市がある。我孫子市の2個体は消滅した。

【保護対策】生育地の湿地環境を良好に維持することが望ましい。旧生育地では埋土種子からの発生が期待できるので、改変を加えないことが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 412 / 千植誌 1975 : 459 / 千葉県誌 2003 : 829,804 / 千植写真 2005 : 370 (谷城勝弘)



C シロジュズスゲ カヤツリグサ科

2009	C
2017	D
2023	C

Carex subdita Ohwi var. *kijozumiensis* (Akiyama) Akiyama

【種の特性】多年生草本。森林性。葉は単葉で互生。アオヒエスゲ (var. *subdita*) に似るが瘦果は楕円形で先端は短柱状、途中に小盤体があるか、または柱状の先端がやや杯状に広がる。瘦果の中部にくぼみはない。風媒で、重力散布。[H] カクレミノースダジイ群目。

【分布】本州 (千葉、静岡、愛知)。

【県内の状況】清澄山麓で採集した標本を基に1931年10月に発表した種類である。分布は清澄山系、高宕山系付近に限られ、やや乾いた尾根を中心に生育する。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 413 / 大場達之・谷城勝弘・木村陽子 1995 シロジュズスゲの周辺。千植誌資料 4 : 11-16 / 千植誌 2003 : 841,826 (谷城勝弘)



C	ヒメアオガヤツリ	カヤツリグサ科	2009	C
			2017	D
			2023	C

Cyperus extremiorientalis Ohwi

【種の特性】一年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。小穂の鱗片は2列につき、果実の縁は鋭形で翼状にならないのでシロガヤツリと区別される。風媒で、水散布。[Th]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】利根川や九十九里平野に点在する。県中南部の干上がったため池には大群生する所もある。生育地ではシロガヤツリ *C. pacificus*、アオガヤツリ *C. nipponicus* などの他のアオガヤツリ類と

しばしば混生する。九十九里平野、茂原市、長生村を中心とする地域では稲刈り後の水田や休耕田に多産する。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 413 / 新千植誌 1975 : 459 / 千植誌 2003 : 896

(谷城勝弘)



C	ミズハナビ	カヤツリグサ科	2009	
			2017	C
			2023	C

Cyperus tenuispica Steud.

【種の特性】小型の多年生草本。茎は叢生する。葉は線形。小穂は、数個、掌状に付く。鱗片は、赤味を帯び、先端はほぼ切形。風媒で、重力散布。花期は、7月～11月。湿地に生育する。[H]

【分布】本州、四国、九州。

【県内の状況】主に北総から南総東部の湿地に生育する。

【保護対策】生育地の湿地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:414 / 千植誌 2003:896 / 改訂新版日本の野生植物

1 2016 34

(天野誠)



C	オオアゼテンツキ	カヤツリグサ科	2009	C
			2017	D
			2023	C

Fimbristylis bisumbellata (Forsk.) Bubani

【種の特性】多年生草本。湿地性葉は単葉で互生。メアゼテンツキ *F. velata* Franch. に似るが、鱗片は光沢のある褐色で、背側には緑色の竜骨がある。果実は 0.5～0.7 mm で白黄色、表面に格子状の紋がある。風媒で、重力散布。[Th]

【分布】本州（千葉県）・琉球。地中海沿岸、熱帯アジア、オーストラリア。

【県内の状況】市原市、印旛沼周辺、利根川河川敷、袖ヶ浦市、市川市、船橋市で確認されている。造成後間もない湿地に発生することから、帰化（移入）種と類似した性質を備えるが、すでに市原市では 1954 年に採集しており、古くから土着していた。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1990 オオアゼテンツキ. 植物研究雑誌 65(12) : 6-7 / 谷城勝弘 1991 千葉県のオオアゼテンツキ スゲの会会報 2 : 9-12 / 谷城勝弘 1995 印旛沼を中心とする地域のテンツキ属植物. 印旛沼—自然と文化— : 19-24 / 岩瀬徹 1996 調査会目録 : 2 / 川名興 1996 調査会目録 : 36 / 千植誌 2003 : 865,869

(谷城勝弘)



C	ナガボテンツキ	カヤツリグサ科	2009	C
			2017	C
			2023	C

Fimbristylis longispica Steud.

【種の特性】多年生草本。湿地性。(汽水域または海岸域)。葉は単葉で互生。70～80cm。花序は2～4回分岐し、小穂は熟して黄褐色。果実の表面は四角形の編み目模様。風媒で、水散布。[H]

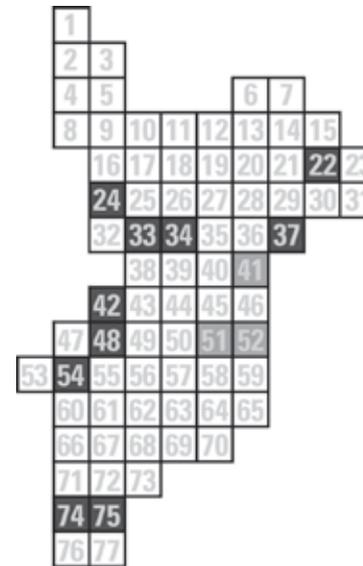
【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】富津岬及び一宮川、栗山川、江戸川の河口などに記録があるが、近年は確認されていない。湿地の環境変化や遷移の進行によって消滅した可能性が高い。1990年に利根川河口堰直下の河畔でまとまった群落が発見された。小櫃川河口の湿地には少数個体が生育を維持している。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、再生を促すことも考えられる。現生育地は環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 416 / 新千植誌 1975 : 461 / 藤平・岩瀬ほか 1996 小櫃川河口域。千葉県自然環境保全学術調報 : 111-208 / 千植誌 2003 : 865,870 / 谷城勝弘 2005 千生誌 55(1): 9-16

(谷城勝弘)



C ビロードテンツキ カヤツリグサ科 2009 C
2017 C
Fimbristylis sericea (Poir.) R.Br. 2023 C

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で、風散布。茎と葉に細毛を密生。熟した果実は褐色～黒褐色で表面は平滑。海岸性（海辺の砂地）。[H]

【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。

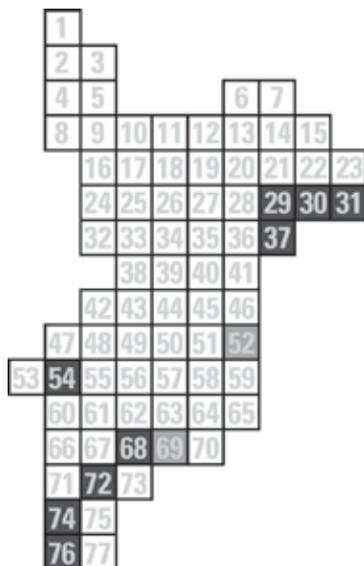
【県内の状況】銚子市、九十九里平野沿岸、館山市、富津市以南の内房沿岸に複数の記録があり、標本が得られている。九十九里平野沿岸で

は護岸工事に伴う砂浜の改変で本種の生育に適した環境が急減している。海岸域の環境変化が進行する中で減少傾向の顕著な種類である。

【保護対策】安定した砂丘群落を維持するよう配慮することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：416 / 新千植誌 1975：461 / 千植誌 2003：863,852

(谷城勝弘)



C イヌイ イグサ科 2009
2017 C
Juncus fauriei H.Lév. & Vaniot 2023 C

【種の特性】中型の多年生草本。根茎は太く直径2～4mm。茎は20～40cm、平たくて、振れる。葉は葉身を欠く。雄しべは、6本。果実は、長卵形で先は尖る。長さ4～5mm。花期は、5月～7月。虫媒で、風散布。海岸砂地や山間の湿地に生育する。[H]

【分布】北海道・本州・九州。千島、サハリン。

【県内の状況】主に九十九里海岸および木更津市から富津市にかけての海岸に分布する。山武市から市原市の山間の湿地にも生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:406 / 新千植誌 1975:452 / 千植誌 2013:708 / 改訂新版日本の野生植物 1 2016:289

(天野誠)



C クロヒロハイヌノヒゲ ホシクサ科 2009 C
2017 D
Eriocaulon robustius (Maxim.) Makino var. *nigrum* Satake 2023 C

【種の特性】一年生草本。湿地性(水田、休耕田を含む)。葉は単葉で束生。虫媒で水散布。ヒロハイヌノヒゲに似るが花苞や萼の上部が黒色を帯びる。[Th]

【分布】本州。

【県内の状況】ヒロハイヌノヒゲと同所的に生育し、少数個体が混生して確認されることが多い。本種の生育可能な湿地環境は激減している。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】折目 1993 調査会目録：152 / 折目 1993 富里の植物：112 / 千植誌 2003：711,700

(谷城勝弘)



C ヤマスズメノヒエ イグサ科 2009
2017 C
Luzula multiflora (Ehrh.) Lejeune 2023 C

【種の特性】中型の多年生草本。叢生する。茎の断面は三角形。高さ20～40cm。茎葉は2～3個、長さ5～10cm。花序は3から10個の小花序を付ける。雄しべは、6本。花期は、5月～7月。虫媒で、重力散布。山間の草地に生育する。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、シベリヤ、北アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、オーストラリア。

【県内の状況】主に北総台地に分布する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 406 / 新千植誌 1975 452 / 千植誌 2013 708 / 改訂新版日本の野生植物 1 2016:293

(天野誠)



C ヌカボシソウ イグサ科	2009	
	2017	C
	2023	C

Luzula plumosa E.Mey.

【種の特性】 小型の多年生草本。叢生する。茎の断面は三角形。高さ 15～25cm。茎葉は 2～3 個、長さ 2～6 cm。花序に 3～14 個の花を付ける。雄しべは、6 本。花期は、4 月～5 月。虫媒で、重力散布。山間の草地に生育する。[H]

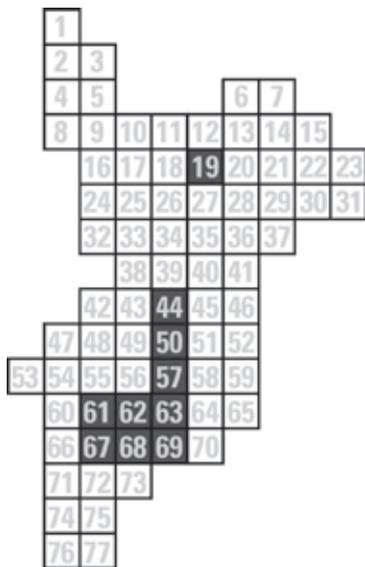
【分布】 北海道・本州・四国・九州。中国、インド、ネパール。

【県内の状況】 主に市原市から鴨川市にかけての丘陵地に分布する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:406 / 新千植誌 1975:452 / 千植誌 2013:708 / 改訂新版日本の野生植物 1 2016:292

(天野誠)



C ハイチゴザサ イネ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

Isachne nipponensis Ohwi

【種の特性】 多年生草本。這った稈の節部から発根し、チゴザサに比べて稈高 5～10 cm と低く、小穂も小さく、小穂の柄に腺が無い。苞穎の背の上半部には長毛がまばらにある。花期は 9～10 月。

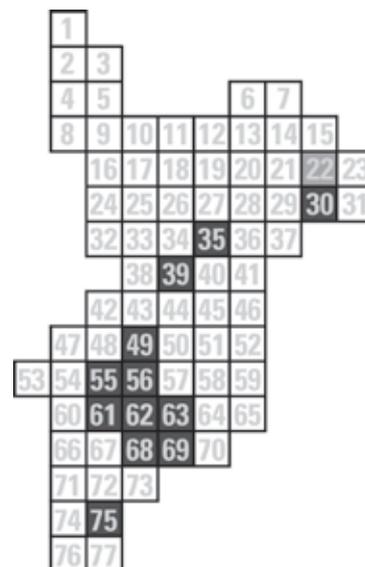
【分布】 本州（関東以西）・四国・九州・琉球。朝鮮南部、台湾、中国。

【県内の状況】 清澄、上総丘陵など暖地の湿った林中や路傍。あるところには群生するので、個体数は多い。

【保護対策】 山中の湿地の保全。

【文献】 千植誌 2003 : 762, 752

(木村陽子/天野誠 追補)



C ヒメコヌカグサ イネ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

Agrostis valvata Steud.

【種の特性】 多年生草本。根茎は発達しない。谷津田の水湿地にみられる。花序は半輪生でまばらにみえる。小穂は淡緑色で、赤紫色に染まることがある。小花が苞穎より突き出しているのが特徴。花期は 5～6 月。[H]

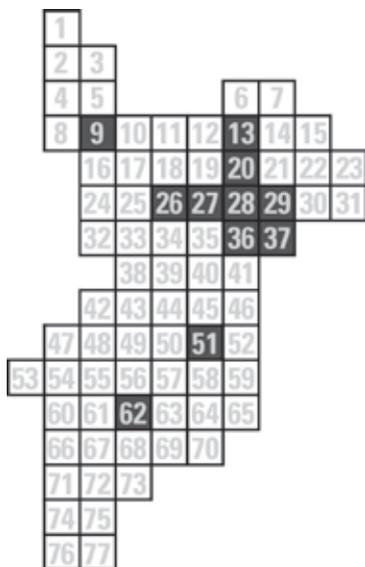
【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】 全国的にみて少ないが、千葉県では北西部の湿地またはコナラの二次林に点々とみられる。

【保護対策】 生育環境である湿地の保全。

【文献】 千植誌 2003:732, 733

(木村陽子)



C ササクサ イネ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

Lophatherum gracile Brongn.

【種の特性】 小型の多年生草本。風媒で付着散布。ササの葉を思わせる葉には平行脈のほか、横脈が顕著。熟すと逆刺のある芒が衣服などに引っかかり運ばれる。

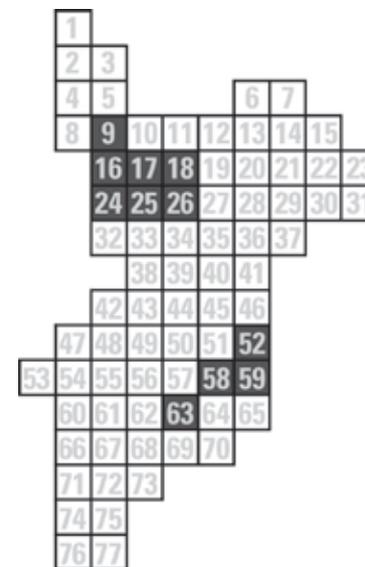
【分布】 本州（茨城県以西）・四国・九州・琉球。朝鮮南部、台湾、東南アジア。

【県内の状況】 主として北部のアカマツ林や疎林の林床に生える。

【保護対策】 下刈りの行なわれる明るい林を良好に維持・管理することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 715, 717

(木村陽子)



C ツルヨシ イネ科

2009	
2017	C
2023	C

Phragmites japonicus Steud.

【種の特 性】 大型の多年生草本。高さ 1.5～3m。長い地上性の匍匐枝があ季、節に毛が生える。第一包穎は護穎の半分より長い。小穂は 8 から 12mm。花期は、8月～10月。風媒で、風散布。川岸に生育する。ツルヨシ群団。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、ウスリー。

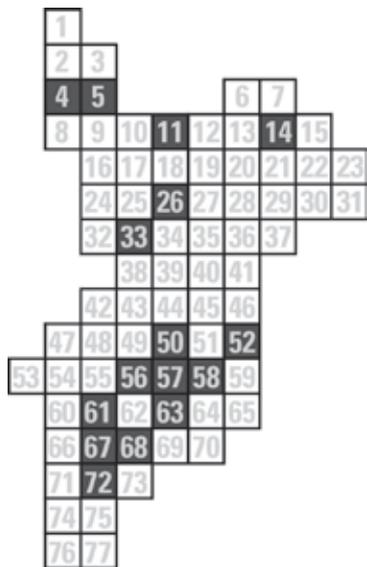
【県内の状況】 千葉県各地に散在する。柏市で 2004 年 7 月 30 日に採集された標本 (CBM BS-371598) と佐倉市で 1996 年 12 月 1 日に採集

された標本 (CBM BS-117667) と富津市で 1997 年 10 月 30 日に採集された標本 (CBM BS-147226) などがある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千新千植誌 1975:470 / 千植誌 2013:808 / 改訂新版日本の野生植物 2 2016:74

(天野誠)



C シブヤザサ イネ科

2009	
2017	C
2023	C

Pleiblastus shibuyanans Makino ex Nakai

【種の特 性】 大型の竹笹類。高さ 2～3m。稈鞘は無毛。葉鞘も同様。葉身は披針形で、黄緑色、先端は下垂しない。葉の両面は無毛。風媒で、重力散布。海岸付近の林縁に生育する。[M]

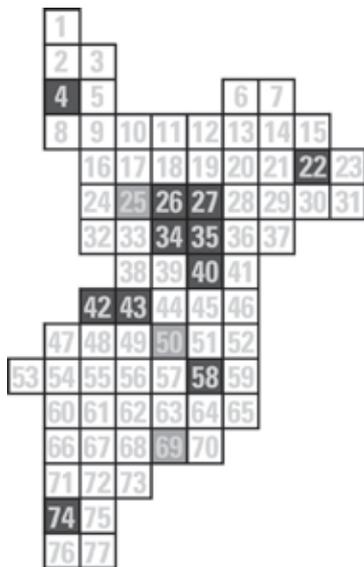
【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 主に南総の海岸付近に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975:474 / 千植誌 2013:808 / 日本タケ科植物図鑑 1996:173

(天野誠)



C セイタカヨシ イネ科

2009	C
2017	C
2023	C

Phragmites karka (Retz.) Trin. ex Steud.

【種の特 性】 大型の多年生草本。稈は高さ 2～4 m にもなり、太さも 2 cm ほどになり木化して硬くなる。葉先が垂れないで上を向く。稈の途中の節から枝を出す。花序も 30～70cm と大形。小穂の長さは 5～8mm で、ヨシより小さい。花期はヨシより遅く 9～12 月。

【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】 北部には多いが、南部からの記録は少ない。川岸、河川敷に生育。近年、産地の確認が増えている。

【保護対策】 河原・川岸を自然状態に保つなど生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 743, 736

(木村陽子)



C ウキシバ イネ科

2009	C
2017	C
2023	C

Pseudoraphis ukishiba Ohwi

【種の特 性】 多年生草本。水湿地や池に生育。風媒で水散布。稈は水中に伸びるが、花序は空気中に出し成熟すると下に曲がり水没するイネ科では珍しい水草。

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮南部、中国。

【県内の状況】 県内に散在する。市川市・柏市から北総を経て長生郡、大多喜町に至る。1996 年には印西市、大多喜町、袖ヶ浦市で記録されている。千葉県立中央博物館の舟田池改修 (1989 年) の際に埋土種子

から発芽したと思われるものが数 10m² 四方に広がり開花結実したことがある。

【保護対策】 池や沼などの生育環境を良好に維持。

【文献】 千植誌 2003 : 770, 776

(木村陽子)



C アズマザサ イネ科	2009	
	2017	C
	2023	C

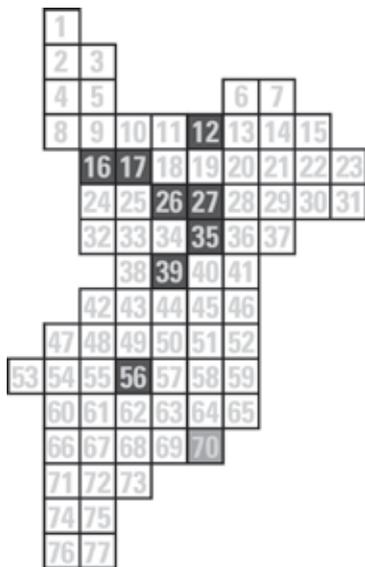
Sasaella ramose (Makino) Makino

【種の特性】 中型の竹笹類。高さ1~2m。上方で枝を分枝する。枝は1節から1~3本出る。稈鞘は無毛。葉鞘も同様。葉身は長楕円状披針形で、先端は急に尖る。葉の下面は軟毛が密生する。風媒で、重力散布。林縁に密生する。[N]

【分布】 本州。

【県内の状況】 主に北総の丘陵地に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。



【文献】 千植誌 1958:428 / 新千植誌 1975:474 / 千植誌 2003:807 / 日本タケ科植物図鑑 1996:145 / 改訂新版日本の野生植物 2 2016:37

(天野誠)

C マツモ マツモ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

Ceratophyllum demersum L.

【種の特性】 沈水性の多年生草本。茎の先端は冬に切れ落ちて沈み冬芽として越冬する。茎はもろく折れやすい。葉は羽状複葉で一節に5~12葉を輪生。葉は長さ1.5~2.5cmで、裂片は2又状に分岐し先端は針状に尖る。花は雌雄異花で葉腋に1個ずつつく。水媒で水散布。ヒルムシロ群綱。[HH]

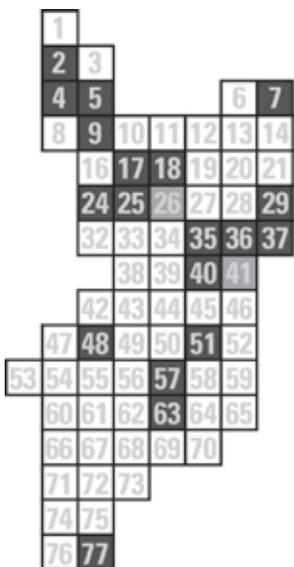
【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。世界に広く分布。

【県内の状況】 利根川水系と九十九里低地の池・沼に知られていたが印旛沼などでは水質悪化で絶滅している。市原市、君津市などの報告もある。

【保護対策】 自然的な池・沼の水質を良好に保つ。

【文献】 千植誌 2003 : 203,209

(大場達之/天野誠)



C コセリバオウレン キンポウゲ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

Coptis japonica (Thunb.) Makino

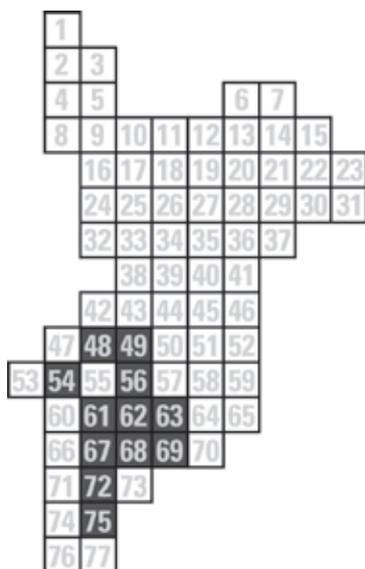
【種の特性】 小型の常緑多年生草本。葉は3出複葉で互生。虫媒で重力散布。これまでセリバオウレンとされてきたものであるが、葉の切れこみ方からするとコセリバオウレンにあたる。千葉県にはオウレンも見られるが古い時代における薬用栽培の名残と考えられる。最近になって、県南部のものはコセリバオウレン、県北部のものはセリバオウレンであることが判明した。[H] シキミーモミ群集など。

【分布】 本州 (太平洋側)。

【県内の状況】 清澄山系を中心とする比較的高い標高の丘陵地に生育する。

【保護対策】 生育地の森林環境を良好に維持すると同時に、シカの食害を回避する方策を検討することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 186, 194 (大場達之/谷城勝弘 追補)



C スハマソウ キンポウゲ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

Hepatica nobilis Schreb. var. *japonica* Nakai f. *variegata* (Makino) Nakai

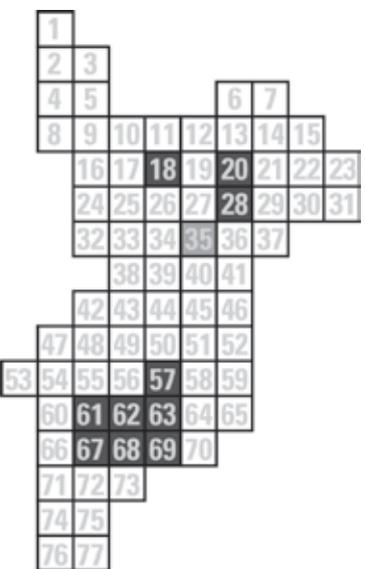
【種の特性】 小型の多年生草本。葉は3裂し根生。虫媒で重力散布。低地遺存ブナ帯要素。[G]

【分布】 本州。

【県内の状況】 県内では房総丘陵と下総台地に隔離遺存する。房総丘陵では乾いた尾根沿いのコナラ林などに生え、萼片が白色または淡紅色であるが、下総台地では谷津のやや湿った北斜面に生え、白色花のみである。

【保護対策】 生育地を保全し、観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 浅野貞夫 1977 千葉県産はミスミソウかスハマソウか. 植物採集ニュース 94 : 121 / 千植誌 2003 : 188, 196 (大場達之/谷城勝弘 追補)



C コキツネノボタン キンポウゲ科

2009	A
2017	B
2023	C

Ranunculus chinensis Bunge

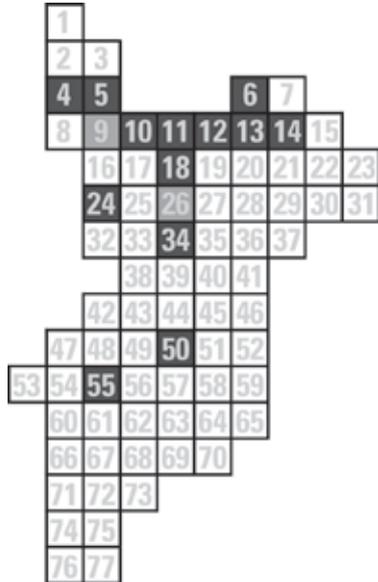
【種の特性】中～やや大型の多年生草本または一年生草本。葉は互生し3出状に裂ける。

【分布】本州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー、中央アジア。

【県内の状況】利根川水系の冠水草原にまれではなかったが、河川の氾濫原の開発・利用によって著しく少なくなっている。一方水鳥によって種子が散布されるので、県立中央博物館の舟田池の湿地のようなどころに突然出現したりする。[H]。

【保護対策】河川氾濫原を自然に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 198,206
(大場達之/谷城勝弘 追補)



C モクレイシ ニシキギ科

2009	C
2017	D
2023	C

Microtropis japonica (Franch. & Sav.) Hallier f.

【種の特性】常緑低木。葉は単葉で対生。虫媒で鳥散布。[N] カクレミノースダジイ群目

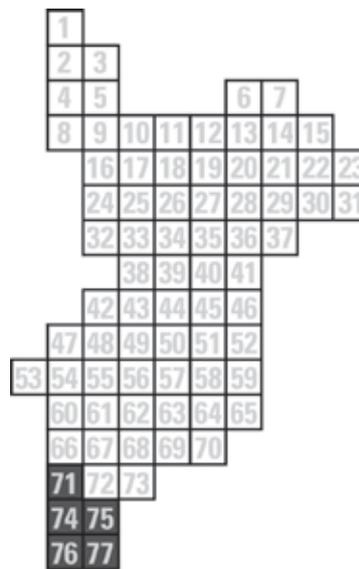
【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。

【県内の状況】照葉樹林に生え、安房丘陵に多く分布する。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 353, 358

(大場達之/天野誠)



C ムカゴネコノメ ユキノシタ科

2009	C
2017	C
2023	C

Chrysosplenium maximowiczii Franch. & Sav.

【種の特性】夏緑性の小型多年生草本。高さ3～7cm。湿った谷の日陰の腐植質の多いところに生える。地上をほう長い走出枝には、花茎とほぼ同じ葉を付ける。地下の走出枝の先には長さ3～10mmの紡錘形の繁殖体をつける。茎は四稜形で十字対生。葉は扇形で、円鋸歯が2対あり、基部は楔形で、長い柄がある。長さ8～18mm。花序は頂生し、二出集散、苞は大きく目立つ。花は4数性で、萼片は広楕円形、円頭、長さ1.5～2mm、緑色。花弁はない。雄しべは8本。雌しべは2心皮で離生。果実は蒴果で、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で重力散布。[H]

【分布】本州（関東地方南部および東海地方の低地に特産する）。

【県内の状況】南総の主に川沿いに分布する。

【保護対策】生育地の環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 255,263
(大場達之/天野誠 追補)



C ノウルシ トウダイグサ科

2009	C
2017	C
2023	C

Euphorbia adenochlora C.Morren & Decne.

【種の特性】中型の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で重力散布。[G] オギーヨシ群団。

【分布】北海道・本州・九州。

【県内の状況】利根川、江戸川水系に自生が認められる。

【保護対策】河川氾濫原の保全を図る必要がある。

【文献】千植誌 2003 : 328, 333

(大場達之/天野誠)



C ミズオトギリ オトギリソウ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

【種の特性】 多年生草本。湿地性（池沼や湿原）。地下茎は匍匐する。茎は円柱形。葉は全面に明点がある。花序は短く、葉腋や柄の先につく。花弁は紫紅色を帯びる。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール。

【県内の状況】 県内複数箇所に分布するが、少ない。多古光湿原に多産する。

【保護対策】 本種の他に複数の希少種を多産する多古光湿原を保護指定地とし、刈り取り管理を継続して小型草本の生育を維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 217,221

(谷城勝弘)



C アツバスマレ スミレ科	2009	
	2017	C
	2023	C

Viola mandshurica W.Becker var. *triangularis* (Franch. & Sav.) M.Mizush.

【種の特性】 小型の多年生草本。高さ、5～10cm。葉は根生する。葉が厚く、表面に光沢がある。花は径2cm、紫色。花期は、3月～4月。虫媒で、自動散布。海岸の砂浜や岩場などに生育する。[H]

【分布】 本州（関東南部、伊豆半島、伊豆諸島）。

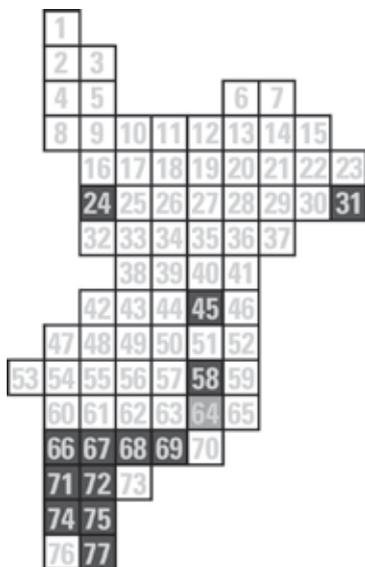
【県内の状況】 主に安房地方および銚子の海岸に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:352 / 新千植誌 1975:396 / 千植誌 2003:379 / 改訂新版日本の野生植物 3

2016:217

(天野誠)



C フモトスマレ スミレ科	2009	C
	2017	D
	2023	C

【種の特性】 小型の多年生草本。葉は暗緑色～濃緑色で裏面は紫色を帯びる。葉の表面基部に疎らに開出毛がある。唇弁は上弁や側弁より小さめで紫色のすじがある。虫媒で虫散布。[H] ケヤキ群団。

【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 全域に点在するが、特に清澄山周辺に多い。林内や林縁、ときに草地に生える。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 379,385

(谷城勝弘)



C タヌキマメ マメ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

Crotalaria sessiliflora L.

【種の特性】 中型の一年生草本。茎は直立し高さ20～70cm。葉は単葉で互生。花は7～9月に咲き、腋生の総状の花序に密につき花弁は萼片より短く青紫色。虫媒で重力散布。果実は長毛が密布した萼におおわれているのが特徴である。[Th]

【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】 県内ほぼ全域に点々と分布する。日当たりの良い草地の中の小裸地や道ばたに生え、湿原の周辺にも見られる。

【保護対策】 自然的な草道を保全する。

【文献】 千植誌 2003 : 299,304

(遠藤泰彦/大場達之 追補)



C オオバナスビトハギ マメ科	2009	C
	2017	C
	<i>Hylodesmum laxum</i> (DC.) H. Ohashi & R. R. Mill 2023 C	

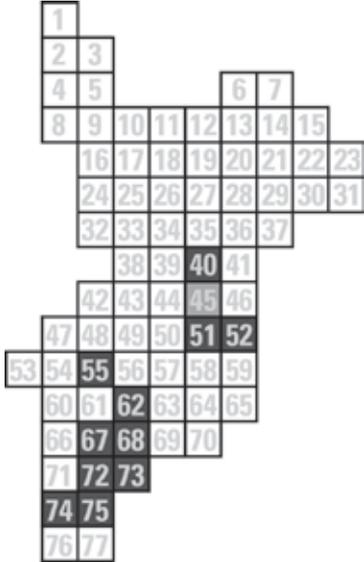
【種の特性】常緑多年生草本で茎の基部は木質。湿ったスダジイなどの林下あるいは林縁に生育する。

葉は3出複葉で茎下部に集まってつく。花は8～10月に咲き、花序は総状で長さ10～30cmで軸は細い。花は淡紅紫色。果実にかぎ毛がある。虫媒で付着散布。[H] 別名サイコクトキワヤブハギ。

【分布】本州（関東南部以西）・四国・九州。台湾、インド、マレーシア。

【県内の状況】県中央部から南部に点々と分布する。

【文献】千植誌 2003 : 297, 306
(遠藤泰彦/大場達之 追補)



C ウスバラセイタソウ イラクサ科	2009	
	2017	C
	<i>Boehmeria tenuifolia</i> Satake 2023 C	

【種の特性】大型の多年生草本。高さ、50～150cm。葉は卵形から卵状楕円形で、鋭角の鋸歯を持つ。花期は、7月～9月。重力散布。林縁の道端に生育する。[H]

【分布】本州。

【県内の状況】主に南総の丘陵地や海岸付近に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 130

(天野誠)



C イヌハギ マメ科	2009	B
	2017	C
	<i>Lespedeza tomentosa</i> (Thunb.) Siebold ex Maxim. 2023 C	

【種の特性】夏緑半低木。茎は高さ80～150cmで黄褐色の毛が密にある。葉は3出複葉で互生。花は7～9月に咲き、白い花を長い総状花序につける。開放花と閉鎖花をつける。虫媒で鳥散布。[H～Ch]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、インド、ヒマラヤ。

【県内の状況】県北部を中心に点々と川原、草地、道端、造成地などに見られる。館山市でも記録されている。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 296, 305.

(遠藤泰彦/大場達之 追補)



C キミズ イラクサ科	2009	C
	2017	C
	<i>Pellionia scabra</i> Benth. 2023 C	

【種の特性】常緑多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。千葉県のものキミズではなく、茎が木化しないのでキミズモドキ *Pellionia japonica* Hatus. であるとする見解がある。[Ch ?]

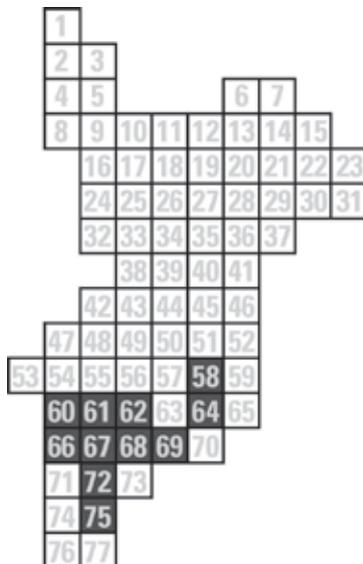
【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国。

【県内の状況】房総丘陵と安房丘陵に群れて生える。

【保護対策】自生環境を保全する（周辺で何らかの自然変行為があつても、キミズの存続に支障のない範囲にとどめる）。

【文献】千植誌 2003 : 126, 123

(大場達之/天野誠)



C カシワ ブナ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

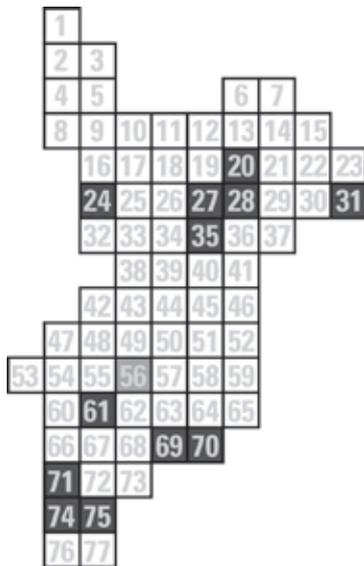
【種の特性】夏緑高木。北海道では砂丘や火山灰地などに見られるが、千葉県ではシイ・カシ帯の海岸の崖などにも生える。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。[N～M] ブナ群目。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】海岸近くの崖、稜線などに点々と見られる。県北部では植栽されたものと自生との見分けが難しい。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003：111, 108
(大場達之/天野誠)



C ツクバネガシ ブナ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

【種の特性】常緑高木。葉は単葉で互生。葉は広披針形で、葉柄は短く、全縁または先端部に少数の鋸歯がある。風媒で重力散布。[MM] シラカシーウラジロガシ群目。

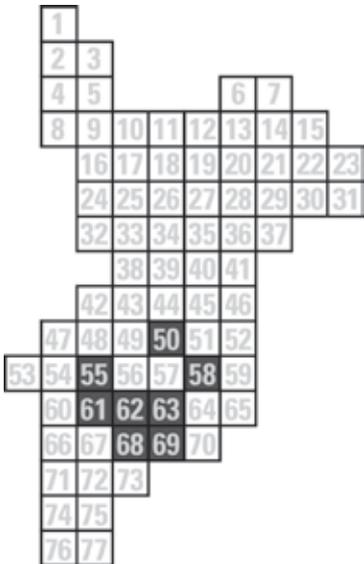
【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵南部に分布するが、鴨川低地以南には記録がない。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003：112, 117

(大場達之/天野誠)



C ミズマツバ ミソハギ科	2009	
	2017	C
	2023	C

【種の特性】小型の一年生草本。茎は地をはい、分枝して、高さ3～10cm。葉は線形で、3、4枚輪生する。花は葉腋に1個付く。萼片三角形で5枚、花弁はない。果実は球形。花期は、8月～10月。虫媒で、風散布。水田や湿地に生育する。ヒルムシロ群綱。[Th]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、フィリピン、インド、西アジア、アフリカ、中央アメリカ。

【県内の状況】主に北総と南総の平野の水田に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:349 / 新千植誌 1975:394 / 千植誌 2003:392 / 改訂新版日本の野生植物 3 2016:259

(天野誠)



C ミズキンバイ アカバナ科	2009	B
	2017	B
	2023	C

【種の特性】高さ30～50cmの夏緑の多年生草本。主として海岸近くの明るい水湿地に生育する。地下茎で繁殖する。茎の基部はしばしば匍匐し、不定根を伸ばす。葉は楕円形で、円頭、互生、基部は楔形で、短い葉柄がある。葉は全縁で、無毛。花は上部の葉腋に単生する。花は通常5数性で、萼片は披針形で長さ約10mm、花弁は、広倒卵形で円頭、長さ11～14mm。果実は蒴果で、円筒形、果時に萼片が残る。上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で、水散布。[HH]

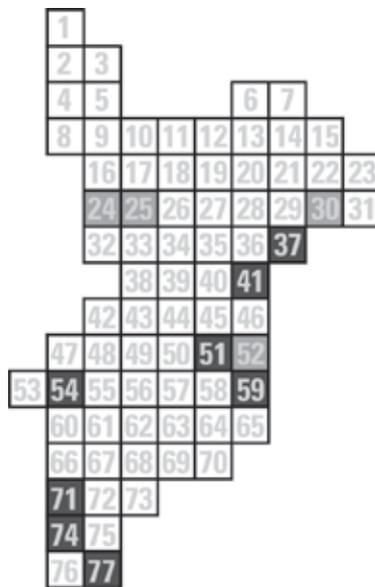
【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾。

【県内の状況】九十九里平野や房総半島南端部に分布するが、かつては東京湾側の平地にも分布した。

【保護対策】湿地の保全。

【文献】千植誌 2003：395, 398

(天野誠)



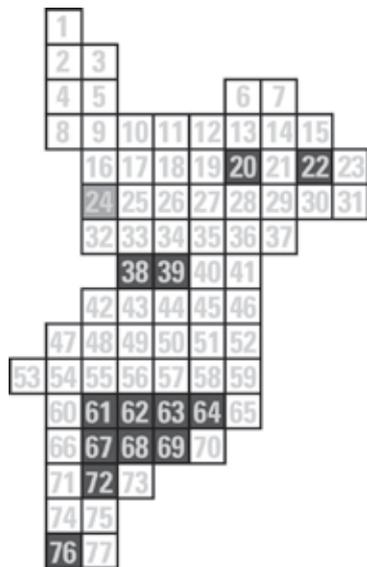
C フユザンショウ ミカン科

2009	C
2017	C
2023	C

Zanthoxylum armatum DC. var. *subtrifoliatum* (Franch.) Kitam.

【種の特性】 夏緑低木。葉は羽状複葉で互生。虫媒で重力散布。[N]
【分布】 本州（関東以西）・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国。
【県内の状況】 房総丘陵に自生するが、開花結実するような株は少ない。
【保護対策】 自生環境の保全。
【文献】 千植誌 2003 : 341, 336

(大場達之/天野誠)



C マルバコンロンソウ アブラナ科

2009	B
2017	B
2023	C

Cardamine tanakae Franch. & Sav. ex Maxim.

【種の特性】 小形の多年生草本。葉は羽状複葉で根際および茎下部に集まってつき羽状複葉、白い毛がある。花は4~5月。白色。虫媒で自散布。[H] 低地遺存ブナ帯要素。
【分布】 本州・四国・九州。
【県内の状況】 房総丘陵の沢沿いの湿って肥沃な林に生えるが少ない。
【保護対策】 稀な生物が集まって生活する沢沿いの環境空間の体系的保全方を練るべきである。
【文献】 千植誌 2003 : 247, 243

(大場達之/天野誠)



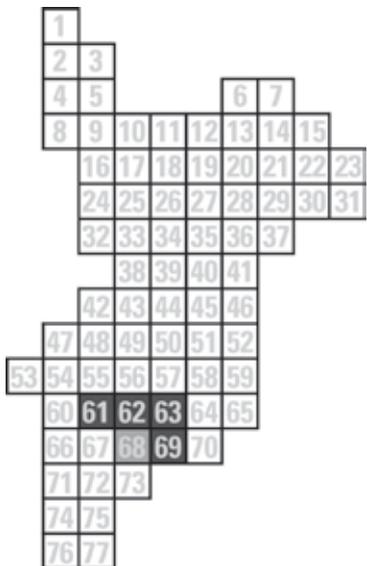
C チドリノキ ムクロジ科

2009	C
2017	C
2023	C

Acer carpinifolium Siebold & Zucc.

【種の特性】 夏緑中高木。葉は3出複葉で対生。虫媒で風散布。低地遺存ブナ帯要素。[M] サワグルミ群団。
【分布】 本州・四国・九州。
【県内の状況】 清澄山、高岩山、市原市などの報告がある。公園・街路などに植えられることもあるが、指定は自生個体のみである。
【保護対策】 自生地の環境保全。
【文献】 千植誌 2003 : 347, 339

(大場達之/天野誠)



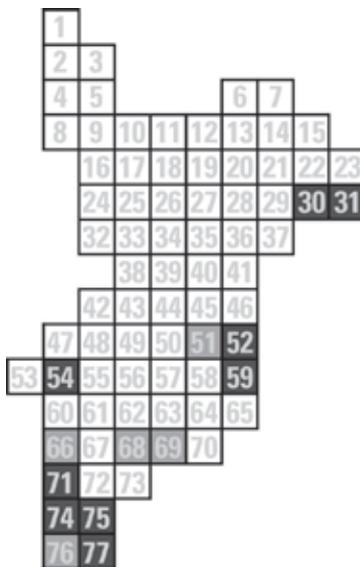
C ハマハタザオ アブラナ科

2009	C
2017	C
2023	C

Arabis stelleri DC. var. *japonica* (A.Gray) F.Schmidt

【種の特性】 小型の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で重力散布。ハマハコベ-ハマニンニク群目。[H]
【分布】 北海道・本州・四国・九州。サハリン、朝鮮、アムール。
【県内の状況】 砂浜に生える植物で九十九里には多かったが海岸の改変で少なくなっている。館山市にもある。
【保護対策】 自然な砂浜を汀線からクロマツ林まで植生の配置を残して保全する。
【文献】 千植誌 2003 : 236, 239

(大場達之/天野誠)



要保護
C

C イヌナズナ アブラナ科	2009	
	2017	C
	2023	C

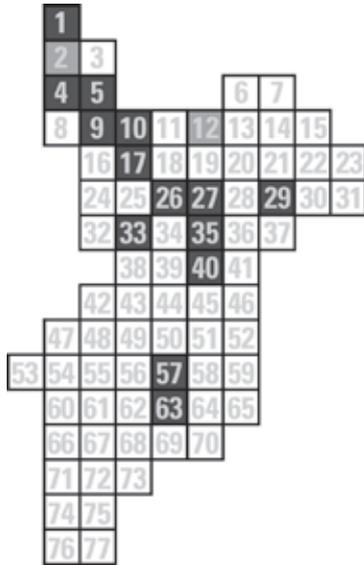
Draba nemorosa L.

【種の特性】 小型の一年生草本。高さ 10～30cm。茎は 1 本か基部で分枝する。葉は、狭卵形で、星状毛がある。長さ 10～30mm。花は黄色。長い柄の先に長楕円形の短角果が付く。虫媒で、重力散布。花期は、4 月～5 月。乾いた道端や河川敷に生育する。[Th]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。北半球。

【県内の状況】 主に県北西部と南部の丘陵に分布する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。



【文献】 新千植誌 1975:418 / 千植誌 2003:236 / 改訂新版日本の野生植物 3 2017:61 (天野誠)

C コガンピ ジンチョウゲ科	2009	B
	2017	C
	2023	C

Wikstroemia gampi (Siebold & Zucc.) Maxim.

【種の特性】 夏緑小低木。葉は単葉で互生し、白みを帯びた緑色。花は 7～9 月に咲き、花冠は筒状で先端は 4 裂し、薄く紅を帯びた白色。虫媒で重力散布。ススキ群綱。[Ch?]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】 乾いたススキ草原などに生え、かつては広く見られたが現在は稀である。

【保護対策】 半自然草原を保全する。

【文献】 千植誌 2003 : 373,364 (大場達之/天野誠)



C シナノキ アオイ科	2009	C
	2017	D
	2023	C

Tilia japonica (Miq.) Simonkai

【種の特性】 夏緑高木。ブナ帯の夏緑林を構成する高木で岩場などにも見られるが千葉県ではシイ・カシ帯に生える。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。[MM] ブナ群綱。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】 房総丘陵の急斜面または尾根筋などの夏緑林に見られるほか、県北部低地の林にも生える。県北の一部産地のは逸出の可能性がある。南部では清澄山系、高岩山系、鋸山系及び大多喜町で採

集されているほか、県北では柏市、成田市、富里市などから記録がある。

【保護対策】 生育地である森林の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975 : 398 / 千植誌 2003 : 368,361

(大場達之/天野誠)



C ヤドリギ ヤドリギ科	2009	
	2017	C
	2023	C

Viscum album L. subsp. *cloratum* Komar.

【種の特性】 小型の常緑性半寄生植物。雌雄異株。ケヤキやエノキやサクラに寄生する。枝は二叉分枝し、2つの葉を付ける。葉は肉厚で、長楕円形。花は枝先に数個付ける。液果は丸く通常クリーム色。キレンジャクなどの鳥が食べて、種子を散布する。花期は、3 月。鳥媒で、鳥散布。[E]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】 主に北総と南総の平野の樹上に寄生する。

【保護対策】 寄生樹を良好に維持することが望ましい。

【文献】 植誌 1958:389 / 新千植誌 :1975 434 / 千植誌 2003 :132 / 改訂新版日本の野生植物 4 2017:78

(天野誠)



C ホソバノハマアカザ ヒユ科

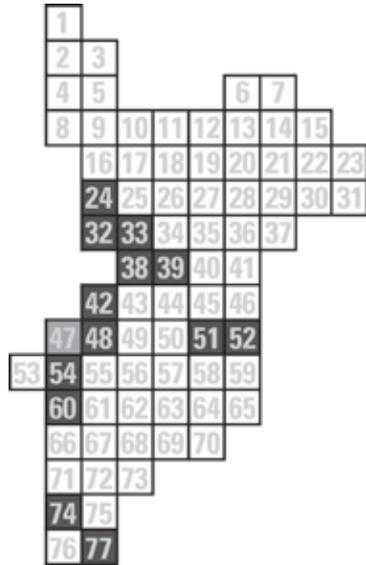
2009	
2017	D
2023	C

Atriplex gmelinii C.A.Mey.

【種の特性】一年生草本。高さ、30～90cm。葉は長披針形で、長さ2～9cm。全縁か多少の波状の歯牙がある。葉は無毛で、白粉を帯びる。雌雄同株。雌花の小苞は、2枚、菱状三角形。果期に大きくなって、胞果を包む。花期は、8月～10月。風媒で重力散布。海岸の砂泥地に生育する。オカヒジキ群綱。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州。アジア北東部。

【県内の状況】主に内房の砂泥地に生育する。



【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:384 / 新千植誌 1975:429 / 千植誌 2003:168 / 改訂新版日本の野生植物 4 2017:135

(天野誠)

C マルバアカザ ヒユ科

2009	
2017	D
2023	C

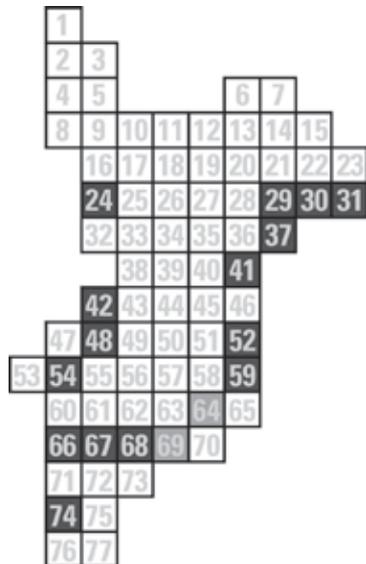
Chenopodium acuminatum Willd.

【種の特性】一年生草本。高さ、20～60cm。葉は広卵形で、やや厚く、縁に薄い半透明の縁取りがある。長さ2.5～6cm。花序は、密生して、軸に管状の半透明の毛がある。花期は、7月～10月。風媒で重力散布。海岸の砂浜に生育する。[Th]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、シベリア、モンゴル。

【県内の状況】主に外房と九十九里の砂浜に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。



【文献】千植誌 1958:385 / 新千植誌 1975:429 / 千植誌 2003:166 / 改訂新版日本の野生植物 4 2017:138

(天野誠)

C フシグロセンノウ ナデシコ科

2009	C
2017	C
2023	C

Lychnis miqueliana Rohrb.

【種の特性】高さ50～80cmの夏緑の多年生草本。適湿の林縁の草地斜面に生育する。1～数本の茎を立てる。茎は円筒形で十字対生、節の所は紫色を帯びる。葉は楕円形で、鋭頭、基部は楔形で、ほぼ無柄。葉は全縁で、葉脈と縁にわずかに毛がある。花は頂生および上部の葉腋につく。花は5数性で、萼片は癒着して円筒形になる。花弁は、広倒卵形で先端はわずかに凹凸があり、鮮やかな赤橙色で、長さ20～30mm、長い爪がある。果実は蒴果で、円筒形、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で重力散布。

子を散布する。虫媒で重力散布。[G]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】主として北総台地の谷津に分布する。

【保護対策】園芸目的の採取をおこなわない。

【文献】千植誌 2003:153,163 (大場達之/天野誠 追補)



C コモウセンゴケ モウセンゴケ科

2009	C
2017	C
2023	C

Drosera spatulata Labill.

【種の特性】食虫性の小型の多年生草本。日当たりのよい崖などに生えたものは葉が濃い赤に染まる。葉は単葉で互生。花茎は直立し上部は螺旋状、花は紅紫色で5弁。虫媒で風散布。[H]

【分布】本州（東北部以南）・四国・九州・琉球。台湾、熱帯アジア、オーストラリア。

【県内の状況】かつては道ばたの崖などに一面に生えていたが、現在はそのような生育地はほとんど見られなくなった。

【保護対策】観賞用などの採集をしない。

【文献】Komiya, S. & C. Shibata 1978 Distribution of the Droseraceae in Japan. Bull. Nippon Dental Univ. Gen. Edc. 7: 188-193 / 千植誌 2003: 220, 223

(大場達之/天野誠)



要保護
C

C ヒメタデ タデ科	2009	C
	2017	D
	2023	C

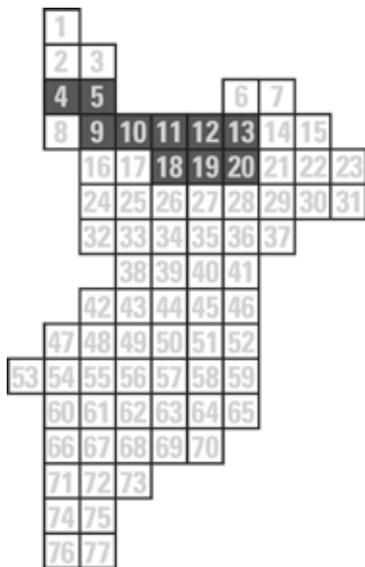
【種の特性】一年生草本。湿地性。茎の下部は曲がり、上部は疎らに分岐する。葉は披針形で先は鋭尖形、上面は無毛で下面脈上に疎らに短毛がある。花穂は直立し短円柱状、長さ1.5～2cm。密に多数の淡紅色の花をつける。花が白～緑白色のものをアオヒメタデ (form. *viridiflora* I. Ito) という。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】利根川流域に記録がある。本県にはアオヒメタデが生える。

【保護対策】生育適地となる湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 146,158 (谷城勝弘)



C ヌカボタデ タデ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

【種の特性】一年生草本。湿地性。茎は細く、下部は地をほう。葉は薄く疎らに毛がある。托葉鞘は筒状で等長の縁毛がある。花序は疎ら。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】県北部の低地に複数の記録があるが少ない。

【保護対策】本種の生育適地となる湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 146,158

(谷城勝弘)



C サデクサ タデ科	2009	
	2017	D
	2023	C

【種の特性】一年生草本。高さ、30～100cm。茎には逆棘があり、他の植物にはい登る。葉は細いほこ形、葉身は長さ3～10cm。頭状花序に2～8個の桃色の花が付く。花期は、7月～10月。虫媒で重力散布。湿地に生育する。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】主に北総の水辺に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:330 / 新千植誌 1975:376 / 千植誌 203:505 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:132

(天野誠)



C ホソバイヌタデ タデ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

【種の特性】一年生草本。湿地性。茎は疎らに分岐し赤褐色を帯びる。葉は両面の縁に近い脈上に短毛があり、下面に盤状の腺点がある。

【分布】北海道・本州（関東地方）。中国、ウスリー、朝鮮。

【県内の状況】利根川、江戸川、栗山川流域にあるが、少ない。

【保護対策】生育適地の湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 146,158

(谷城勝弘)



C アキノミチヤナギ タデ科

2009	
2017	C
2023	C

Polygonum polyneuron Franch. & Sav.

【種の特性】 中型の一年生草本。高さ、30cm～70cm。茎は斜上する。葉は長楕円形、長さ3～5cm。花は緑色で上部の葉腋に数個付く。果実は、菱状卵形で、断面は三角形。花期は、8月～10月。虫媒で、重力散布。海岸の砂地や砂泥地に生育する [Th]。

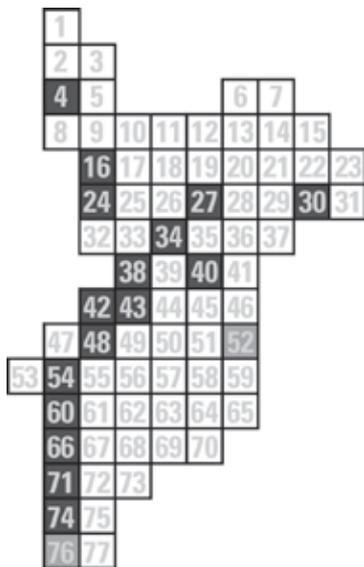
【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】 主に東京湾岸の砂浜や砂泥地に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:387 / 新千植誌 1975:432 / 千植誌 2003:142 / 改訂新版日本の野生植物 4 2017:101

(天野誠)



C イワガラミ アジサイ科

2009	C
2017	D
2023	C

Schizophragma hydrangeoides Siebold & Zucc.

【種の特性】 高さ約10mに達する夏緑の藤本。山地の明るい林縁に生える。つるは巻き付きながら、這い登る。樹皮は細かく縦に裂ける。葉は対生し、心形で、鋭頭、荒い鋭鋸歯がある。葉は有柄、葉身の長さは6～10cm。枝先に密な複散房花序を付ける。装飾花は白色、1弁の卵状三角形の萼片が目立つ。有性花は5数性で、萼片は低三角形で、鋭頭、長さ約1mm。花弁は、開花とともに落下する。雄しべは不等長で、長さ3～4.5mm。雌しべの花柱は太くて短く、花頭は4～5個、心皮の基部は癒合する。果実は蒴果で、上部から裂けて、種子を散布する。

虫媒で風散布。主としてブナ帯の夏緑林に生える。低地遺存ブナ帯要素。[MM]

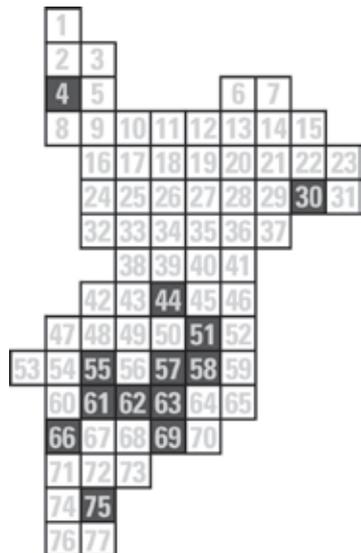
【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】 南総の丘陵地に主として分布し、北総にも点在する。

【保護対策】 生育地の環境を保全する。

【文献】 千植誌 2003:257, 264

(大場達之/天野誠 追補)



C コギシギシ タデ科

2009	
2017	C
2023	C

Rumex nipponicus Franch. & Sav.

【種の特性】 中型の一年生草本。茎は赤味を帯びない。根生葉は、花時にはない。茎葉は、長楕円形、先端は鈍頭、裏に毛がない。翼状萼片の基部にこぶがあり、周辺に棘があるが、短い。風媒で、重力散布。花期は、4月～6月。河川敷や海岸に生育する。[H]

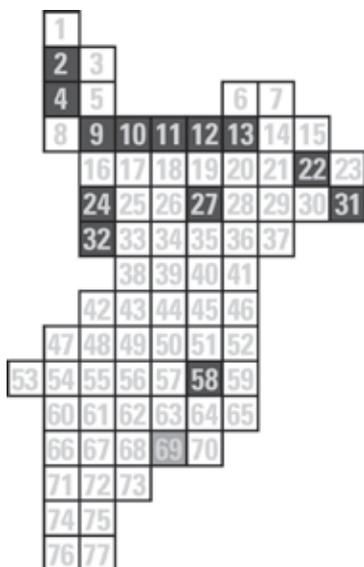
【分布】 本州、四国、九州。

【県内の状況】 主に利根川の河川敷と北総の海岸に生育する。

【保護対策】 生育地の河川敷や海岸を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:388 / 新千植誌 1975:530 / 千植誌 2003:141 / 改訂新版日本の野生植物 4 2017:104

(天野誠)



C キツリフネ ツリフネソウ科

2009	C
2017	D
2023	C

Impatiens noli-tangere L. *l.pallida*. Nutt.

【種の特性】 中型の一年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で自散布。[Th]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。北半球温帯。

【県内の状況】 房総丘陵を中心に分布の記録があるが、最近北アメリカ原産の近似種オオツリフネ (*I. pallida* Nutt.) と考えられるものが県の北部に帰化しており、詳細な情報を確認する必要がある。

【保護対策】 自生地の環境を保全する。

【文献】 千植誌 2003:348, 340

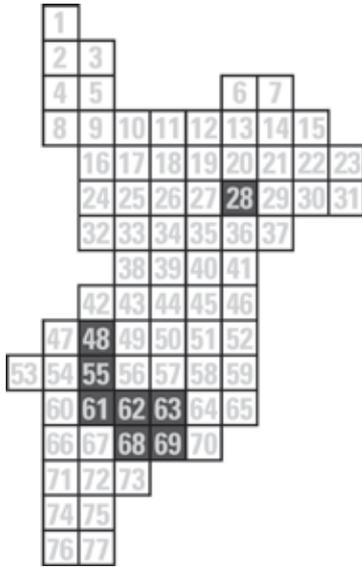
(大場達之/天野誠)



C キヨスミツバツツジ ツツジ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

【種の特性】 夏緑低木。葉は単葉で3輪生。虫媒で、風散布。[N]
【分布】 本州（関東、中部、近畿）。
【県内の状況】 尾根筋の乾いた林や岩場に生える。
【保護対策】 自然の林内に移植している例もあるが、本来の生育地を超える範囲への移植は慎重に行う必要がある。
【文献】 千植誌 2003：432, 420

(大場達之/天野誠)



C ノジトラノオ サクラソウ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

【種の特性】 多年生草本。乾いた半自然のススキ草原に生える。葉は単葉で互生。虫媒で、風散布。ススキ群目。[G] ススキ群目。
【分布】 本州（関東以西）・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。
【県内の状況】 かつての牧の草地に多かったと推定される。
【保護対策】 半自然のススキ草原の保全。かつて草地であったところの雑木林を掘起こしたところ、埋土種子から復活した例がある。
【文献】 千植誌 2003：436, 439

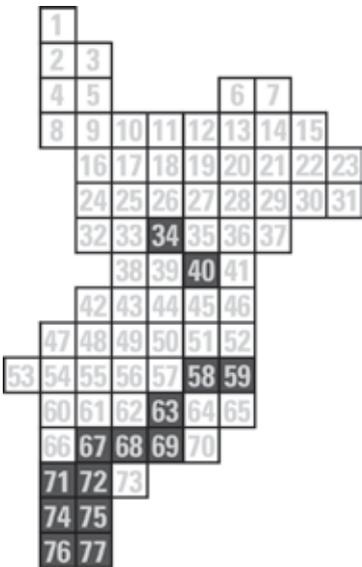
(大場達之/天野誠)



C オオツルコウジ サクラソウ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

【種の特性】 常緑小低木。ヤブコウジに似て大形。地下に長い根茎がある。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。ヤブコウジとツルコウジの雑種という説もある。[Ch] カクレミノースダジイ群団。
【分布】 本州（千葉県以西）・伊豆諸島・琉球（奄美諸島）。
【県内の状況】 房総丘陵の南部の照葉樹林に見られる。
【保護対策】 自然的な照葉樹林の保全。
【文献】 千植誌 2003：435, 438

(大場達之/天野誠)



C クサレダマ サクラソウ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

【種の特性】 多年生草本。自然度の高い湿地に生える。葉は単葉で対生。虫媒で、重力散布。ホソバノヨツバムグラ大形スゲ群団。[HH]
【分布】 北海道・本州・四国・九州。アジア北部。
【県内の状況】 下総台地の湿地と、房総丘陵北部の谷津などに分布する。
【保護対策】 自然的な湿地の保全。
【文献】 千植誌 2003：436, 439

(大場達之/天野誠)



C ハイハマボッサ サクラソウ科

2009	C
2017	C
2023	C

Samolus parviflorus Rafin.

【種の特性】多年生草本。河岸の大水のときに冠水するナルコスゲ群集のなかや、ヨシ湿原の周囲、湿った寺院のコケの多い庭などに見られる。葉は単葉で互生しやや淡い緑色で光沢がある。虫媒で、水散布。[H]

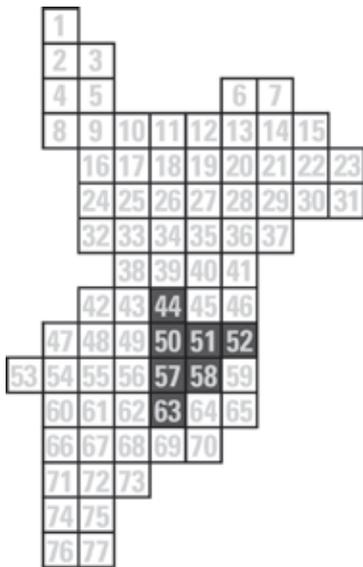
【分布】北海道・本州。北米。

【県内の状況】養老川と夷隅川、ため池の岸、陰湿な庭などにみられる。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】大場達之・平田和弘 1998 千葉県のハイハマボッサ. 千植誌資料 11: 75-76 / 千植誌 2003: 436, 440

(大場達之/天野誠)



C シタキソウ キョウチクトウ科

2009	C
2017	C
2023	C

Stephanotis lutchuensis Koidz. var. *japonica* (Makino) Hatus.

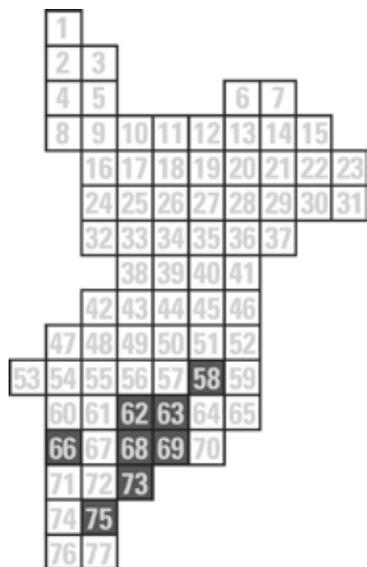
【種の特性】常緑藤本。モミ林・照葉樹林などの林縁に生える。葉は単葉で対生。花は6月に咲き、花序は枝の上部の葉腋から出て花茎の先に2~3個の白い香りのある花をつける。虫媒で、風散布。[M] カクレミノースダジイ群目。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵の南部に生え、北限は大多喜町。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003: 464, 456
(大場達之/天野誠)



C フナバラソウ キョウチクトウ科

2009	B
2017	B
2023	C

Vincetoxicum atratum (Bunge) C. Morren & Decne.

【種の特性】多年生草本。茎は直立し高さ40~80cm。葉は単葉で対生し下面に軟毛が密にある。花は6月に咲き濃紫色。虫媒で風散布。[G] ススキ群目。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】かつては農地周辺の草を刈る土手斜面に多かったが、急速に減少している。

【保護対策】人為的な刈り取りにより管理された半自然の草地を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 2003: 464, 455

(大場達之/天野誠)



C クサナギオゴケ キョウチクトウ科

2009	C
2017	D
2023	C

Vincetoxicum katoi (Ohwi) Kitag.

【種の特性】中型の多年生草本。茎は直立し高さ40~100cmで、上部は蔓状。花は5~7月に咲き紫色。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。花の緑白色のものをシロバナクサナギオゴケ (f. *albescens* Ohwi) という。[G] ツガ群目。

【分布】本州（千葉県・静岡県・愛知県など）。箱根などの新しい火山地帯には分布しない。千葉県は分布の東限。

【県内の状況】佐倉市から市原市にいたる千葉県中部に分布するほか富津市から分布が記録されている。

【保護対策】自生地其林床の遷移を抑える

【文献】千植誌 2003: 464, 455
(大場達之/天野誠)



要保護
C

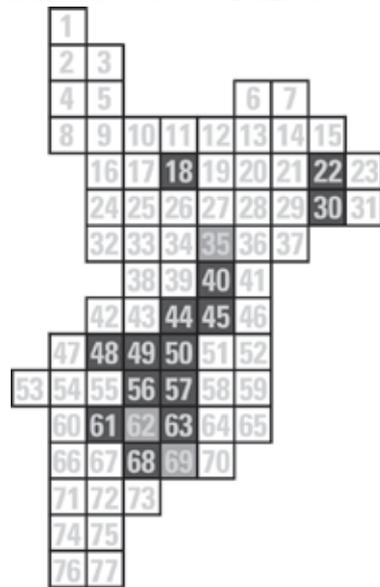
C アケボノソウ リンドウ科	2009	B
	2017	C
	2023	C

【種の特性】多年生草本。茎は直立し高さ50～80cm、多くの枝を分かち。葉は単葉で対生し卵形～披針形。花は9～10月。花は白色で、裂片の先に緑色の斑点、中部に黄緑色の腺体がある。虫媒で風散布。
[Th] オオバセンキュウータネツケバナ属群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】日向からやや日陰の湧水湿地、沢沿いに生え房総丘陵に多い。水の停滞する平地の湿地には見られない。

【保護対策】無用の採集を防止する。



【文献】千植誌 2003：452, 453

(大場達之/天野誠)

C ヤブムグラ アカネ科	2009	B
	2017	C
	2023	C

【種の特性】多年生草本。やや湿った夏緑林あるいはスギ林の林床に生える。葉は単葉で輪生、縁に逆刺がない。虫媒で重力散布。オオバノヤエムグラの貧弱なものに似ているが、果実は無毛。ケヤキ群団。[H]

【分布】本州（関東）。

【県内の状況】千葉市、山武市、八千代市、酒々井町、佐倉市で採集された標本がある。オオバノヤエムグラに似ているので見逃されている可能性がある。山武市の生育地ではスギ林の林床に広範な群落を形成している。

成している。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1975：368 / 千植誌 2003：477

(大場達之/谷城勝弘 追補)



C ツルリンドウ リンドウ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

【種の特性】多年生つる草本。シイ・カシ帯からハイマツ帯にまで分布する。葉は単葉で対生。虫媒で、虫散布。[H]

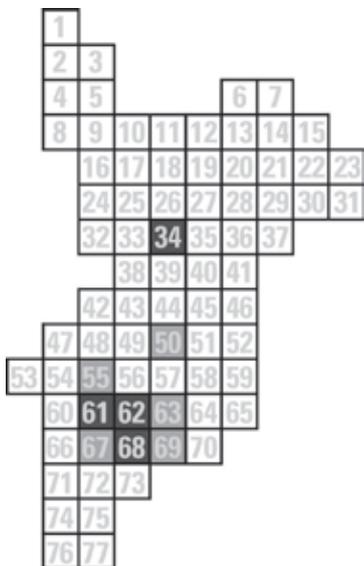
【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、千島、サハリン。

【県内の状況】湿った照葉樹林、スギ林などの下に生える。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003：451, 443

(大場達之/天野誠)



C ハナムグラ アカネ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で6枚輪生。多花で花冠は4裂し、白色。虫媒で、水散布。[H] オギーヨシ群団。

【分布】本州。朝鮮、中国。

【県内の状況】利根川水系及び栗山川周辺に群生地が確認されている。

【保護対策】大型草本の刈り取りを行い、小型草本の生育可能な環境を維持することが望ましい。

【文献】岩瀬・谷城・市原・野口・久保田(2007)：栗山川中流部河川敷の植物と植物群落。千生誌 57(1, 2): 39-45 / 千植誌 2003：477, 460

(大場達之/谷城勝弘 追補)



C ソナレムグラ アカネ科

2009	B
2017	C
2023	C

Hydrotis biflora (L.) Lam. var. *parvifolia* Hook. & Arn.

【種の特性】 海岸の崖地に生える小型の常緑多年生草本。茎は多く分岐して地に広がり、全体に肉質。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。ソナレムグラ-コウライシバ群団。[H]

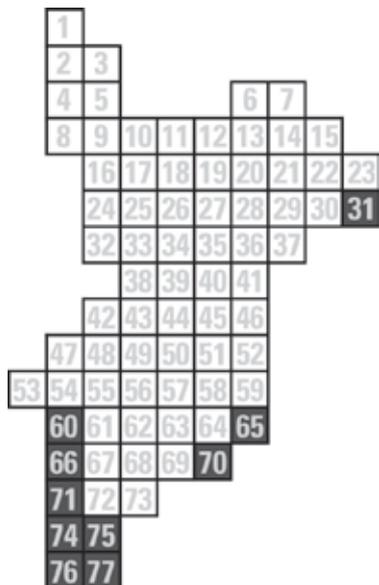
【分布】 本州（関東以西）・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、熱帯アジア。

【県内の状況】 銚子市、県南部に点在する。個体数は少ない。

【保護対策】 生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 467

(大場達之/谷城勝弘 追補)



C サツマイナモリ アカネ科

2009	C
2017	C
2023	C

Ophiorrhiza japonica Blume

【種の特性】 暖地の山の木陰に生える常緑多年生草本。葉は単葉で対生。花冠は筒型で先は5裂し、内側に白い毛が生え、乾くと赤褐色になる。花期は1~4月。虫媒で風散布。[H] カクレミノ-スダジイ群団。

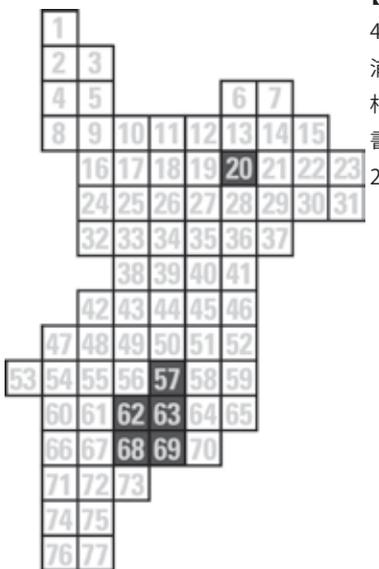
【分布】 本州（関東以西）・本州・四国・九州・琉球。台湾、中国。

【県内の状況】 県南部の丘陵地の谷間の湿潤な所に生育する。清澄、三石山系に多い。

【保護対策】 生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 466,457. / 谷城・森 2007 : 内浦山自然環境保全地域の植物相. 千葉県自然環境調査報告書. 千葉県環境部自然保護課 23-40

(大場達之/谷城勝弘 追補)



C ケブカツルカコソウ シソ科

2009	B
2017	C
2023	C

Ajuga shikotanensis Miyabe & Tatew. f. *hirsuta* Murata

【種の特性】 やや小形の多年生草本。根際から長い匍匐茎を地表にのばす。茎は枝分かれせず高さ10~20cmで上端に穂状に花をつける。花は5~6月。青紫色。葉は単葉で対生。虫媒で重力散布。茎に長い縮毛を多くつける型をケブカツルカコソウといい、千葉県では大部分この形であるが、ほとんど毛のないツルカコソウも見られる。

[H] ススキ群目。

【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 丈の低い半自然草地に生え、主として北総台地に分布する。

【保護対策】 観賞用などでの採取を防ぐ。自然に近い芝生では過度の草刈りを慎む。

【文献】 千植誌 2003 : 489, 493

(大場達之/天野誠)



C コムラサキ シソ科

2009	B
2017	C
2023	C

Callicarpa dichotoma (Lour.) K.Koch

【種の特性】 夏緑低木。葉は単葉で対生し倒卵状長楕円形。花は7~8月。淡紫色。果実は紫色。虫媒で鳥散布。ハンノキ群団。[N]

【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国。

【県内の状況】 湿地のハンノキ林の周辺に生え、本来の自生は少ないが、最近では庭木として植えられ、それから逸出したものが多い。

【保護対策】 自生のある環境は園芸的に流通しているコムラサキを植えない。

【文献】 千植誌 2003 : 485, 474

(大場達之/天野誠)



要保護
C

C カリガネソウ シソ科	2009	D
	2017	C
	2023	C

【種の特性】夏緑小低木。やや湿った肥沃な林の林縁に生える。葉は単葉で対生。虫媒で、鳥散布。ヨモギ群綱。[H]

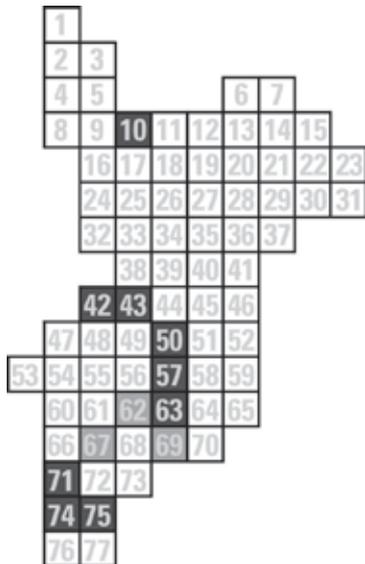
【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県南部に多く記録されているが、我孫子市などの報告もある。草食獣が食べないので今後増殖する可能性もある。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003：486, 475

(大場達之／天野誠)



C キセワタ シソ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

【種の特性】多年生草本。路傍・林縁などに偶発的に生える。虫媒で、重力散布。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】県北部に報告が多いが鴨川市からも記録がある。

【保護対策】偶発的に発生する種類なので安定的な保護は難しい。

【文献】千植誌 2003：507, 511

(大場達之／天野誠)



C ジャコウソウ シソ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で、重力散布。[H]

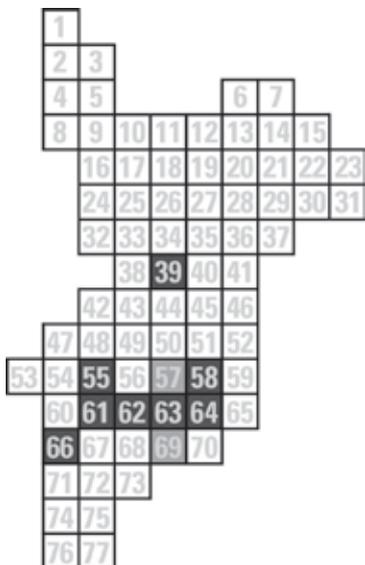
【分布】北海道・本州・四国。

【県内の状況】房総丘陵の谷間の湿った林やその林縁に生える。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003：506, 510

(大場達之／天野誠)



C テンニンソウ シソ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

【種の特性】多年生草本。花茎は直立し高さ40～70cm。茎の基部は木化する。葉は単葉で対生鋸歯がある。花は9月に咲く虫媒で、重力散布。低地遺存ブナ帯要素。[H] オニシモツケオオヨモギ群目。

【分布】北海道・本州・四国。

【県内の状況】愛宕山などに知られている。

【保護対策】自生地の環境を保全する。

【文献】千植誌 2003：504, 500

(大場達之／天野誠)



C ヤマトツナミソウ シソ科

2009	C
2017	C
2023	C

Scutellaria pekinensis Maxim. var. *transitra* (Makino) H.Hara

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で対生。花は青紫色で花筒が花茎に沿って立たず開出することが、ほかのツナミソウ類と異なっている。虫媒で、風散布。低地遺存 [H]
【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮。
【県内の状況】 下総台地で記録されている。湿った肥沃な林に生える。
【保護対策】 鑑賞目的などでの採取を防ぐ。自生環境を保つ。
【文献】 千植誌 2003 : 491, 494

(大場達之/天野誠)



C ミゾホオズキ ハエドクソウ科

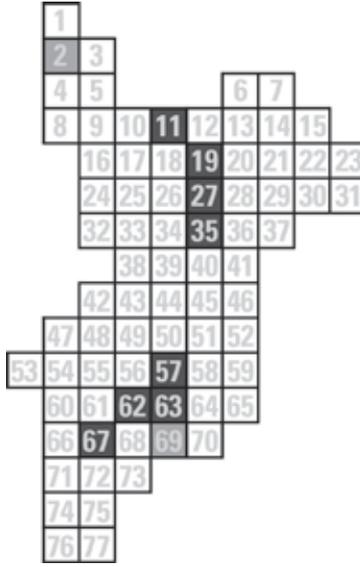
2009	C
2017	C
2023	C

Mimulus nepalensis Benth.

【種の特性】 多年生草本。湧水の周辺などにまとまって生える。花は6~7月に咲き黄色。葉は単葉で対生。虫媒で、風散布。[H]
 オオバセンキュウータネツケバナ属群団。
【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、台湾。
【県内の状況】 おもに下総台地で記録されているが、清澄山などの記録もある。
【保護対策】 湧水池を自然な状態に保全する。

【文献】 千植誌 2003 : 538, 528

(大場達之/天野誠)



C タヌキモ タヌキモ科

2009	B
2017	B
2023	C

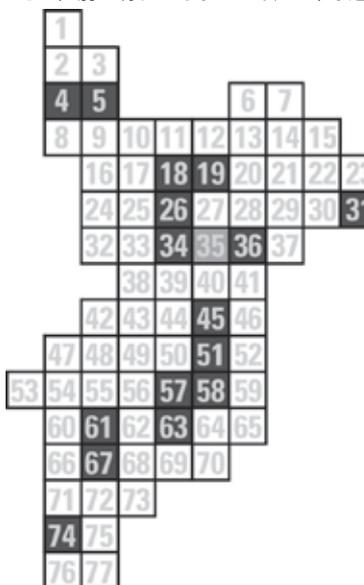
Utricularia vulgaris L. var. *japonica* (Makino) Tamura

【種の特性】 浮遊性の多年生草本。葉は羽状複葉で互生。虫媒で水散布。イヌタヌキモとの区別は冬芽の鱗片葉の形態が重要で、冬芽の形成されていない個体では区別が困難である。文献データにはイヌタヌキモが混入している可能性がある。夏頃から側枝に多数の殖芽を形成するものはチョウシタヌキモ (form. *fixa* Komiya) と呼ばれ、浅い水域に見られる。ウキクサ群綱。[HH]。
【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。サハリン、千島。
【県内の状況】 かつては全域に多く見られたと考えられているが、イヌタヌキモとの区別が明らかでないで、正確な過去の状況は不明である。イヌタヌキモより自然的な水域に生えると考えられている。

【保護対策】 生育地の水質を保つ。

【文献】 Komiya, S. & C. Shibata 1979 Distribution of the Lentibulariaceae in Japan. Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ. 9 : 201-212 / 千植誌 2003 : 546, 549.

(大場達之/天野誠)



C ミズハコベ オオバコ科

2009	
2017	C
2023	C

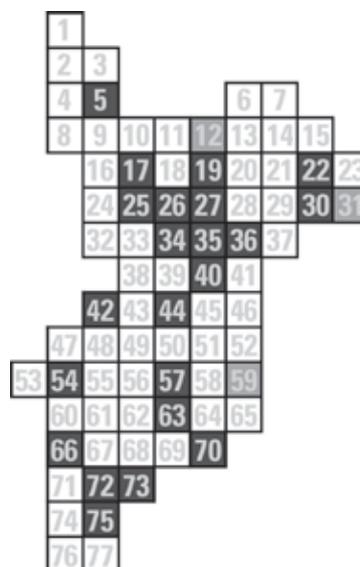
Callitriche verna L.

【種の特性】 小型の多年生草本。浅い水中に生える。茎は、分枝し、50cmに達する。葉は対生する。水中葉は線形、抽水葉はへら形。雄花は1本の雄しべ、雌花は、1本の雌しべからなる。水媒で、重力散布。湿地や水田に生育する。[Th~HH]
【分布】 本北海道、本州、四国、九州。
【県内の状況】 各地の水田に分布している。佐倉市で1996年9月13日に採集された標本 (CBM BS-113322) と野田市で1997年10月19日に採集された標本 (CBM BS-140605) と富津市で1998年3月31日に採集された標本 (CBM BS-147226) と南房総市で2001年12月6日に採集された標本 (CBM BS-183137) などがある。

【保護対策】 生育地の湿地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:359 / 新千植誌 1975:402 / 千植誌 2003:488 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:73

(天野誠)



要保護
C

C サウトウガラシ オオバコ科	2009	B
	2017	C
	2023 C	

【種の特性】 小形の一年生草本。茎は上部に腺毛があり、高さ3～10cm。葉は対生し葉柄がなく広線形。花は8～10月に咲き淡紫色。虫媒で水散布。水田および自然的な湿地に見られる。自然な貧栄養湿地に見られるものは、秋に紅葉し萼片が4個でアカヌマソウとして区別されることがある。千葉県レッドデータブックではアカヌマソウを含む広義のサウトウガラシを指定。[Th]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国東北部。

【県内の状況】 南部を除きほぼ全域に見られ、耕地整理を行っていない水田に多い。



【保護対策】 減農薬水田を広める。稲刈り時に稲ワラを裁断して散布する耕作法では、稲刈り後に生育する多くの小形雑草が消失し、水田周辺の生物多様性維持に問題が多い。

【文献】 千植誌 2003 : 538, 528. (大場達之/天野誠)

C ゴマノハグサ ゴマノハグサ科	2009	C
	2017	C
	2023 C	

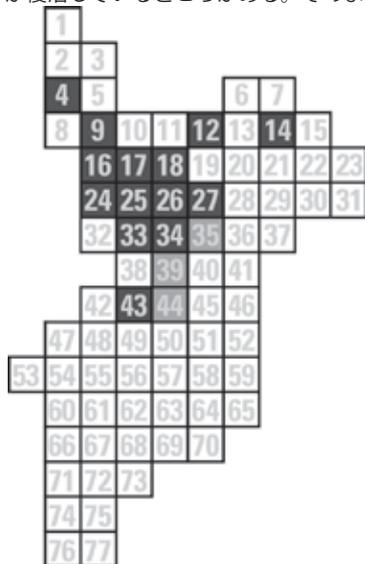
【種の特性】 大形の多年生草本。大きな個体は2mを超える。葉は単葉で対生。虫媒で、風散布。[H] ススキ群目。

【分布】 本州・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 河川氾濫原や半自然草地に生え、下総台地のかつての牧には多かったものと推定される。房総丘陵からの報告はない。

【保護対策】 半自然草原の保全。かつての牧の跡地の開発予定地などでは、適当な草刈り管理によって、かつての牧と同じような組成の草地が復活しているところがある。そのような草地の一部を計画的に自然公園として保全することが望まれる。

【文献】 千植誌 2003 : 536, 526 (大場達之/天野誠)



C ネナシカズラ ヒルガオ科	2009	
	2017	A
	2023 C	

【種の特性】 寄生・つる性の一年生草本。茎は、マメダオシより太く、1.5mm。花は穂状に付く。花柱は1本。虫媒で、重力散布。花期は、8月から10月。日当たりの良い里山の道端に生育する。[Th]

【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、ベトナム、アムール。

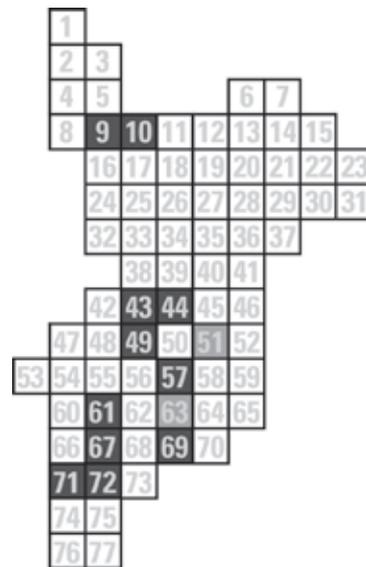
【県内の状況】 柏市、我孫子市、袖ヶ浦、市原市、一宮町、富津市、鹿野山、清澄山、御殿山で採集された標本がある。1999年10月30日以来、標本

は採集されていない。目視記録も、2002年12月14日、鴨川市で記録したのが最後である。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:336 / 新千植誌 1975:382 / 千植誌 2003:478 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:26

(天野誠)



C オオマルバノホロシ ナス科	2009	C
	2017	C
	2023 C	

【種の特性】 多年生草本。湿地に生える植物。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。[G]

【分布】 北海道、本州（関東、中部以北）。千島、サハリン。

【県内の状況】 利根川水系からの報告が多い。

【保護対策】 自生環境を保全する。

【文献】 千植誌 2003 : 518, 512

(大場達之/天野誠)



C スナビキソウ ムラサキ科

2009 C
2017 C
2023 C

Argusia sibirica (L.) Boehmer

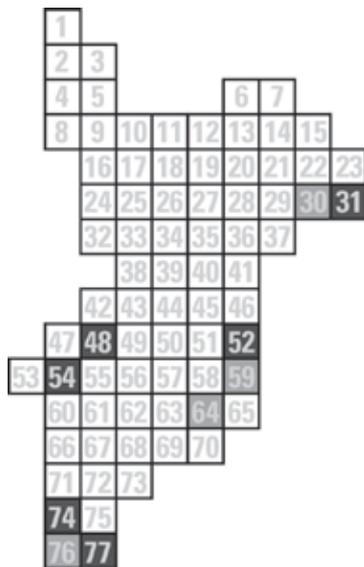
【種の特性】高さ15～30cmの夏緑の多年生草本。海岸の砂浜に生える。莖は斜上し、円筒形で、剛毛が生える。葉は互生、長楕円形で、長さ3～5cm、両面に荒い毛が生える。葉柄は短い。さそり状花序を頂生および上部の葉腋につける。花冠は白色、5裂し、花筒は短い、径7～12mmで、喉部に鱗片はない。果実はほぼ楕円形球、径約8mm。虫媒で、重力・海流散布。[G] スナビキソウ・ハマニンニク群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー、シベリア。

【県内の状況】、主として安房地方に分布し、外房、九十九里、銚子の海岸にも点在する。

【保護対策】自然な砂浜を保全する。

【文献】千植誌2003：482,472
(大場達之／天野 誠 追補)



C ゴマナ キク科

2009 C
2017 C
2023 C

Aster glehni F.Schmidt

【種の特性】夏緑の大形多年生草本。県内では湧水地周辺に生え、シラネセンキュウと共存することが多い。地下茎があり、莖は直立し高さ50～100cmで上部で分枝する。花は8～10月に咲き、散房状に密に頭花をつける。舌状花は白色。葉は単葉で互生。虫媒で、風散布。低地遺存ブナ帯要素。[G]

【分布】本州。

【県内の状況】主として県北に多いが木更津市に離れた産地がある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】伊藤至 1960 千葉県でゴマナ採集. 植物採集ニュース60：13-14 / 千植誌2003：598,586

(大場達之／天野誠)



C ウメモドキ モチノキ科

2009 C
2017 C
2023 C

Ilex serrata Thunb.

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で互生。虫媒で鳥散布。[N] ハンノキ群網。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】県北部の湿地に分布するが、庭木としても植えられているので、真の自生か否かは調査が必要。

【保護対策】自然湿地の保全。

【文献】千植誌2003：350,357

(大場達之／天野誠)



C ウラギク キク科

2009 C
2017 C
2023 C

Aster tripolium L.

【種の特性】夏緑の中形からやや大形の一年生草本～多年生草本。潮の入る湿地に群れて生え、莖は太く直立し高さ30～60cm。上部は分祀して頭花を散房状にやや密につける。舌状花は紫色。冠毛は赤紫色を帯びる。虫媒で、風および水流散布。ウラギク群網(=マリティマイ群網)。

【分布】北海道・本州・四国・九州。ユーラシア中～北部に広く分布。

【県内の状況】東京湾岸および九十九里浜の河口などに分布するが、東京湾岸の埋め立てで自然的な群落は激減し、埋め立て地の間の水路などにわずかに生き延びている。

【保護対策】自生植物が生えうる塩湿地を確保する必要がある。

【文献】千植誌2003：598,586
(大場達之／天野誠)



C フジバカマ キク科	2009	A
	2017	B
	2023	C
<i>Eupatorium japonicum</i> Thunb.		

【種の特性】 やや大形の多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。河川の氾濫原に生える。乾くとクマリンの香りがあり中国では蘭（蘭花）とならび蘭草とよばれ珍重されたという。ヨシ群綱。[H] 園芸店などでフジバカマとして売られているものは葉がやや厚く光沢があって、莖上部の葉も3出複葉になっていて、花の色も濃く、河原に自生するフジバカマと異なっている。

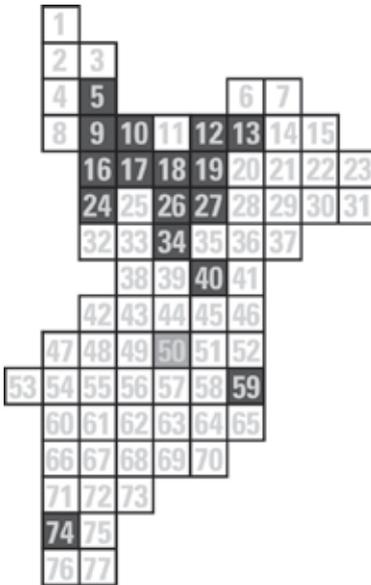
【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮、中国。かつては中国から渡来したものの逸出ではないかと考えられてきたが、近年では大きな河川の氾濫原に土着のものであるとされている。

【県内の状況】 利根川流域の各地から報告がある。産地のいくつかは栽培品の逸出である可能性がある。

【保護対策】 利根川上流域には自生が見られるので、千葉県でも自然的な氾濫原の植生を保全することによって自然的な再定着が期待できる。

【文献】 村田源・小山博滋 1982 日本産ヒヨドリバナ属の再検討。植物分類地理 33 : 282-301 / 千植誌 2003 : 593, 582

(大場達之/天野誠)



C オオニガナ キク科	2009	C
	2017	C
	2023	C
<i>Prenanthes tanakae</i> (Koidz.) Koidz.		

【種の特性】 多年生草本。湧水地周辺のハンノキ林、湿原などに生える。根茎は横走り、莖は高さ 80 ~ 150cm で直立し普通は枝分かれしない。葉は単葉で互生。莖の葉は卵状三角形で葉柄に翼がある。花は円錐花序につき、頭花は径 3.5 ~ 4cm で黄色。虫媒で、風散布。[HH] ヨシ群綱。ブナ帯植物の低地遺存要素であろう。

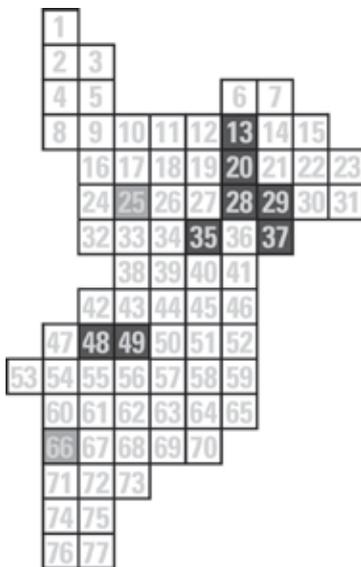
【分布】 本州（近畿以東）。

【県内の状況】 千葉県内の広い地域から記録があり、自生地では群生することが多い。現在は湿地の開発により極めて少なくなっている。

【保護対策】 自然的な湿地を計画的に保護する。

【文献】 浅野貞夫 (1966) 習志野から消えたオオニガナ。植物採集ニュース 24 : 7 / 千植誌 2003 : 646, 637

(大場達之/天野誠)



C キクアザミ キク科	2009	C
	2017	C
	2023	C
<i>Saussurea ussuriensis</i> Maxim.		

【種の特性】 多年生草本。莖は高さ 50 ~ 150cm。葉は単葉で互生し、莖下部の葉は長楕円形で長い柄があり、羽状に深く分裂し側裂片は 4 ~ 6 対。花は 9 ~ 10 月に咲き、花序は散房状。頭花は多数、総苞は細い筒形で長さ 10 ~ 14mm で蜘蛛毛があり、裂片は 8 列につく。筒状花は紅紫色。虫媒で、風散布。[H] ススキ群綱。

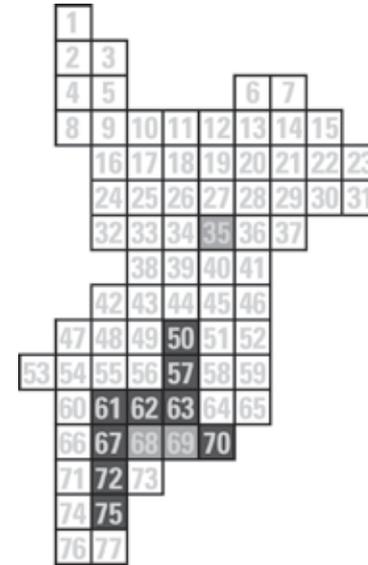
【分布】 本州・九州。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】 ミヤコアザミと同様な、よく管理されたススキ草地に生える。遺存牧野要素。八街市から鴨川市にかけて分布し、県北部には記録がない。

【保護対策】 自然的な種組成を残した草原の保全を図る。多様な保全草地のような指定をして、草刈り管理などに補助金を出すなどの工夫が求められる。

【文献】 千植誌 2003 : 575, 567

(大場達之/天野誠)



C オカオグルマ キク科	2009	C
	2017	C
	2023	C
<i>Senecio integrifolius</i> (L.) Clairv. var. <i>spathulatus</i> (Miq.) H.Hara		

【種の特性】 多年生草本、乾いた土手などに生える。全体にクモ毛がある。葉は単葉で互生し、莖基部の葉はロゼット状で長楕円形。莖は高さ 20 ~ 60cm で直立し、上部は散房状の花序となり頭花を 3 ~ 7 個つける。花は 5 ~ 6 月、舌状花は黄色。虫媒で、風散布。ススキ群綱。[H]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国。

【県内の状況】 千葉市から館山市にかけて分布し、県北部には記録がない。

【保護対策】 水田などの土手の刈り取り管理を正しく行い、耕地整理などの時に外来牧草などで置き換えしない。

【文献】 千植誌 2003 : 602, 605

(大場達之/天野誠)



C ハバヤマボクチ キク科

2009	B
2017	C
2023	C

Synurus excelsus (Makino) Kitam.

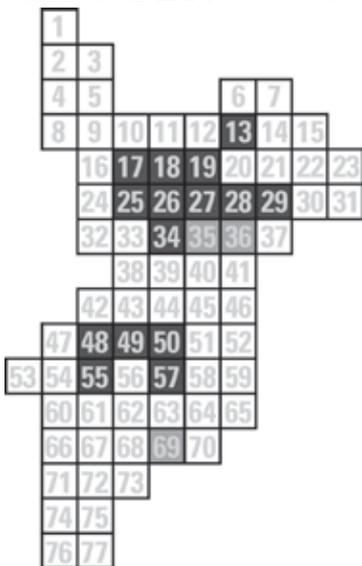
【種の特性】 大形の夏緑多年生草本。明るい夏緑林、自然的なススキ草原などに生える。茎は高さ1～2m、茎の葉は基部心形またはくさび状円形。根生葉は長い柄があって長い三角形で基部はホコ状に尖る、長さ10～20cm。下面は、密に蜘蛛毛があって白色。花は9～10月に咲き、頭花は長い柄があって下向きに咲き、総苞は鐘状球形で長さ3～5cm、筒状花は紫色。虫媒で風散布。[H]

【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 主として県の北半部に分布するが、清澄山などの報告もある。

【保護対策】 自生地の環境を保全する。

【文献】 千植誌 2003：574, 566
(大場達之／天野誠)



C シャク セリ科

2009	
2017	D
2023	C

Anthriscus sylvestris (L.) Hoffm.

【種の特性】 大型の多年生草本。高さ、80から140cm。葉は2回3回複葉で、小葉は細裂する。小総苞片は存在する。周辺花の外側の2片は明らかに他の3片より大きい。果実は細長く、先が尖り、黒熟する。花期は、5月から6月。虫媒で重力散布。林縁に生育する。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。ユーラシア中北部。

【県内の状況】 主に南総の丘陵地に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:345 /
新千植誌 1975:390 / 千植誌
2003:422 / 改訂新版日本の野
生植物 5 2017:391

(天野誠)



C ガガブタ ミツガシワ科

2009	C
2017	C
2023	C

Nymphoides indica (L.) O.Kuntze

【種の特性】 浮葉性の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で、水散布。[HH] ヒツジグサ群団。

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、東南アジア。

【県内の状況】 下総台地の池、沼に見られる。

【保護対策】 自生環境を保全する。

【文献】 千植誌 2003：461, 453

(林浩二)



C ミシマサイコ セリ科

2009	C
2017	C
2023	C

Bupleurum falcatum L.

【種の特性】 中形の多年生草本。乾いたススキ草原に生え、時に海崖の草原にも見られる。茎は高さ40～70cm。葉は単葉で互生。花は8～10月に咲き黄色。虫媒で重力散布。[H] ススキ群団。

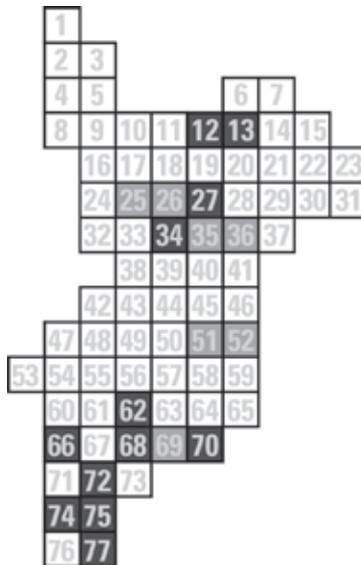
【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 千葉県南部を中心に記録されているが個体数は少ない。かつては薬用植物としての選択的採取があったものと思われる。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：424,
414

(大場達之／天野誠)



C ムカゴニンジン セリ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

Sium sisarum L.

【種の特性】 大型の多年生草本。茎は高さ 30～100 cm。葉は羽状複葉で互生。葉腋にムカゴができる。花は 8～9 月に咲き白色で細かい。果実は卵球形。虫媒で、重力散布。[H] ヨシ群綱。

【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国。

【県内の状況】 県中北部の丈の高いヨシなどの湿原に生える。

【保護対策】 自然的な湿地を保全する。

【文献】 千植誌 2003：427,416

(大場達之／天野誠)



C アシタカマツムシソウ スイカズラ科	2009	A
	2017	B
	2023	C

Scabiosa japonica Miq. var. *lasioplylla* Sugim.

【種の特性】 二年～多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。マツムシソウに似て、葉は厚手で光沢があり、花時にも根生葉が残存し、花茎は低い。海崖の草地及び海に近い山の岩場や乾いた草地に生える。イソギクハチジョウススキ群集。[Th]。別名ソナレマツムシソウ。

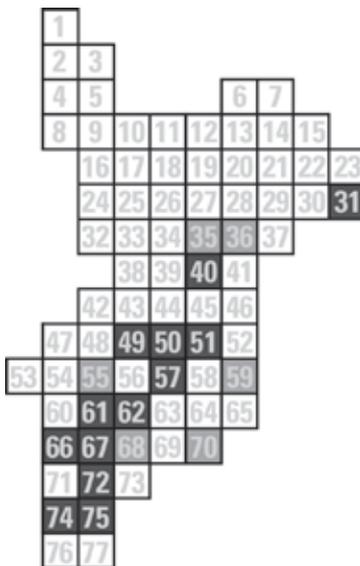
【分布】 本州（千葉、神奈川、静岡）。

【県内の状況】 銚子市から記載され、その後富津市、君津市、鋸山などからも見つかったが数は少ない。鹿野山から採集された標本もある。また従来マツムシソウあるいはソナレマツムシソウとされていた千葉県産のマツムシソウはすべてアシタカマツムシソウに当たる。アシタカマツムシソウがこの類に対する名前として最も早いという。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしない。

【文献】 中井猛之進 1944 植物研究雑誌 19：277 / 須山知香・杉野孝雄・植田邦彦 2008 アシタカマツムシソウ（マツムシソウ科）のレクトタイプ選定とソナレマツムシソウ。植物研究雑誌 83：246-252。/ 須山知香 2007 2006 年度植物地理・分類学会奨励賞受賞記念論文：東アジア産マツムシソウ属（マツムシソウ科）の系統分類学的研究。植物地理・分類研究, 54:105-126。/ 千植誌 2003：551,560

(大場達之／天野誠)



C サワゼリ セリ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

Sium suave Walter var. *nipponicum* (Maxim.) H.

【種の特性】 夏緑の大形多年生草本。常に水のあるような湿地に生える。茎は高さ 60～100 cm。根生葉と茎下部の葉は単状複葉で小葉は 7～9 個。花は 7～9 月に咲き白色。果実は倒卵形。[HH] ヨシ群綱。別名ヌマゼリ。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】 主に県の北半部の湿原に見られるが普通ではない。

【保護対策】 自然的な湿原を保全する。

【文献】 千植誌 2003：426,416

(大場達之／天野誠)



D ネズ ヒノキ科

2009	C
2017	C
2023	D

Juniperus rigida Siebold & Zucc.

【種の特性】常緑中高木。乾いた明るい尾根筋の林に生えアカマツ二次林などにも見られる。葉は針葉で互生。風媒で鳥散布。[N~M]ツガ群団。

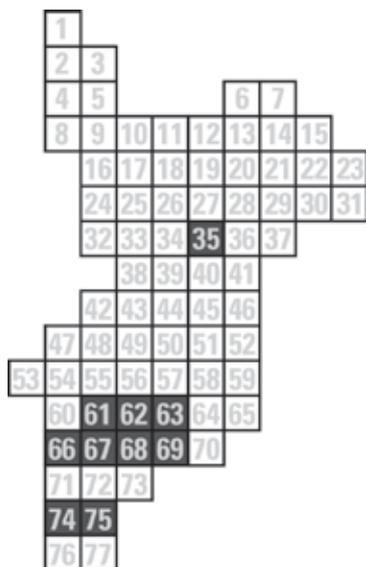
【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】主に高宕山周辺および南房総市に分布。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：67, 83

(齊木健一)

**D マツブサ マツブサ科**

2009	C
2017	C
2023	D

Schisandra repanda (Siebold & Zucc.) Radlk.

【種の特性】夏緑藤本。雌雄異株。葉は単葉で互生し枝先に集まってつく。花は5~6月に咲き黄白色。果実は藍黒色に熟す。虫媒で鳥散布。低地遺存ブナ帯要素。[M]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】市原市以南の房総丘陵に分布。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003：182, 190

(大場達之/天野誠)

**D オオシマハイネズ ヒノキ科**

2009	D
2017	D
2023	D

Juniperus taxifolia Hook. & Arn. var. *lutchuensis* (Koidz.) Satake

【種の特性】常緑小低木。葉は針葉で互生。ハイネズとは葉の先端が硬くないこと、気孔条が葉に沈み込まないこと等で区別される。風媒で、鳥散布。[N]

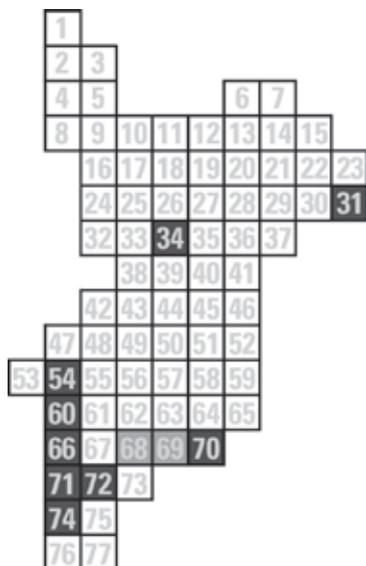
【分布】本州（房総半島、伊豆七島、東海道沿岸、志摩半島、紀伊半島）。

【県内の状況】富津岬、洲崎、犬吠埼に分布。

【保護対策】分布地域、個体数とも減少傾向にあり、生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：79, 83

(齋木健一)

**D センリョウ センリョウ科**

2009	C
2017	D
2023	D

Sarcandra glabra (Thunb.) Nakai

【種の特性】夏緑小低木。葉は単葉で対生。虫媒で鳥散布。[H] カクレミノースダジイ群目。

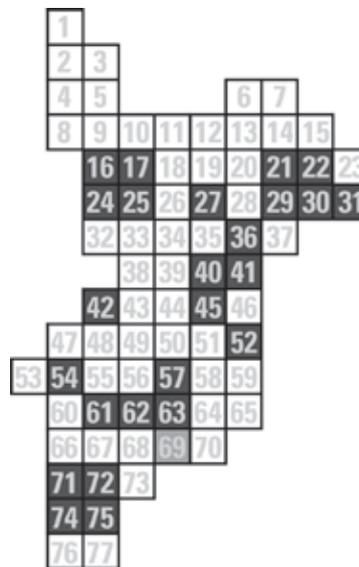
【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】県北部のものは栽培品からの逸出と考えられる。千葉県では正月の切花用に大量に栽培されている。

【保護対策】真の自生か否か調査が必要。

【文献】千植誌 2003：204, 210

(大場達之/天野誠)



D ヒロハオガタマノキ モクレン科	2009	D
	2017	D
	2023	D

Michelia compressa (Maxim.) Sarg. f. *latifolia* Okuyama

【種の特性】常緑高木。葉は単葉で倒卵形で互生。花は3月頃に咲き、クリーム白色。虫媒で、重力散布。神社に植えられているものは葉が長楕円形で細長い狭義のオガタマノキで、西南日本原産と考えられる。千葉県に自生と考えられるのは葉が短いヒロハオガタマノキである。

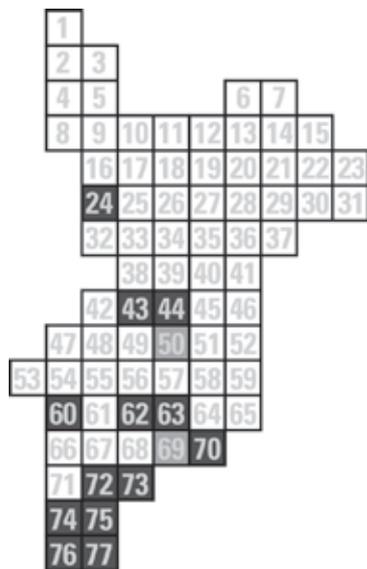
【MM】カクレミノースダジイ群目。

【分布】本州（関東南部以西）・四国・九州・琉球。台湾。

【県内の状況】清澄山・南房総市高塚山などに知られる。

【保護対策】無用の伐採を避ける。

【文献】千植誌 2003 : 181, 189 (大場達之/天野誠)



D ミズオオバコ トチカガミ科	2009	C
	2017	C
	2023	D

Ottelia alismoides (L.) Pers.

【種の特性】沈水性の一年生草本。かつては水田に普通な雑草であったが、除草剤などによって極端に個体数が減少し、谷津奥の湧水の多い水田などに限られている。葉は単葉で根生しロゼット状になる。葉身は薄くしわがあり、倒披針形から卵心形で長さ10~25cm、幅2~15cm。葉の大形のものをオオミズオオバコとして区分することがある。花は両性、花茎は根生し花は水面で咲く。花弁は白から淡紅色。虫媒で、水散布。ヒツジグサ群団。[Th]

【分布】本州~琉球。朝鮮、中国、ウスリー、インド、オーストラリア。

【県内の状況】県内全域に見られる。

【保護対策】水田周辺の水質を改善する。

【文献】伊藤至(1969)手賀沼のオオミズオオバコ。植物採集ニュース 45 : 66。/千植誌 2003 : 655,661

(大場達之/天野誠)



D ササバモ ヒルムシロ科	2009	D
	2017	D
	2023	D

Potamogeton malaianus Miq.

【種の特性】大型で沈水性の多年生草本。湖沼、河川、水路等に生育する。葉は単葉で互生。水中茎は3mを越えることもある。陸生形ではヒルムシロに酷似するが葉の先端は鋭頭で芒状に突出するので識別できる。水媒で、水散布。ヒルムシロ群綱。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。東アジア、インド、ニューギニア。

【県内の状況】県北部の河川、池沼を中心に多くの生育地が知られていたが、河川改修や水路のコンクリート護岸の普及によって生育適地が

少なくなり、産地は急減している。

【保護対策】河川や池沼の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 : 478 / 角野康郎 1994 日本水草図鑑 : 37 / 千植誌 2003 : 669,663 / 林紀男・谷城勝弘・浅間茂 2008 手賀沼流域における水生植物の繁茂状況。千生誌 58(1): 1-6

(谷城勝弘)



D ヤナギモ ヒルムシロ科	2009	
	2017	D
	2023	D

Potamogeton oxyphyllus Miq.

【種の特性】中型の多年生草本。主に流水中に生える。茎は、細く分枝する。葉は全て沈水葉で、線形。穂状花序は5から9個の花を付ける。1本の雄しべ、雌花は、1本の雌しべからなる。虫媒で、重力散布。小川や水路に生育する。ヒルムシロ群綱。[HH]

【分布】北海道、本州、四国、九州。

【県内の状況】主に北総の中部から南総の中部に分布している。

【保護対策】生育地の小川を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:432 / 新千植誌 1975:479 / 千植誌 2003:660 / 改訂新版日本の野生植物 1 2016:133

(天野誠)



一般保護
D

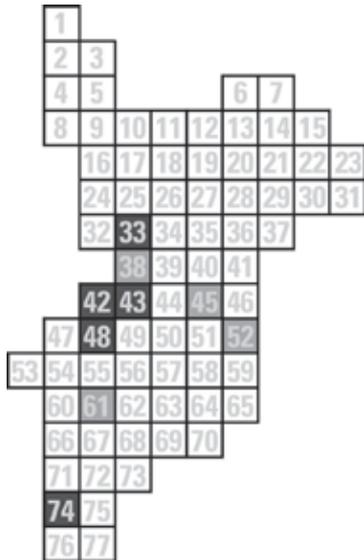
D コアマモ アマモ科

2009	D
2017	C
2023	D

Zostera japonica Asch. & Graebn.

【種の特性】多年生草本。根茎は節から2本の根を出す。葉は単葉で互生。雌雄同株。葉を含めたシュートの長さは10～40cm、幅1～4mm、平行脈は3本、先端縁辺部に鋸歯がない。肉穂花序は葯隔付属突起を持つ。5～8月に花序をつけて種子ができる。干潟、河口域、静かな入り江の潮間帯下部の砂地に生育する。水媒で水散布。[HH] コアマモ群集。

【分布】北海道、本州（太平洋沿岸）。北太平洋の日本列島沿岸域と北アメリカ西海岸のみに分布。琉球からヴェトナムかけての地域にも分布するとされたが、最近これは別の亜種に区分された。



【県内の状況】干潟、静かな入り江に生育する。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】Ascherson & Graebner 1907 / Kuo, J. & McComb, A. J. 1989 Seagrass taxonomy and structure and development. In : Larkum, A. W. D., McComb, A. W. D. & Shepherd, S. A. (eds.) Biology of seagrass : 6-56. Elsevier / 千植誌 2003 : 657, 662. / 大場達之・宮田昌彦 2007 日本海草図譜 9,34,35 (宮田昌彦)

D アマモ アマモ科

2009	D
2017	C
2023	D

Zostera marina L.

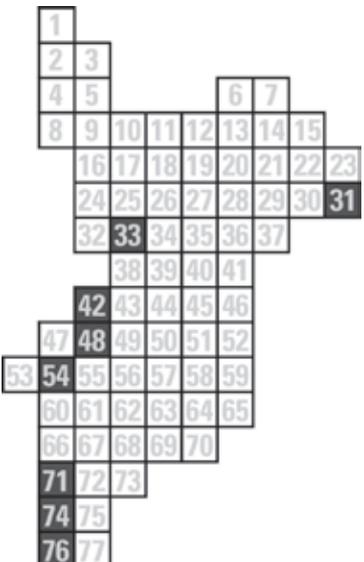
【種の特性】多年生草本。節から多数の根を出す。葉は単葉で互生。雌雄同株。葉を含めたシュートの長さは50～120cm、幅は3～8mmで5～7本の平行脈をもち先端縁辺部に鋸歯がない。開花期は4～7月で主茎の先端に頂生する花序をつけ種子をつくる。肉穂花序は葯隔突起を持たない。種皮には稜があり表面は平滑。波の穏やかな入り江、干潟の漸深帯上部の砂地に生育する。水媒で、水散布。[HH] アマモ群集。

【分布】北海道・本州（太平洋沿岸）。北半球のみに分布。

【県内の状況】干潟、静かな入り江に生育する。

【保護対策】干潟および浅海の砂泥地を攪乱しないようにする。

【文献】Miki, S. 1933 Bot. Mag. Tokyo 47 : 842-862 / 千植誌 2003 : 657, 662. / 大場達之・宮田昌彦 2007 日本海草図譜 8,26-27 (宮田昌彦)

**D アマナ ユリ科**

2009	C
2017	C
2023	D

Amana edulis (Miq.) Honda

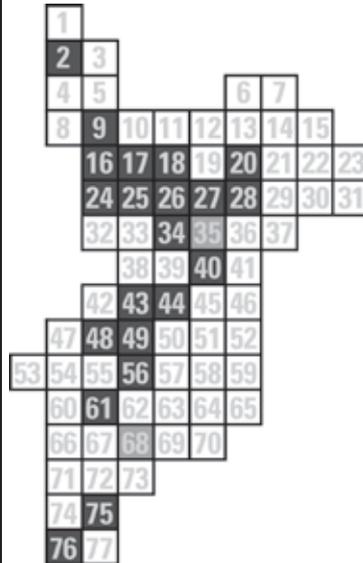
【種の特性】小型の多年生草本。地下に球茎があり、春二枚の白っぽい葉を二枚地表に広げ、その中央から花茎を出す。花茎の上部に対生する苞葉をつけ、1個の白い花を開く。日光を受けて開き、日がかけると閉じる。やや湿った林の下、林縁などに群れて生える。虫媒で、虫散布。[G]

【分布】本州・四国・九州。中国。

【県内の状況】県の北部に多く分布する。

【保護対策】鑑賞目的での採集をしない。

【文献】千植誌 2003 : 688, 682 (大場達之 / 天野誠)

**D スカシユリ ユリ科**

2009	C
2017	C
2023	D

Lilium maculatum Thunb.

【種の特性】中型の多年生草本。海崖の前線にイソギク、ハチジョウススキなどと共生する。葉は単葉で互生。斜面に下垂して、6～7月ごろに橙赤色の花を上向きに咲かせる。花被片の基部に隙間がある。虫媒で、風散布。[G] ワダン-イソギク群綱。

【分布】本州。

【県内の状況】海岸の崖にイソギクなどと共生するが、砂浜の後背地に生えることもある。外洋に面したところに多いが、東京湾奥の千葉

市で記録されたこともある。かつては現在よりも広い範囲に分布していたと考えられる。

【保護対策】園芸目的での採集をやめる。

【文献】千植誌 2003 : 687,681 (大場達之 / 天野誠)



D	ホソバシュロソウ シュロソウ科	2009	D
		2017	D
		2023	D

Veratrum maackii Regel var. *maackioides* (Loen) H.Hara

【種の特性】 中型からやや大型の夏緑多年草。根生葉は線状楕円形で縦皺が目立つ。株の基部に繊維質が集まってつく。花は秋の初めに咲きやや褐色を帯びた紫色で、散房状の花序に群がりつく。虫媒で、風散布。明るいコナラ林や林縁に生えるが群がって生えることはない。

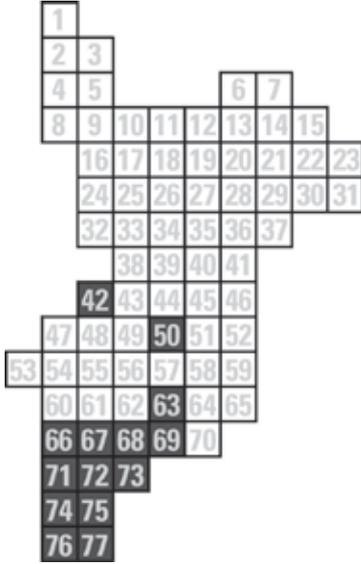
【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮、中国北部、プリモリア。

【県内の状況】 房総半島南部に多い。北限は袖ヶ浦市と考えられる。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：685,678

(大場達之／天野誠)



D	オオバギボウシ キジカクシ科	2009	D
		2017	C
		2023	D

Hosta montana F.Maek.

【種の特性】 大型の多年生草本。葉は単葉で互生。苞葉が平坦で、開出して星状になる花は淡紫色。虫媒で風散布。[H]。ススキ群集

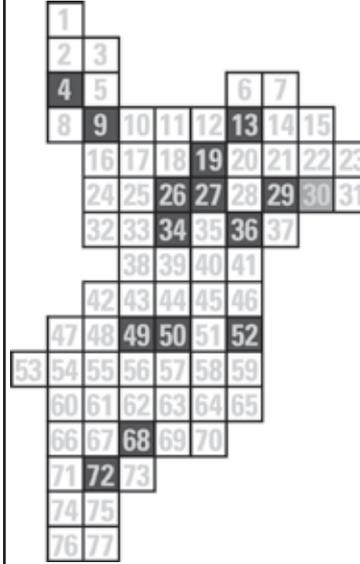
【分布】 北海道・本州（太平洋側）・四国・九州。

【県内の状況】 県北部を中心に稀。

【保護対策】 鑑賞目的あるいは食用目的などの採取を控える。

【文献】 千植誌 2003：686,679

(大場達之／天野誠)



D	ヤマラッキョウ ヒガンバナ科	2009	D
		2017	D
		2023	D

Allium thunbergii G.Don

【種の特性】 小型の多年生草本。葉は単葉で円筒状のものと平坦な個体とがあり、互生。花は秋に咲き紅紫色で、花茎の咲きに球状に集まって咲く。虫媒で、重力散布。[G] ススキ群集。

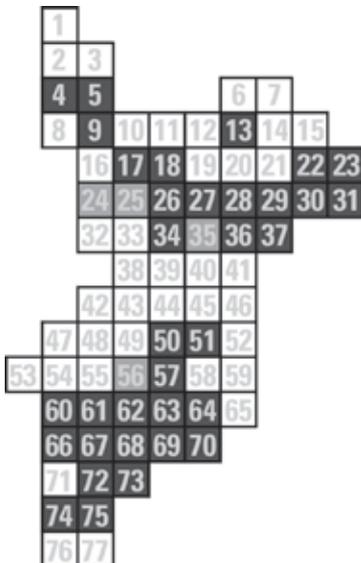
【分布】 本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】 かつては谷津田の土手などに普通であったが、草刈り管理などが簡略化されて、草丈の高い草が生い茂り、少なくなっている。

【保護対策】 鑑賞目的の採集をしない。

【文献】 千植誌 2003：686,680

(大場達之／天野誠)



D	シラン ラン科	2009	C
		2017	C
		2023	D

Bletilla striata (Thumb.) Rchb.f.

【種の特性】 中型の多年生草本。湿った日当たりのよい崖に生えるほか、チガヤ草原、土手などにも生える。葉は単葉で互生し並行した縦脈が隆起して目立つ。花は紅紫色で大きく目立つ。虫媒で、風散布。[G] シラノーススキ群集。(シロバナシランを含む)

【分布】 本州・四国・九州・琉球。中国。

【県内の状況】 ほぼ全県に見られるが、長く放置された造成宅地などに生えるものは栽培品からの逸出と考えられる。本来の自生環境は湿った溪谷の崖である。

【保護対策】 自生環境からの採取・販売は規制されるべきである。

【文献】 千植誌 2003：919,908

(大場達之／天野誠)



一般保護

D

D エビネ ラン科

Calanthe discolor Lindl.

2009	D
2017	D
2023	D

【種の特性】中型の常緑多年生草本。根茎に偽鱗茎が連なって、枝分かかれし、複数の株が集まっていることが多い。葉は単葉で互生。花は4～5月に咲く。花被片は赤褐色で、唇弁のみ白色～淡紅色であるが、色調には変異が多い。虫媒で、風散布。[G] ブナ群網。

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】ほぼ全域に分布するが、沖積低地にはほとんど見られない。かつては竹林、スギ林の下などに多かったが、園芸用の選択採取で著しく減少した。



【保護対策】自生株の採取・栽培・販売などをやめるべきである。園芸的に栽培されているものは、園芸の見地からの選択が働いており、また他のエビネ属との交雑が進んでおり、このような株を野外に植え戻すことは、本来の地域的な遺伝子組成を破壊することにつながるため、栽培品の野外への植え戻しは極めて慎重に行うべきであろう。

【文献】千植誌 2003：920, 909
(大場達之／天野誠)

D ナツエビネ ラン科

Calanthe reflexa Maxim.

2009	C
2017	C
2023	D

【種の特性】中型の多年生草本。照葉樹林あるいは照葉樹の混交するモミ林などに生える。葉は単葉で互生。葉の基部は相互に重なりやや筒状になる。葉の色はエビネよりも濃い緑色。花は8月。花被片は細く尖り、紅紫色を帯びた白色で、唇弁は濃い紅紫色。虫媒で、風散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮（済州島）、中国南部、台湾。

【県内の状況】分布は房総丘陵の南部に集中しているが、個体数は少ない。



【保護対策】観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】千植誌 2003：921, 909
(大場達之／天野誠)

D ギンラン ラン科

Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume

2009	C
2017	D
2023	D

【種の特性】小型の多年生草本、高さ15～30cm。葉は単葉で互生し、最上部の葉は花序より短い。花は5月初めに咲き白色、唇弁の距は明らかで、斜め下方に突出。虫媒で、風散布。[G] ブナ群網。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】かつてはクヌギーコナラの二次林の林床に多かったが、薪炭林としての利用がなくなって林床にアズマネザサが密生して、著しく個体数が減少したが、近年、都市域のクロマツ、マテバシイ、ス



ダジイなどの植栽された林にサガミランと共に多くの個体が見られるようになっている。

【保護対策】鑑賞目的などの採取をやめる。

【文献】千植誌 2003：914, 904
(大場達之／天野誠)

D キンラン ラン科

Cephalanthera falcata (Thunb.) Blume

2009	D
2017	D
2023	D

【種の特性】中型の多年生草本。葉は単葉で互生。花は5月初めに咲き黄色で、花被片は平開する。ギンラン、ササバギンランなどの同属の他の種類に比べて、全体が大きく、葉の幅が広く、緑の色が濃い。虫媒で、風散布。ブナ群網。[G]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】生育地における個体数の消長は、かなり激しく、過去には非常に密度の高い群落が観察されている（袖ヶ浦市）。コナラの二次林などの夏緑林に生えるが、最近都市の植栽されたスダジイ、マテバ



シイ、クロマツなどの林に生えることが観察されている。

【保護対策】鑑賞目的の採取は慎みたい。生育には共存する菌類が必要で、庭に植えても育たない。

【文献】千植誌 2003：914, 904
(大場達之／天野誠)

一般保護 D

D ササバギンラン ラン科	2009	C
	2017	D
	2023	D

Cephalanthera longibracteata Blume

【種の特性】 中型の多年生草本。根茎はキンラン、ギンランよりも深いところに位置している。葉は単葉で互生し、最上部の葉は花序より長い。茎や葉の縁、脈上などに細突起状の毛が多い。花は5月中旬に咲き、白色で、わずかな期間のみ平開する。距はやや長い、個体により変異がある。虫媒で、風散布。[G] ブナ群綱。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。サハリン、千島、朝鮮、中国。キンラン、ギンランよりも北方あるいは高標高のところに分布する傾向がある。



【県内の状況】 クヌギーコナラの二次林、竹林などに生えキンラン、ギンランより少ない。

【保護対策】 鑑賞目的などの採取をやめる。

【文献】 千植誌 2003 : 914, 904

(大場達之/天野誠)

D サイハイラン ラン科	2009	C
	2017	D
	2023	D

Cremastra appendiculata (D.Don) Makino

【種の特性】 中型の常緑多年生草本。地表近くに球状の偽茎を連ね、群がって生える傾向がある。葉は単葉で互生。花は花序のひとつの側に集まって垂れて咲き、紅紫色を帯びた褐色。虫媒で、風散布。[G]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。千島、サハリン、台湾、中国、ヒマラヤ。

【県内の状況】 竹林、やや湿った夏緑林とくにケヤキ林などに生える。

【保護対策】 鑑賞目的などの採取を行わない。

【文献】 千植誌 2003 : 921, 909

(大場達之/天野誠)



D ツチアケビ ラン科	2009	C
	2017	C
	2023	D

Galeola septentrionalis Reichb.f.

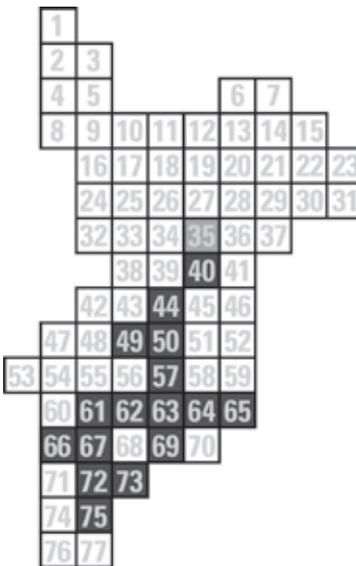
【種の特性】 大型の多年生草本。湿った暗い腐植質の多い、竹林、スギ林、照葉樹林などに生える。菌根性。葉は無葉緑。茎は褐色で直立し、多くの枝を分かち、夏に多数の黄褐色の花をつける、果実は曲がったウリ状で赤色で目立つ。虫媒で、風散布。ナラタケと共生。[G]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】 千葉県では山武市以南に分布し、北総からの観察例はない。

【保護対策】 生育地を良好な状態に保つ。

【文献】 千植誌 2003 : 916, 905
(大場達之/天野誠)



D シュスラン ラン科	2009	C
	2017	C
	2023	D

Goodyera velutina Maxim.

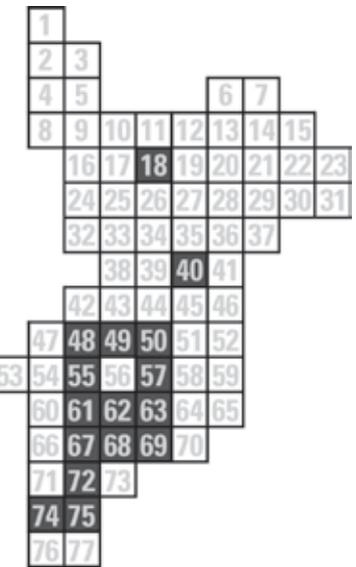
【種の特性】 小型の多年生草本。湿った照葉樹林の林床に生える。地下茎は地表を長く這って枝分かれして群生する。茎の先端は直立して先端に葉が集まり、その中央から花茎をだす。花は9月に咲き、わずかに紅色を帯びた白色。葉は単葉で互生し、黒みを帯びた濃緑色でピロイド状で中肋は白色。虫媒で、風散布。[H] カクレミノースダジイ群目。

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】 房総丘陵に多くの産地が知られ、北総には極めて稀である。

【保護対策】 鑑賞目的などの採取を行わない。

【文献】 千植誌 2003 : 918, 907
(大場達之/天野誠)



一般保護
D

D クモキリソウ ラン科

Liparis kumokiri F.Maek.

2009	C
2017	C
2023	D

【種の特性】 小型の多年生草本。林縁、路傍、スギ林など様々なところに生え、林縁の攪乱されたところを好む。葉は単葉で互生。花は7月に咲き淡緑色。虫媒で、風散布。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。千島。

【県内の状況】 県内各地に分布する。この仲間ではコクランに次いで普通である。

【保護対策】 鑑賞目的などの採取を行わない。量的には多いが、地域の物産店などで山取品を売っていることが多く、衰退する可能性がある。

【文献】 千植誌 2003 : 920,908 (大場達之/天野誠)



D ジョウロウスゲ カヤツリグサ科

Carex capricornis Meinsh.

2009	D
2017	D
2023	D

【種の特性】 多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。風媒で水散布。小穂は幅 1.5 ~ 3.0mm、長さ 15 ~ 18mm、喙が長く先が著しく 2 裂する果胞をつける。[HH]

【分布】 北海道・本州（関東地方）。東アジア。

【県内の状況】 手賀沼、印旛沼などの利根川流域を中心に生育するが、近年、千葉市、佐倉市の他、九十九里浜平野域にも群生地が確認されるようになった。水鳥による種子散布が分布拡大の原因と考えられる。

本種は遷移の初期群落に見出されることが多く、遷移の進行にともなってヨシ、ヒメガマなどの大型草本が侵入すると消滅する。

【保護対策】 水辺と湿地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 (1958) : 409 / 新千植誌 (1975) : 455 / 千植誌 2003 : 854,848

(谷城勝弘)



D ハタガヤ カヤツリグサ科

Bulbostylis barbata (Rottb.) Kunth

2009	D
2017	D
2023	D

【種の特性】 一年生草本。沿海地の日当たりの良い砂地に生える。葉は単葉で互生。風媒で、風散布。花序は頭状で多数の無柄の小穂からなる。[Th]

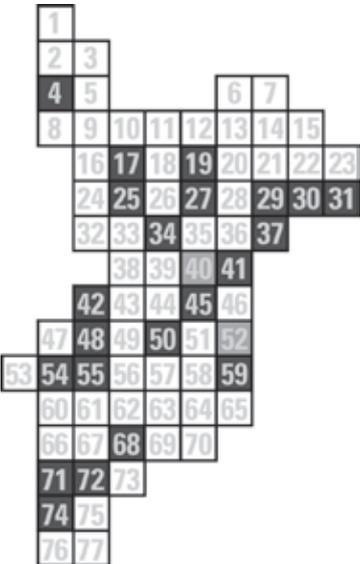
【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、インド、インドネシア、オーストラリア。

【県内の状況】 海岸松林の明るい林床や林縁などの砂地に生育する。内陸の造成地などにも稀に出現することがある。

【保護対策】 海岸松林の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958 : 408 / 新千植誌 1975 : 454 / 折目 1993 富里の植物 : 126 / 千植誌 2003 : 866

(谷城勝弘)



D ツクバスゲ カヤツリグサ科

Carex hirtifructus Kük.

2009	D
2017	D
2023	D

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で、重力散布。横走する根茎をもつ。千葉県のカツバスゲは果実の結実率が極めて低く、栄養繁殖を中心とした特異な個体群である。[H]

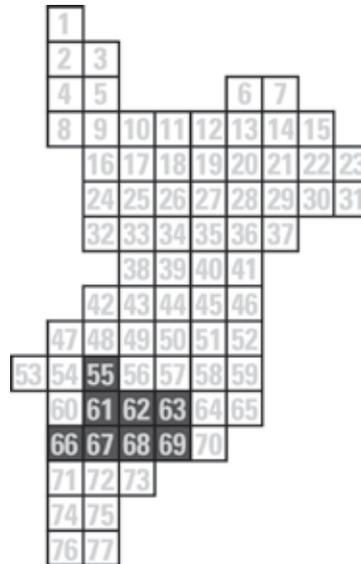
【分布】 本州・四国・九州。太平洋側の低山地。

【県内の状況】 清澄山系と高宕山系に生育する。

【保護対策】 生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 841,845

(谷城勝弘)



一般保護 D

D オキナワジュズスゲ カヤツリグサ科 <i>Carex ischnostachya</i> Steud. var. <i>fastigiata</i> T. Koyama	2009	D
	2017	D
	2023	D

【種の特性】多年生草本。森林性または草地性。葉は単葉で互生。ジュズスゲに似るが、葉幅は狭く、基鞘は赤みが強く、果胞は長さ3mm程度で小さい。風媒で重力散布。[H]

【分布】本州（関東）・四国・九州・琉球。

【県内の状況】確認の記録は県北東部に多いが、古くは清澄山で採られた標本もある（1935 CBM BS-166842）。ジュズスゲ var. *ischnostachya* と誤認されやすいため本県での詳しい分布は今後の精査にまたれる。

匝瑳市のスギ林には広範に及ぶ群落が形成されている。

【保護対策】生育の適地となる疎林ではアズマネザサの侵入が顕著な箇所が増えている。定期的に刈り取りをしてササ類の繁茂を抑えることが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1992 調査会目録：164 / 谷城勝弘 1994 調査会目録：121 / 谷城勝弘 1995 調査会目録：114 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物・新版千葉県の生物：37-50 / 千植誌 2003：853,847

(谷城勝弘)



D チュウゼンジスゲ カヤツリグサ科 <i>Carex longerostrata</i> C.A.Mey. var. <i>pallida</i> Ohwi	2009	D
	2017	D
	2023	D

【種の特性】多年生草本。明るい夏緑林～草原に生える。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。[H]

【分布】本州・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県北部のコナラ、クヌギなどを中心とする落葉樹林のやや明るい疎林の林床や林縁に疎らに生育する。

【保護対策】落葉樹林の放置による群落の遷移を防ぐために刈り取り等の管理を継続することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：411 / 新千植誌 1975：457 / 千植誌 2003：840,828

(谷城勝弘)



D オオアオスゲ カヤツリグサ科 <i>Carex lonchophora</i> Ohwi	2009	D
	2017	D
	2023	D

【種の特性】多年生草本。森林性または草地性。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。アオスゲ *C. leucochlora* より大型になり、苞鞘は2～3cmと長く、基部は糸状に分解する。[H]

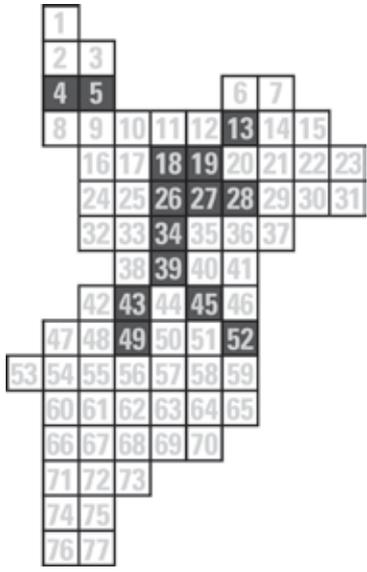
【分布】本州・四国・九州。中国。

【県内の状況】千葉県植物誌（1958）の植物目録に千葉市が記録されている。近年、県北部一帯に点在することが確認されている。

【保護対策】生育地では定期的な刈り取り管理を実施し、大型多年草の侵入を抑えることが望ましい。

【文献】千植誌 1958：411 / 谷城勝弘 1991 調査会目録：161 / 谷城勝弘 1992 調査会目録：162 / 折目 1993 富里の植物：110 / 谷城勝弘 1995 調査会目録：114 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物・新版千葉県の生物：37-50 / 千植誌 2003：836,826

(谷城勝弘)



D ヒメシラスゲ カヤツリグサ科 <i>Carex mollicula</i> Boott	2009	D
	2017	D
	2023	D

【種の特性】小型の多年生草本。森林性または草地性。葉は単葉で互生。根茎あり。葉裏は表面と同じ緑色。小穂は無梗で接近してつく。風媒で重力散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州・伊豆諸島。サハリン、朝鮮、中国。

【県内の状況】主として県中南部の丘陵地の沢沿いや山間の湿潤な草地に疎らに生える。本県ではまとまりのある群落形成はなく、個体数は少ない。北総では成田市で確認されている。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：411 / 新千植誌 1975：457 / 千植誌 2003：833,824

(谷城勝弘)



一般保護
D

D ヒゲスゲ カヤツリグサ科

Carex oahuensis C.A.Mey. var. *robusta* Franch. et Sav.

2009	D
2017	D
2023	D

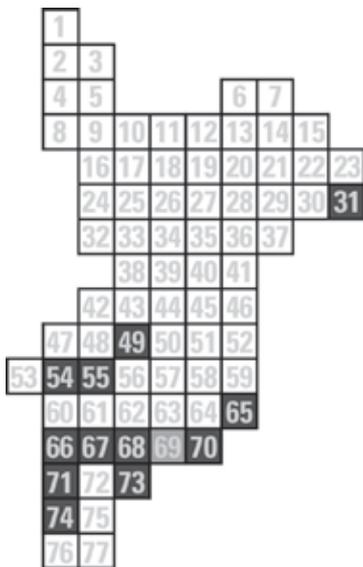
【種の特性】多年生草本。海岸性。葉は単葉で互生。葉は硬く、幅約1cm。基部は糸状に分解する。風媒で、重力散布。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球・伊豆諸島。朝鮮、中国。

【県内の状況】銚子市、県南部の海岸の岩崖地に生育する。潮風の当たる向陽地にしばしば群生する。

【保護対策】生育適地となる海岸草地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：409 / 新千植誌 1975：457 / 千植誌 2003：840,828. / 岩瀬・鶴岡・谷城・久保田 2006 犬吠崎の植物. 千生誌 56(1): 1-12 (谷城勝弘)



D ヒメゴウソ カヤツリグサ科

Carex phacota Spreng. var. *gracilispica* Kük.

2009	D
2017	D
2023	D

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。果胞に細乳頭がある。雌小穂は細く5～7mm。基部は淡色または黄褐色。風媒で、水散布。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】九十九里平野域に雌鱗片の芒が長く果胞表面には乳頭状突起を密布するホナガヒメゴウソ var. *phacota* が分布し、県中～北部台地の斜面下には芒が短く乳頭状突起が疎らなヒメゴウソ var. *gracilispica* が分布する。両変種とも個体数は少ない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：412 / 新千植誌 1975：457 / 谷城・細川・小野沢・山田・野口・久保田 1996 乾草沼. 千葉県自然環境保全学術調査報告書：11-101 / 千植誌 2003：831,822 (谷城勝弘)



D ホナガヒメゴウソ カヤツリグサ科

Carex phacota Spreng.

2009	
2017	
2023	D

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。雌鱗片の芒が長く、果胞表面には乳頭状突起を密布する。雌小穂は細く5～7mm。基部は淡色または黄褐色。ヒメゴウソより、穂が長い。風媒で、水散布。[H]

【分布】本州、四国、九州。東アジア。

【県内の状況】九十九里平野域に分布する。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】日本カヤツリグサ科植物図譜 2011 188-189 (天野誠)



D タカネマスクサ カヤツリグサ科

Carex planata Franch. & Sav.

2009	D
2017	D
2023	D

【種の特性】多年生草本。森林または林縁の湿地に生育する。風媒で、重力散布。葉は単葉で互生。果胞は著しく扁平、上部まで狭い翼あり。葉幅1.5～2.5mm。県内では6月以降完熟となり、ほかのスゲ属より遅い。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】県中南部の丘陵域の谷間や疎林の湿所に生育する。

【保護対策】湿地や落葉樹を主体とする疎林の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：412 / 新千植誌 1975：458 / 千植誌 2003：829,804 (谷城勝弘)



一般保護
D

D シオクグ カヤツリグサ科 <i>Carex scabrifolia</i> Steud.	2009	D
	2017	D
	2023	D

【種の特性】 多年生草本。湿地性または抽水性（海岸の砂泥地）。葉は単葉で互生。風媒で水散布。長い走出枝あり。葉は細く、幅1.5～3.0mm。小穂は1～2cm。[G] シオクグ群集。

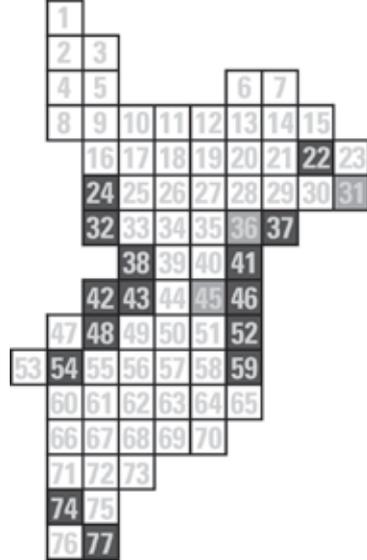
【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国。

【県内の状況】 河口や海岸の湿地に生える。外房に多く内房には稀である。一宮川には県内最大の広範な群落が発見される。

【保護対策】 本種の生育適地としての河口部の湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958 : 412
／新千植誌 1975 : 458。
／千植誌 2003 : 854,847
／谷城勝弘 2005 利根川河川敷の植物。千生誌 55(1): 9-16

(谷城勝弘)



D タガネソウ カヤツリグサ科 <i>Carex siderosticta</i> Hance	2009	D
	2017	D
	2023	D

【種の特性】 多年生草本。北部台地では北側の斜面に生育する傾向がある。葉幅広く、単葉で互生。風媒で重力散布。根茎は横走する。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 県内全域に点在する。葉が無毛のケナシタガネソウ f. *glabra* Ohwi et T. Koyama が松戸に記録される。

【保護対策】 アズマネザサ等の大型植物の侵入による衰退箇所が増えている。刈り取り管理を継続し大型種の生育を抑えることが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 843
(谷城勝弘)



D センダイスゲ カヤツリグサ科 <i>Carex sendaica</i> Franch.	2009	D
	2017	D
	2023	D

【種の特性】 多年生草本。森林性または海岸性。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。ナキリスゲ (var. *lenta*) に似るが、長い地下走出枝をもつ。[H]

【分布】 本州・四国・九州。濟州島、中国。

【県内の状況】 初め銚子市で確認され (1990.10.21 CBM BS-146954)、その後、南房総沿岸域のほか富里市、市原市など内陸域でも発見された。海岸線域 (かつての海退以前の海岸線域を含む) には生育地が連続すると推測される。

【保護対策】 海岸の松林、草地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 谷城勝弘 1992 調査会目録 : 163
／折目 1993 調査会目録 : 139
／折目 1993 富里の植物 : 130
／谷城勝弘 1995 調査会目録 : 116
／谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物 : 37-50
／千植誌 2003 : 834,824

(谷城勝弘)



D オニナルコスゲ カヤツリグサ科 <i>Carex vesicaria</i> L.	2009	D
	2017	D
	2023	D

【種の特性】 多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。風媒で、水散布。低地遺存ブナ帯要素。[HH]

【分布】 北海道・本州。朝鮮、サハリン、シベリア、北米。

【県内の状況】 利根川流域とその水系及び栗山川流域の湿地、河川敷に生育する。多古光湿原に大きな群落がある。近年は放置によってヨシが繁茂して衰退の著しい箇所が増えている。

【保護対策】 刈り取り、野焼きなどの管理を継続し、ヨシの繁茂を抑えることが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975 : 458
／谷城勝弘 1987 栗山川中流部の湿原。千葉県自然環境保全地域等適地調査報告書 : 265-291
／岩瀬・谷城・小野沢 1993 栗山川中流部の湿原。千葉県自然環境保全学術調査報告書 : 7-56
／千植誌 2003 : 854,848

(谷城勝弘)



一般保護
D

D ヒトモトススキ カヤツリグサ科

2009	D
2017	D
2023	D

Cladium chinense Nees

【種の特性】大型の常緑多年生草本。海岸性（湿地性または抽水性）。葉は単葉で互生。風媒で付着散布。葉は剛強で、歯牙あり。小穂は著しく多数。ヒトモトススキ群集。[HH]

【分布】本州（関東南部以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。

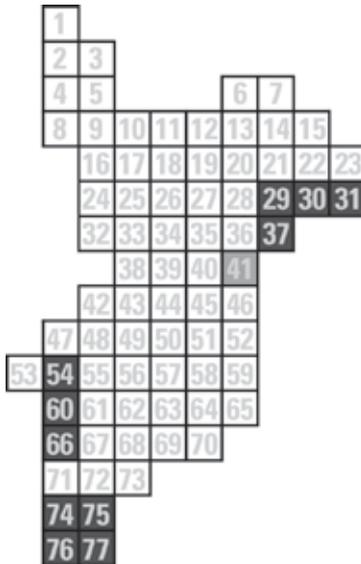
【県内の状況】太平洋側の沿岸と富津市以南の東京湾沿岸に記録がある。現在生育が認められる所は少ない。海水の出入りする河口部の湿地や潟湖の岸辺に生育する

が、そのような場所での自然環境の改変が近年は特に著しい。特異的な生育地としては旭市や横芝光町などのかつて海岸線域となっていた時代の遺存と判断されるものがある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：413 / 新千植誌 1975：458 / 千植誌 2003：857,849

(谷城勝弘)



D カンエンガヤツリ カヤツリグサ科

2009	D
2017	D
2023	D

Cyperus exaltatus Retz. var. *iwasakii* (Makino) T.

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。小穂は著しく扁平。鱗片の先端は凸形反曲し、長さ1.7~2,2mm。果実は広楕円形。風媒で水散布。[Th]

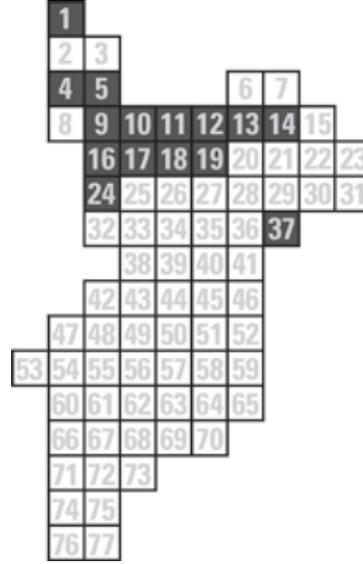
【分布】本州。

【県内の状況】利根川河畔および印旛沼、手賀沼周辺に分布する。利根川沿いの造成湿地には大群落をなすことがある。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。群生地については、定期的に表土の攪乱や刈り取りなどの管理を行って群落の遷移を抑えることが望ましい。

【文献】伊藤至 1964 佐原大橋（茨城県側）付近にカンエンガヤツリ採集。植物採集ニュース 12：5-6 / 伊藤至 1964 千葉県のカンエンガヤツリ。千生誌 14(2)：50-52 / 新千植誌 1975：459 / 千植誌 2003：897,891

(谷城勝弘)



D イヌクグ カヤツリグサ科

2009	D
2017	D
2023	D

Cyperus cyperoides (L.) O.Kuntze

【種の特性】多年生草本。草地に生える。葉は単葉。小穂は多数で花軸に開出してつく。茎の基部は肥厚する。風媒で、重力散布。[H]

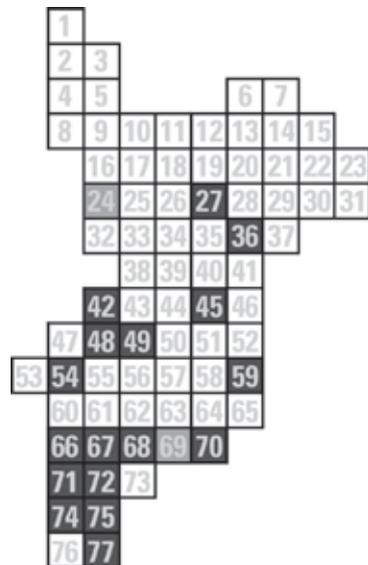
【分布】本州（関東南部、近畿南部、中国地方）・四国・九州・琉球。朝鮮南部、中国、インドネシア、インド、アフリカ。

【県内の状況】県南部の沿岸域の草地に点在する。個体数は少ない。

【保護対策】沿岸域の草地を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：894,886

(谷城勝弘)



D セイタカハリイ カヤツリグサ科

2009	C
2017	D
2023	D

Eleocharis attenuata (Franch. & Sav.) Pall.

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。刺針状花被片は下向きに粗造。風媒で、水散布。[Th]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、ニューギニア。

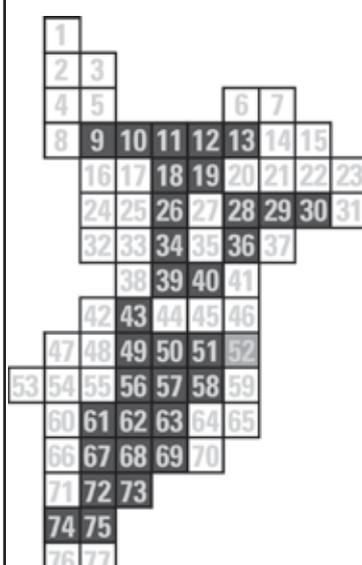
【県内の状況】台地の斜面下や丘陵地の山間の湿地に生育する。刺針状花被片が平滑なチョウセンハリイ f. *leviseta* H.Hara は、県内では初め多古町で確認され（1989.7.16 CBM BS-134109）、後に横芝光町、山武市などにも分布が判明した。チョウセンハリイは低平地の湿地に分布

し、セイタカハリイとは分布域が重複しない。

【保護対策】生育地とその周辺を含む湿地を保全することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1992 千葉県のチョウセンハリイ。スゲの会会報 3：4-7 / 谷城勝弘 1993 調査会目録：252 / 谷城勝弘 1995 調査会目録：118 / 千植誌 2003：877,888 / 谷城・森 2007 内浦山自然環境保全地域植物相。千葉県自然環境調査報告書。千葉県環境部自然保護課 23-40

(谷城勝弘)



一般保護 D

D ヒメハリイ カヤツリグサ科 <i>Eleocharis kamtschatica</i> (C.A.Mey) Komar.	2009	D
	2017	C
	2023	D

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。地下走出枝あり。莖は径1~1.5mm。小穂は暗赤紫色。果実は黄褐色で、刺針は下向き粗造。風媒で、水散布。[Th]

【分布】北海道・本州・九州。サハリン、カナダ、アラスカ、北米。

【県内の状況】利根川流域と九十九里平野の低湿地に点在する。九十九里平野域には刺針が退化したクロハリイ *f. reducta* Ohwi が多い。

【保護対策】大型草本の刈り取りを継続するとともに定期的に表土を攪乱させるなどの遷移を抑える管理を行うことが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 415 / 新千植誌 1975 : 460 / 千植誌 2003 : 867,871

(谷城勝弘)



D ノテンツキ カヤツリグサ科 <i>Fimbristylis complanata</i> (Retz.) Link	2009	D
	2017	D
	2023	D

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。無毛。鱗片は長さ3mm。柱頭3。ヒメテンツキ *F. autumnalis* に似るが、全体に大型で硬い。風媒で、風散布。[H]

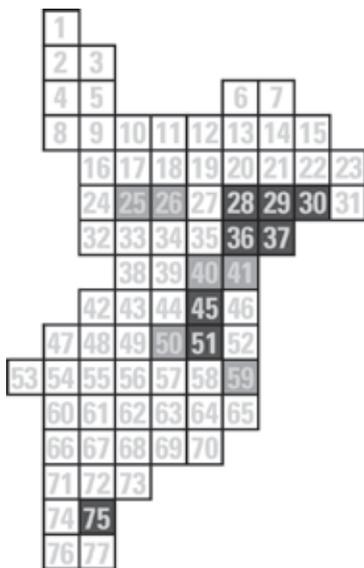
【分布】本州・四国・九州。朝鮮、台湾。

【県内の状況】県中北部の低湿地に多数の生育地が知られていたが、本種の生育に適した湿地が急減し、既知産地の多くは消滅した。成東・東金食虫植物群落の他、長生村、銚子市、旭市、横芝光町に少数個体が現存する。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 415 / 新千植誌 1975 : 461 / 千植誌 2003 : 864,852

(谷城勝弘)



D スジヌマハリイ カヤツリグサ科 <i>Eleocharis valleculosa</i> Ohwi	2009	D
	2017	D
	2023	D

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。風媒で水散布。地下走出枝あり。莖は縦に走る条が明らかで、全体に灰緑色を帯びる。果実の2-3倍の長さの刺針をもつヒゲスジヌマハリイ *form. setosa* (Ohwi) Kitagawa は九十九里平野に多い。[HH]

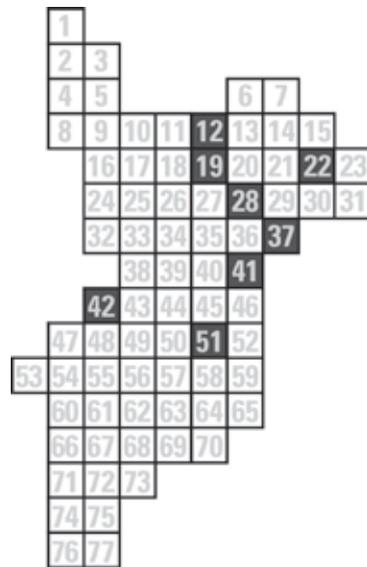
【分布】本州・九州。確認の記録は少ない。朝鮮、中国。

【県内の状況】県内では初め成田市の利根川河川敷で確認された(1989.4.22 CBM BS-136149)。剛強な根茎を伸ばして繁殖するので、水田の強害草となる危険性がある。

【保護対策】水田に侵入しないように管理する。

【文献】谷城勝弘 1990 調査会目録 : 121 / 谷城勝弘 1991 調査会目録 : 176 / 谷城勝弘 1992 調査会目録 : 168 / 谷城勝弘 1993 調査会目録 : 252 / 谷城勝弘 1994 調査会目録 : 122 / 谷城勝弘 1995 調査会目録 : 118 / 谷城勝弘 1997 袖ヶ浦市の水辺と湿地の植物・袖ヶ浦の植物 : 22-44 / 千植誌 2003 : 867,872

(谷城勝弘)



D クグテンツキ カヤツリグサ科 <i>Fimbristylis dichotoma</i> (L.) Vahl <i>f. floribunda</i> (Miq) Ohwi	2009	C
	2017	D
	2023	D

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。葉幅2~4mm。無毛。テンツキに似るが、より大型で質も厚い。小穂は数個が集まってつく。風媒で、風散布。[H]

【分布】本州(千葉以西)・四国・九州。

【県内の状況】安房地域中心に低地や山間の湿地、水田の畦に生育する。館山市には個体数が多い。長南町の記録もある。県南部域の湿地の調査は不十分であり、精査すればさらに分布域が広がるものと思われる。

【保護対策】既知生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 416 / 新千植誌 1975 : 461 / 谷城勝弘 1995 調査会目録 : 117 / 千植誌 2003 : 865

(谷城勝弘)



一般保護

D

D イソヤマテンツキ カヤツリグサ科

2009	D
2017	D
2023	D

Fimbristylis ferruginea (L.) var. *sieboldii* (Miq.) Ohwi

【種の特性】多年生草本。潮しぶきのかかる磯、浜の湿った場所に生育する。葉は単葉で全縁。全体に硬く、花序は枝分かれせず、～?5個の小穂をつける。鱗片は細毛がある。風媒で水散布。[H] イソヤマテンツキ群集

【分布】本州（千葉県、石川県以西）・四国・九州・琉球。

【県内の状況】沿岸部に点在する。基盤の安定した磯に生育することが多いが、海岸造成に伴って攪乱された砂地に群生することもある。

【保護対策】海岸域の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 865,870 (谷城勝弘)



D オオフトイ カヤツリグサ科

2009	D
2017	D
2023	D

Schoenoplectus lacustris (L.) Palla

【種の特性】多年生草本。湿地性または抽水性。葉は単葉で互生。風媒で水散布。フトイに似るが、根茎はより太く、赤みが強い。柱頭は3。[HH]

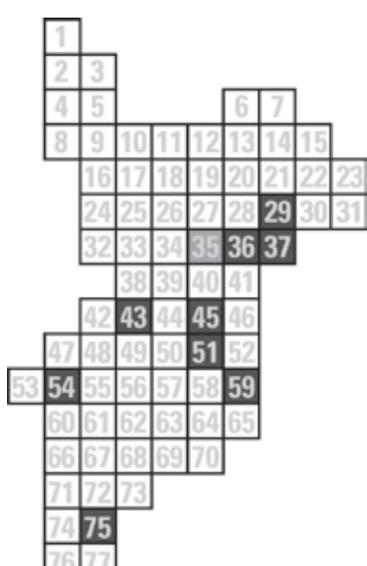
【分布】本州。

【県内の状況】九十九里平野、袖ヶ浦市等に確認される。過去のフトイ *S. tabernaemontani* Gmel の記録にはオオフトイが混同されている可能性がある。分布状況の詳細は今後の精査にまつれる。

【保護対策】生育地の環境（湿地）を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1992 調査会目録 : 172 / 谷城・小野沢 1994 坂田城跡の自然。千葉県自然環境保全学術調査報告書 / 谷城勝弘 1995 調査会目録 : 118 / 谷城勝弘 1996 調査会目録 : 118 / 谷城勝弘 1997 袖ヶ浦市の水辺と湿地の植物。袖ヶ浦の植物 : 22-44 / 千植誌 2003 : 879,874

(谷城勝弘)



D トネテンツキ カヤツリグサ科

2009	C
2017	D
2023	D

Fimbristylis stauntonii Deb. & Franch. var. *tonensis* (Makino) Ohwi

【種の特性】一年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。鱗片は2.0～2.5mm。果実は狭長楕円形で0.8～1.0mm。花柱は宿存性。風媒で、水散布。[Th]

【分布】本州。

【県内の状況】利根川水系と九十九里平野中南部を中心にに分布する。生育適地は遷移の初期群落内で、遷移の進行に伴う大型草本の侵入とともに消滅する。千葉県のトネテンツキと称されるものには柱頭が3分岐のものと3分岐と4分岐の混在するものがある。後者は、これま

でに認識されていない新たな分類群の可能性が高い。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 417 / 新千植誌 1975 : 462 / 岩瀬・村田・谷城 1989 利根川沿いの造成湿地の植物。千生誌 38(2) : 61 / 谷城勝弘 1997 袖ヶ浦市の水辺と湿地の植物。袖ヶ浦の植物 : 22-44 / 千植誌 2003 : 862,851 (谷城勝弘)



D タタラカンガレイ カヤツリグサ科

2009	D
2017	D
2023	D

Schoenoplectiella mucronata (L.) J.Jung & H.K.Choi var. *tatarana* (Honda) Yashiro

【種の特性】一年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。茎は狭い三翼があり、果実に横しわがある。風媒で、水散布。[HH]

【分布】本州。

【県内の状況】県内では初め我孫子市で確認された（1988.10.2 CBM BS-133825）。その後県北部の休耕田などを中心に複数地点で生育が確認されてきたが、消滅箇所が相次ぎ現存する所は少ない。

【保護対策】生育環境を維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1990 調査会目録 : 130 / 谷城勝弘 1991 調査会目録 : 186 / 谷城勝弘 1992 調査会目録 : 172 / 谷城勝弘 1993 調査会目録 : 254 / 岩瀬・谷城・小野沢 1993 栗山川中流部の湿原。千葉県自然環境保全学術調査報告書 : 7-56 / 千植誌 2003 : 882,875

(谷城勝弘)



D ノグサ カヤツリゲサ科	2009	D
	2017	D
	2023	D

Schoenus apogon Roem. & Schult.

【種の特性】多年生草本。沿海地性（内陸では斜面湿地性）。葉は単葉で互生。果実は球形で白色。基部と根は著しい赤紫色。風媒で、風散布。[H]

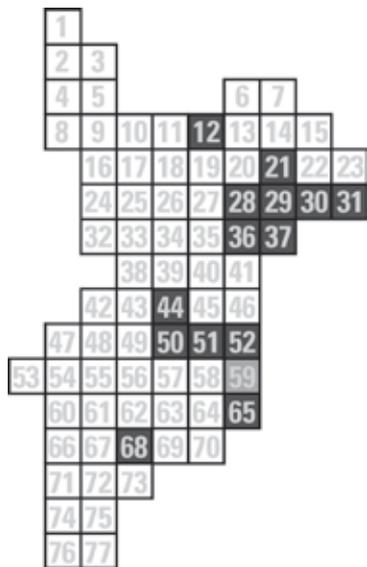
【分布】本州・四国・九州。マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】主に県北の太平洋側の向陽地を中心に分布する。局所的に少数個体が生育することが多い。旭市の崖湿地には多産する。

【保護対策】刈り取りによる管理を継続し、草地的な環境を維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 : 462
／千植誌 2003 : 860,851

(谷城勝弘)



D ホシクサ ホシクサ科	2009	C
	2017	D
	2023	D

Eriocaulon cinereum R.Br.

【種の特性】一年生草本。湿地性（水田、休耕田を含む）葉は単葉で束生。葯は白色。総苞片及び花苞は鈍頭またはや鋭頭。種子は楕円形で黄褐色。虫媒で、水散布。[Th]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド、アフリカ。

【県内の状況】水田や休耕田での生育が多く、稲刈り後の田面に一斉に発芽することがある。長生・茂原地域には複数の群生地がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 407 /
新千植誌 1975 : 453 / 折目
1993 富里の植物 : 110 / 千植
誌 2003 : 711,700

(谷城勝弘)



D イトイヌノヒゲ ホシクサ科	2009	C
	2017	D
	2023	D

Eriocaulon decemflorum Maxim.

【種の特性】湿地に生える一年生草本。葉は長さ5～10cm、先は尖る。花茎は30cmの長さになる。頭花は白色。総苞片は頭花より長く緑白色。種子は表面にかぎ毛がある。高さ10cm以下で頭花の小型のものをコイヌノヒゲ var. *decemflorum*、高さ20～30cmで頭花の大型のものをイトイヌノヒゲ var. *nipponicum* とされたこともあるが、変異は連続していて区別できない。

【分布】北海道、本州、四国、九州。朝鮮。

【県内の状況】多くの県内記録があるが、近年は消滅する産地が後を絶たない。湿地の改変、放置による植生の遷移が主原因である。

【保護対策】近年における湿地の著しい減少で絶滅の危惧される湿性植物が急増している。湿地を良好な環境で維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 711

(谷城勝弘)



D ニッポンイヌノヒゲ ホシクサ科	2009	C
	2017	D
	2023	D

Eriocaulon hondoense Satake

【種の特性】一年生草本。湿地性（水田、休耕田を含む）。葉は単葉で束生。イヌノヒゲに似るが花苞、花弁は無毛。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州。済州島

【県内の状況】清涼な水湿地や湿田を中心に生育するが、そのような環境の急減によって激減している。ヒロハイヌノヒゲと混生していることが多い。谷津奥などの湿田での調査密度が不足しており、分布状況の詳細は明らかでない。

【保護対策】生育可能な湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 407 /
新千植誌 1975 : 453 / 岩瀬・
谷城・小野沢 1993 栗山川中流
部の湿原・千葉県自然環境保全
学術調査報告書 : 7-56 / 折目
1993 富里の植物 : 110 / 千植
誌 2003 : 711,700

(谷城勝弘)



一般保護

D

D チョウセンガリヤス イネ科

2009	D
2017	D
2023	D

Cleistogenes hackelii (Honda) Honda

【種の特性】 根茎の短い多年生草本。葉鞘部に開出毛があり、葉舌は毛状。葉鞘部からでない閉鎖花の花序のほか、長さ4~8cmの抜け出す花序がある。小穂は2~4小花からなり、ときに赤紫色を帯び、護穎は長さ4~5mmで、芒を出す。花期は8~10月。[H]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 県内の全域の雑木林などの林内にみられる。

【保護対策】 雑木林の保全。

【文献】 千植誌 2003 : 744, 736

(木村陽子)

**D カリマタガヤ イネ科**

2009	D
2017	D
2023	D

Dimeria ornithopoda Trin.

【種の特性】 小形の一年生草本。陽地の水湿地に生育。葉身、葉鞘にまばらな毛がある。花序は2~3本の総からなり、中軸は扁平で、長さ3~8cm。小穂は長さ2.7~3.8mmで、両性の上方小花の護穎には3~10mmの芒が外に突き出す。花期は8~10月。[Th]

【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、東南アジア、オーストラリア。

【県内の状況】 県内各地。芒がなく帯紫褐色のヒメカリマタガヤ (f.

microchaeta Hack.) と混生することがある。

【保護対策】 開発で失われやすい湿地の保全。

【文献】 千植誌 2003 : 781, 778

(木村陽子)

**D オオギョウギシバ イネ科**

2009	D
2017	C
2023	D

Cynodon dactylon (L.) Pers. var. *nipponicus* Ohwi

【種の特性】 地上匍匐枝を長く出し、節から発根する多年生草本。ギョウギシバの変種で、ギョウギシバに比べ全体が大きい。花期は9月~11月。[H~Ch]

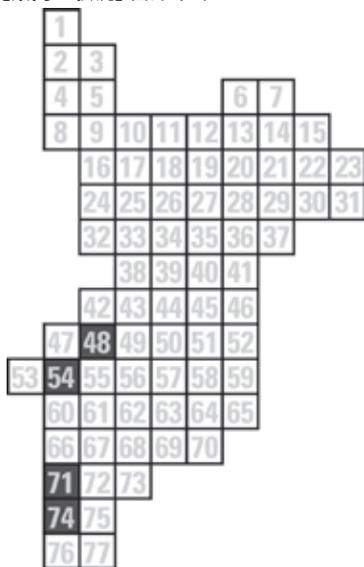
【分布】 本州。西日本の特産とされ、三重県や伊豆に分布が知られていたが、千葉県にも分布があり、日本における分布の東・北限となることが明らかになった。さらに北にある茨城県でも1980年頃採集したとの情報がある。

【県内の状況】 富津市(1961.10.25 KPM-NA0037595)の標本があったが、館山市の海岸(2001.10.9)で再確認された。

【保護対策】 自然海岸の保全。

【文献】 勝山輝男 2003 オオギョウギシバ 千資料 19 : 144 / 千植誌 2003 : 760, 751

(木村陽子)

**D オオニワホコリ イネ科**

2009	
2017	D
2023	D

Eragrostis multispicula Kitag.

【種の特性】 中型の一年生草本。高さ30~70cm。茎は数本叢生。葉鞘の口部に白い毛がある。円錐花序は卵形で、先はやや傾く。花序枝の分岐点に数本の軟毛がある。小穂は、同じ大きさの小花数個からなる。花期は、8月~10月。風媒で、重力散布。平地の里山の道端や畑に生育する。[Th]

【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。ユーラシア。

【県内の状況】 主に丘陵地の道端に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:422 / 新千植誌 1975:467 / 増補日本イネ科植物図譜 1993:478 / 千植誌 2013:746

(天野誠)



D ヒメウキガヤ イネ科	2009	D
	2017	D
	2023	D

Glyceria depauperata Ohwi

【種の特性】多年生草本。水辺に生育。稈は水面に浮いていることが多い。円錐花序の幅は狭い。葉鞘は完筒形。内穎は護穎と同長。内穎の竜骨上のひれは幅広い。県内産のウキガヤとされていたものは、護穎の長さ3.5mm以下のものが多くヒメウキガヤである。花期は5～7月。[HH]

【分布】北海道・本州。千島、中国北部。

【県内の状況】以前は北部に散見されたが、近年は南部からも報告されている。

【保護対策】自然な川、池の保全。

【文献】千植誌 2003：762, 722

(木村陽子)



D チャボチヂミザサ イネ科	2009	D
	2017	D
	2023	D

Oplismenus undulatifolius (Ard.) Roem. & Schlut. var. *microphyllus* (Honda) Ohwi

【種の特性】多年生草本。やや湿った所に生育。花序には毛が少ないが、葉面には微毛のほか長毛が散生しているのはコチヂミザサとのよい区別点である。生育がよいと、最上葉の葉の長さは4～4.5cmにもなり、コチヂミザサと似るが、葉の幅が狭いので、細長く見える。花期8～10月。[H]

【分布】本州（関東以西、栃木県、千葉県、神奈川県）・四国・九州・琉球。台湾、フィリピン、ボルネオ。

【県内の状況】県内の清澄山は等価基準標本の産地の1つである。千葉県では、長く忘れられた種であったが、認識されるようになってから、県南の丘陵地以外の佐倉市や山武市でも採集されている。

【保護対策】山林の保全。

【文献】Honda M. 1930. Journ. Fac. Sci. Tokyo Univ. Bot. vol.3：274 / Scholz, U. 1981. Monographie der Gattung *Oplismenus*. J.Cramer Vaduz / 木村陽子・大場達之 1998 千葉県のチャボチヂミザサ. 千資料 13：91 / 木村陽子 1999 チャボチヂミザサ—その2. 千資料 14：102 / 小崎昭則 1999 チャボチヂミザサなど. 千資料 14：102-104 / 千植誌 2003：766, 756

(木村陽子)



D アイアシ イネ科	2009	D
	2017	D
	2023	D

Phacelurus latifolius (Steud.) Ohwi

【種の特性】大形の多年生草本。根茎が長い。葉身はやや白緑色。花序は5～10本の総が掌状に並び、総は長さ10～25cm、幅5mmで、各節に有柄小穂と無柄小穂がつき、共に雄性と両性の2小花からなる。第1苞穎は革質で硬い。花期は6～10月。[HH]

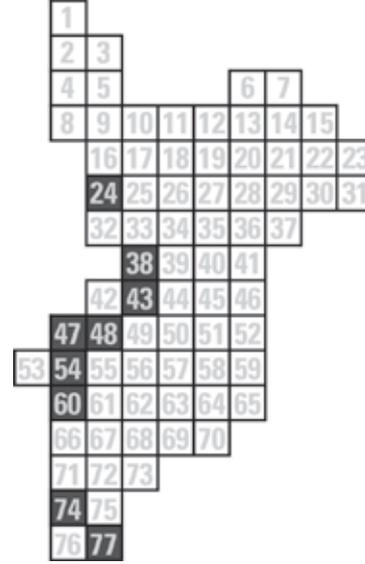
【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国北部、アムール。

【県内の状況】県内では小櫃川や江戸川放水路河口をはじめ、東京湾ぞいから南房総市の湿地や河口に生育するが、太平洋側には現在の所見られない。

【保護対策】埋め立てにより少なくなった海辺の湿地、河口域の保全。

【文献】千植誌 2003：786, 791

(木村陽子)



D イヌアワ イネ科	2009	D
	2017	D
	2023	D

Setaria chondrache (Steud.) Honda

【種の特性】多年生草本。根茎は伸びる。円錐花序は、中軸に短い枝が交互につき、長さ30cmにもなる。花期は8～10月。[H]

【分布】本州（東北部以西）・四国・九州。朝鮮、中国南部。

【県内の状況】市川市から鴨川市にかけての記録はあるが、九十九里方面からの記録は少ない。

【保護対策】生育地である林、藪、湿生原野の保全。

【文献】千植誌 2003：769, 775

(木村陽子)



一般保護
D

D オオアブラススキ イネ科

2009	D
2017	D
2023	D

Spodiopogon sibiricus Trin.

【種の特性】多年生草本。稈高1mと大形で、根茎は長く鱗片におおわれる。花序の枝は斜上する。小穂は長さ5mm、苞穎の背には長毛がやや密生。下方小花は雄性、まれに無性、上方小花は両性で護穎の先に長さ7~12mmの芒を出す。花期は8~10月。[H]

富津岬 (1961.10.25, 大場達之, KPM-NA0037595)

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国北部、シベリア。

【県内の状況】船橋市から鋸南町にかけての記録が多いが、御宿町や銚子市にも産する。

【保護対策】草地の保全。

【文献】千植誌 2003:781,778 (木村陽子)



D オニシバ イネ科

2009	
2017	D
2023	D

Zoysia macrostachya Franch. & Sav.

【種の特性】小型の多年生草本。高さ5~20cm。長い地下茎がある。茎は単生、根元で分枝する。葉身は2~8cm、先が尖っている。花序の下部は最上部の葉鞘に包まれている。花序は長さ3~4cm、幅5~7mm。小穂は1小花からなる。花期は、6月~8月。風媒で、重力散布。海岸の砂浜に生育する。コウボウムギ群団。[G]

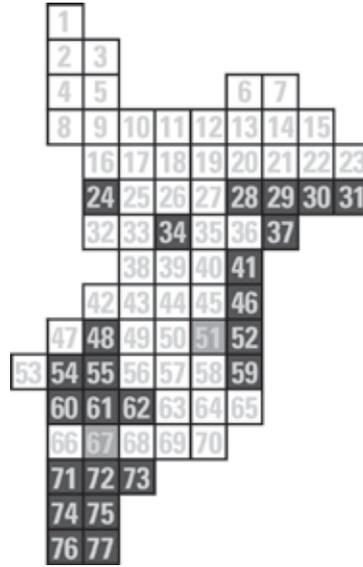
【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】全県下の砂浜に散在する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:428 / 新千物誌 1975:473 / 増補日本イネ科植物図譜 1993 540 / 千植誌 2003:761

(天野誠)



D ハネガヤ イネ科

2009	D
2017	C
2023	D

Stipa pekinensis Hance

【種の特性】背の高い多年生草本。草地に生える。稈は直立して枝を分けない。円錐花序は枝を3~6個出し、苞穎は小穂と同長で3脈、ときに紫色を帯び光沢がある。護穎の外表面には軟毛があり、2cm以上の芒がある。花期は8~9月。[H]

【分布】北海道・本州。サハリン、千島、中国北部、極東シベリア。

【県内の状況】北部に多い。市川市でも確認されたが、その個体数はわずかである。

【保護対策】かつてのカヤ刈り場、ススキ草地の復活、保全。

【文献】千植誌 2003:715,717 (木村陽子)



D ミクリ ガマ科

2009	C
2017	D
2023	D

Sparganium erectum L.

【種の特性】多年生草本。湿地性または浅い水中。葉は単葉で互生。高さ1m以上になり、ミクリ属の中では最も大型の種。果実はほぼ等大のものからなる。風媒で水散布。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、インドなど。

【県内の状況】河川や池沼の岸辺に普通に見られたが、現在は谷津奥のため池や水路、斜面下の湿所などに点在する程度に減少した。湿地環境の改変で消滅する場所が後を絶たない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:433 / 新千植誌 1975:479 / 岩瀬徹 1989 県のミクリ属について. 千植誌 39(1):30-31 / 谷城・小野沢 1994 坂田城跡の自然. 千葉県自然環境保全学術調査報告書:9-87 / 千植誌 2003:814

(谷城勝弘)



一般保護 D

D ミズアオイ ミズアオイ科	2009	C
	2017	C
	2023	D

Monochoria korsakowii Regel & Maack

【種の特性】小～中形の一年生草本。植物体は軟弱で高さ 20～40cm。葉は単葉で互生し、長い葉柄があり、心形～卵心形。花は 9～10 月に咲き、花序は頂生し総状。花は青紫色で直径 2.5～3cm。虫媒で水散布。[Th] タウコギ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、プリモーリア。

【県内の状況】県北部の各地で記録されているが、どこでも個体数が少なく安定的な産地は少ない。水田周辺の溝、池などに生える。水田中

にも見られるが、除草剤の使用で消滅する。

【保護対策】農業で汚染された排水の影響を受けない平地の水域を計画的に保全する。

【文献】千植誌 2003：702,694

(大場達之/天野誠)



D ミヤマキケマン ケシ科	2009	D
	2017	C
	2023	D

Corydalis pallida (Thunb.) Pers. var. *tenuis* Yatabe

【種の特性】小型の多年生草本。葉は 3 出複葉で互生。虫媒で、自力散布。低地遺存ブナ帯要素。[Th]

【分布】本州。

【県内の状況】房総丘陵に点在するが、下総台地南部の成東での記録もある。湿った川沿いのケヤキ林、竹藪などに見られる。

【保護対策】生育環境を保つ。

【文献】千植誌 2003：231,225

(大場達之/天野誠)



D イカリソウ メギ科	2009	D
	2017	C
	2023	D

Epimedium grandiflorum C.Morren var. *thunbergianum* (Miq.) Nakai

【種の特性】中型の多年生草本。葉は 3 出複葉で互生。虫媒で、自力散布。[G] ブナ群綱。

【分布】北海道・本州。

【県内の状況】下総台地の雑木林に多いが、下草刈りなどの手入れが行き届かず、アズマネザサなどの繁茂で著しく個体数が減っている。

【保護対策】鑑賞目的の採取をやめる。自生環境を保つ。

【文献】千植誌 2003：199,207

(大場達之/天野誠)



D イチリンソウ キンポウゲ科	2009	C
	2017	C
	2023	D

Anemone nikoensis Maxim.

【種の特性】小型の常緑多年生草本。全体淡緑色。苞葉は柄がある。花は花序に通常 1 個つける。虫媒で重力散布。シキミーモミ群集など。[H]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】県内の中～北部に複数の産地が知られる。谷津の湿った斜面下などを生育の適地とするが、近年はそのような場所が放置されてアズマネザサや高茎草本からなる藪となったところが増え、本種のような小型草本の生育維持が困難となっている。

【保護対策】谷津斜面での定期的な刈り取りを行うことが望ましい。

【文献】千植誌 2003：197,205.

【写真】2007.4.22 佐倉市宮内 谷城勝弘

(大場達之/谷城勝弘 追補)



一般保護

D

D クサボタン キンポウゲ科

2009	D
2017	D
2023	D

Clematis stans Siebold & Zucc.

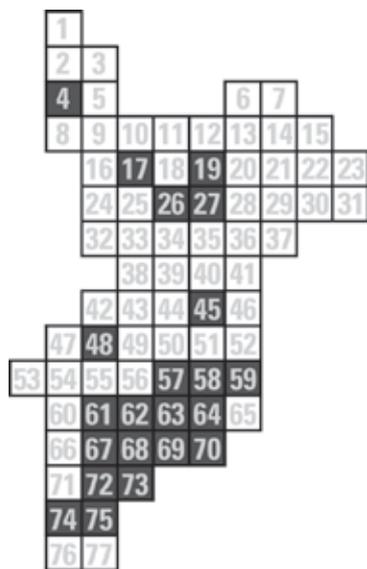
【種の特性】 中型の多年生草本。乾きやすい夏緑林や林縁に生える。茎は直立。葉は3出複葉で対生または互生。虫媒で、風散布。[N] オニシモツケオオヨモギ群目。

【分布】 本州。

【県内の状況】 主に房総丘陵の川沿いの岩場などに記録されるが少ない。佐倉市、野田市、船橋市の記録もある。

【保護対策】 生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 188, 196
(大場達之/谷城勝弘 追補)



D ネコノメソウ ユキノシタ科

2009	
2017	D
2023	D

Chrysosplenium grayanum Maxim.

【種の特性】 高さ7~15cmの夏緑のほぼ無毛の小型多年生草本。湿った谷の日陰の腐植質の多いところに生える。地上をほう長い走-out枝がある。茎は四稜形で十字対生。葉は広卵形から卵円形で、円鋸歯があり、基部は楔形で、長い柄がある。長さ5~12mm。花序は頂生し、二出集散、苞は大きく目立つ。花は4数性で、萼片は倒卵形、円頭、長さ約1.5mm、緑色。花弁はない。雄しべは4本、葯は黄色い。雌しべは2心皮で離生。果実は蒴果で、上部から裂けて、種子を散布する。

虫媒で、重力散布。[H] オオバセンキュウータネツケバナ属群団。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。千島、朝鮮、中国。

【県内の状況】 南総から北総東部の丘陵に点在する。

【保護対策】 生育地の環境を良好に保つ。

【文献】 千植誌 2003 : 255, 263
(大場達之/天野 誠 追補)



D キリンソウ ベンケイソウ科

2009	C
2017	C
2023	D

Phedimus aizoon (L.) t Hart var. *floribundus* (Nakai) H.Ohba

【種の特性】 高さ20~30cmの夏緑の多年生草本。海岸および山地の岩場に生える。茎は斜上し、多肉で、無毛。葉は互生、長楕円形で、多肉、長さ3~5cm、片側に5~7の鋸歯がある。花は集散花序に10~20個つく。花は5数性、萼は披針形、花弁は狭楕円形で、黄色、長さ約5mm。雄しべは10本で、葯は黄色。離生心皮は5つ。果実は蒴果で、熟すと上部から裂ける。虫媒で重力散布。エゾオオバコーウシノケグサ群綱。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国東北部。

【県内の状況】 富津市および白子町以南と三石山に生育している。千葉県は太平洋岸の海岸分布の南限である

【保護対策】 観賞用などでの採集をしない。

【文献】 千植誌 2003 : 253, 262
(天野誠)



D イズノシマダイヤモンドソウ ユキノシタ科

2009	D
2017	D
2023	D

Saxifraga fortunei Hook.f. var. *crassifolia* (Engl. & Irmsch.) Nakai

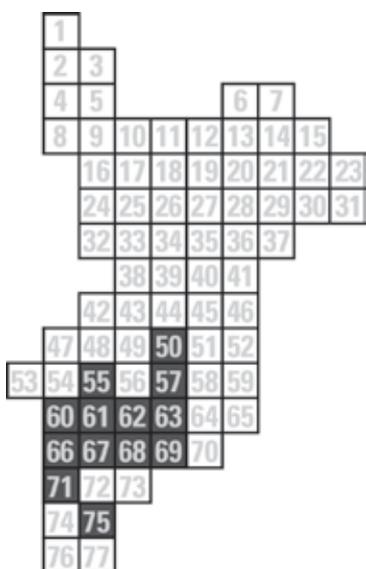
【種の特性】 小型の夏緑の多年生草本。沢沿いの湿った崖に着生する。根茎が発達し、数本の花茎を立てる。葉はほぼ根出葉、長柄がある。偏円形で、荒く不規則に切れ込む。両面に剛毛が生える。花序は総状で、頂生する。花は5数性。萼片は卵形で、反り返る。花弁は線形で不等長、下につく1枚が長く、長さ7~13mm、白色。雄しべは花糸が短く、葯が黄色が目立つ。雌しべは2心皮で、離生。果実は蒴果で、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で、風散布。[E] ホウライシダ群綱。

【分布】 本州（関東南部）。

【県内の状況】 南総の丘陵地の谷に分布する。

【保護対策】 生育地の環境を良好に保つ。

【文献】 千植誌 2003 : 255, 263
(大場達之/天野 誠 追補)



D エゾタチカタバミ カタバミ科	2009	
	2017	C
	2023	D

Oxalis stricta L.

【種の特性】 中型の多年生草本。茎は、単立、互生に葉を付ける。高さ、15～30cm。果柄は水平より下がらない。花期は、6月～10月。虫媒で、自動散布。丘陵地の常緑樹の林縁に生育する。[H]

【分布】 北海道・本州。朝鮮、中国、プリモーリア。

【県内の状況】 主に丘陵地に生育する。

【保護対策】 生育地の環境を良好に保つ。

【文献】 千植誌 1958:343 / 新千植誌 1975:405 / 千植誌 2003:312 / 改訂新版日本の野生植物 3 2017:141



(天野誠)

D イイギリ ヤナギ科	2009	
	2017	C
	2023	D

Idesia polycarpa Maxim.

【種の特性】 落葉高木。雌雄異株。樹皮は灰褐色。枝は太く、まばら。葉は三角状心形で、葉身とほぼ同長の柄を持つ。花は円錐花序に多く付き、萼は5枚、花弁は退化している。雄花では、多数の雄しべがあり、雌花では雄しべは退化して子房は球形。果実は赤く成熟し、球形。花期は、3月～5月。虫媒で、鳥散布。平地から丘陵地の落葉樹林に生育する。[MM]

【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国。

【県内の状況】 主に南房の丘陵地および北総東部の台地に分布する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:351 / 新千植誌 1975:395 / 千植誌 2003:375 / 改訂新版日本の野生植物 3 2017:184



(天野誠)

D トモエソウ オトギリソウ科	2009	C
	2017	C
	2023	D

Hypericum ascyron L.

【種の特性】 多年生草本。林縁の草地に生える。

茎は高さ50～100cm。葉の基部は茎を抱き、多くの明点がある。花は明らかな巴形になる。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、シベリア。

【県内の状況】 全域に散在するが、少ない。県内ではやや冷涼な半日陰に生育する傾向がある。

【保護対策】 各地で1～数個体が確認されるのみであり、大変少ない。生育箇所を明示して保護することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003:217,221

(谷城勝弘)



D バッコヤナギ ヤナギ科	2009	D
	2017	D
	2023	D

Salix bakko Kimura

【種の特性】 夏緑小高木。葉は楕円形で大きく下面に柔らかい縮毛が密にある。花序は幅2cmほどある。崩壊地周辺など乾いた環境に先駆的に生える。[MM]

【分布】 北海道・本州（近畿以北）。ユーラシアの中～北部に分布する *S. caprea* L. と同一種とする意見がある。

【県内の状況】 本来はブナ帯に多い種類で千葉県では県内各地に散発的に見られる。

【保護対策】 自生地の環境を保つ。

【文献】 千植誌 2003:92,104

(大場達之/天野誠)



一般保護
D

D オノエヤナギ ヤナギ科

Salix sachalinensis F.Schmidt

2009	
2017	C
2023	D

【種の特性】 落葉高木。高さ、8～15m。葉は狭卵形で、長さ10～16cm。全縁またはわずかに鋸歯がある。葉の表面に無毛。雄花は、雄しべが2本、花糸は無毛で、離生する。雌花は白い短毛がある。花期は、4月～5月。風媒で風散布。河岸に生育する。オノエヤナギ群綱。[MM]

【分布】 北海道・本州・四国。千島、カムチャッカ、サハリン、ウスリー、アムール、シベリア。

【県内の状況】 主に北総と南総の河岸に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:395 / 新千植誌 1975:440 / 千植誌 2003: 92 / 改訂新版日本の野生植物 3 2016 :199

(天野誠)



D オオキツネヤナギ ヤナギ科

Salix vulpinoides Koidz.

2009	D
2017	D
2023	D

【種の特性】 夏緑低木。葉は単葉で互生。低地遺存ブナ帯要素。風媒で風散布。[N] タニウツギ群団。別名オオネコヤナギ。

【分布】 本州（中部以東）。

【県内の状況】 崩壊地、道路などの法面などに生える。自生地は千葉市、袖ヶ浦市など極めて限られている。

【保護対策】 自生地を保全する。

【文献】 千植誌 2003 : 93, 104

(大場達之 / 天野誠)



D キツネヤナギ ヤナギ科

Salix vulpina Andersson

2009	D
2017	D
2023	D

【種の特性】 夏緑低木。葉は単葉で互生。風媒で、風散布。タニウツギ群団。[N]

【分布】 北海道・本州・四国・九州（北部）。東北地方、関西などでは道路法面などに普通に生える種類であるが、関東地方の南部では、それがシバヤナギに置き換わっており、キツネヤナギは稀である。

【県内の状況】 主として北総台地に見られるが君津市にも少数の記録がある。

【保護対策】 自生地を保全する。

【文献】 千植誌 2003 : 92, 104

(大場達之 / 天野誠)



D ホドイモ マメ科

Apios fourtunei Maxim

2009	
2017	D
2023	D

【種の特性】 多年生草本。つる植物。長さ、100～200cm。地下茎に紡錘体の塊根を付ける。茎は他の植物に巻き付く。葉は5枚の小葉からなる複葉である。花序は偽総状花序で、1節に2～4個の花を付ける。花の長さは約1cmで、黄緑色。花期は、7月～9月。虫媒で自動散布。日当たりの良い林縁に生育する。ミヤマタタビーヤマブドウ群団。[G]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】 主として北総と南総の丘陵地に散在する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:363 / 新千植誌 1975: 405 / 千植誌 2003:298 / 改訂新版日本の野生植物 2 2016:256

(天野誠)



一般保護
D

D ジャケツイバラ マメ科	2009	D
	2017	D
	2023	D

Caesalpinia decapetala (Roth) Alston

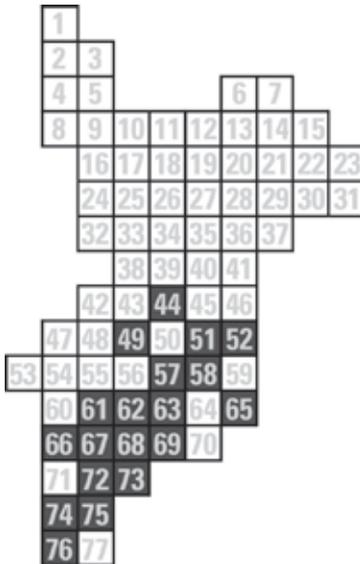
【種の特性】 夏緑性の藤本。枝には著しい鉤状の棘があって、他の植物の上に広がる。葉は羽状複葉で互生し照葉は6～16個で下面は粉白色。花は4～6月に咲き黄色でおしべは赤色、果実は長楕円形で長さ10cm。虫媒で鳥散布。低地遺存ブナ帯要素。ブナ群綱。[N] クサギーアカメガシワ群団。

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】 市原市・一宮町以南の県南部に広く分布する。

【保護対策】 強い棘があるが、意識的に除去しない。

【文献】 千植誌 2003：294, 302
(遠藤泰彦／大場達之 追補)



D レンリソウ マメ科	2009	C
	2017	C
	2023	D

Lathyrus quinquenervius (Miq.) Litv.

【種の特性】 多年生つる草本全体が白っぽい緑色。草索性。茎は翼があって扁平、近く草の草からみ、あるいはよりかかって立ち上がり、高さ40～60cmになる。葉は羽状複葉で互生、小葉は線形で長さ6～10cm。花は5～6月に咲き、紫色の花を5～8個つける。虫媒で重力散布。[G]

【分布】 本州・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】 県北部の草原に生えるが、自然的な草地の衰退とともに少なくなっている。

【保護対策】 観賞用などの採集を行わない。

【文献】 千植誌 2003：309, 318
(遠藤泰彦／大場達之 追補)



D サイカチ マメ科	2009	D
	2017	D
	2023	D

Gleditsia japonica Miq.

【種の特性】 夏緑高木。河川敷などに生える樹幹に枝分かれした大きな棘が多い。葉は偶数羽状複葉で互生。花は5～6月に咲き緑色、総状花序に密につき、花弁は3～5個で小さく、雄蕊は長く超出。果実は平坦で湾曲し長さ20～25cmで垂れ下がる。虫媒で、水散布。[MM]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】 江戸川流域に本来の自生と考えられるものがあるほか、社寺などに植えられ、またそれから逸出したと考えられるものもある。

【保護対策】 野生株の伐採はやめる。

【文献】 千植誌 2003：294, 302
(遠藤泰彦／大場達之 追補)



D マキエハギ マメ科	2009	
	2017	D
	2023	D

Lespedeza virgata (Thunb.) DC.

【種の特性】 多年生草本。高さ、30～60cm。葉は3枚の小葉からなる複葉である。花序は偽総状花序で、2～5個の花を付ける。花の長さは4～5mmで、淡紅色。花期は、8月から9月。虫媒で重力散布。日当たりの良い草地に生育する。[H～Ch]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】 主に北総と南総の丘陵地の草地に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:365 / 新千植誌 1975:407 / 千植誌 2003:296 / 改訂新版日本の野生植物 2 2016:281

(天野誠)



一般保護
D

D イヌエンジュ マメ科

2009	D
2017	D
2023	D

Maackia amurensis Rupr. & Maxim.

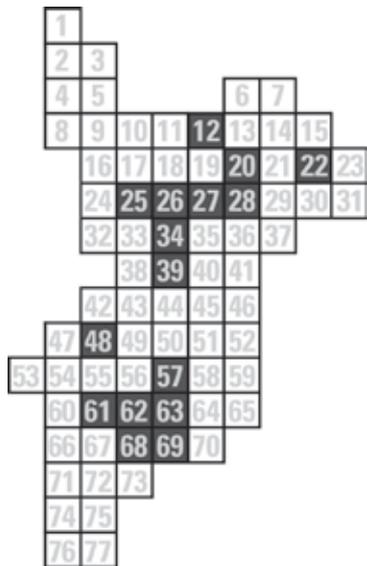
【種の特性】夏緑中高木。明るい乾いた林などに生える。高さ2～10m。葉は奇数羽状複葉で互生し、小葉は7～11個で卵形、下面に褐色の軟毛がある。花は7～8月に咲き、花序は総状花序の集まりで、白色の花を密につける。果実は扁平で広線形で3～6個の種子がある。虫媒で重力散布。[MM]

【分布】北海道、本州（中部以北）。

【県内の状況】ほぼ全域に見られるが花の咲くような個体は少ない。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003：294, 302
(遠藤泰彦/大場達之 追補)



D カスミザクラ バラ科

2009	
2017	C
2023	D

Cerasus leveilleana (Koehne) H. Ohba

【種の特性】大型の落葉高木。葉は、倒卵形で、尾状に先が尖る。葉の長さは7～10cm、両面に軟毛が生える。鋸歯は単鋸歯または粗い二重鋸歯。花は葉と同時に開く。花序は散房状で、2、3の花が付く。萼は全縁。花弁の色は、白または淡紅色。花期は、4月～5月。虫媒で、動物内散布。丘陵地の落葉樹林に生育する。[MM]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】主に北総と南総の丘陵地に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975:412 / 千植誌 2003:287 / 改訂新版日本の野生植物 3 2017:67

(天野誠)



D ヒメイタビ クワ科

2009	
2017	C
2023	D

Ficus thunbergii Maxim.

【種の特性】中型の常緑性藤本。茎から根を出して、這い上る。茎を伸ばす。枝には開出する軟毛が生える。葉身は卵形で、長さ2～6cm。花期は、7月～8月。虫媒で、動物内散布。果実は、球形で約2cm、灰褐色になる。[M]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】主に安房地方の林縁や崖地に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:392 / 新千植誌 1975:436 / 千植誌 2003:116 / 改訂新版日本の野生植物 2 2016:336

(天野誠)



D リンボク バラ科

2009	D
2017	D
2023	D

Laurocerasus spinulosa (Siebold & Zucc.) C.K.Schneid.

【種の特性】常緑高木。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。[M] カクレミノースダジイ群目。

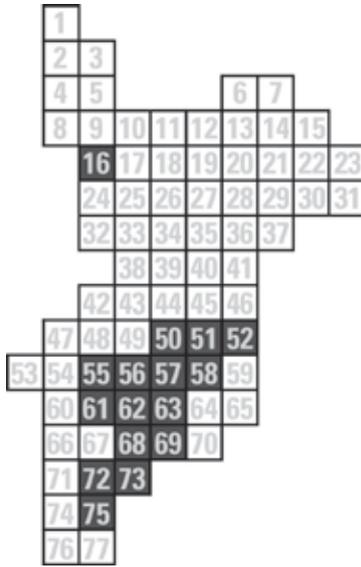
【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国。

【県内の状況】数は少ないが県南部に集中して自生し、標本は、古くは清澄山、長南町等のものがあり、最近では茂原市、市原市等で採集されている。

【保護対策】自生地を保全する。

【文献】千植誌 2003：285, 281

(御巫由紀)



一般保護
D

D タチゲヒメヘビイチゴ バラ科	2009	D
	2017	C
	2023	D

Potentilla centigrana Maxim.

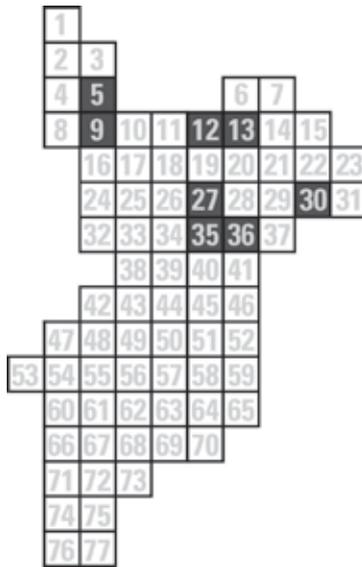
【種の特性】小型の多年生草本。葉は3出複葉で互生。虫媒で、重力散布。茎の毛が開出する。[H]

【分布】本州・四国・九州の太平洋側。日本海側には茎の毛が伏毛になるフシゲヒメヘビイチゴ (*P. centigrana* f. *centigrana*) が分布する。

【県内の状況】谷津田の畦に生える。古くは山武市、近年では柏市、富里市、山武市、成田市、銚子市、佐倉市で標本が採集されている。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003 : 273, 277
(御巫由紀)



D ヒロハノカワラサイコ バラ科	2009	D
	2017	C
	2023	D

Potentilla niponica Th.Wolf

【種の特性】多年生草本。葉は羽状複葉で互生。虫媒で、重力散布。乾いた草原に生える。[H] ヨモギ群綱。

【分布】北海道・本州（北～中部）。

【県内の状況】古くは君津郡市及び八街市、館山市等の標本があるが、現状は不明。最近では柏市、八千代市、船橋市、印西市、銚子市等で標本が採集されているが、半自然草原の衰退で自生地は著しく減少している。

【保護対策】人為的な刈り取りにより管理された半自然の草地を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 274, 278

【写真】印西市 大場達之

(御巫由紀)



D ハマナス バラ科	2009	D
	2017	D
	2023	D

Rosa rugosa Thunb.

【種の特性】夏緑低木。葉は羽状複葉で互生。虫媒で鳥散布。ハマナス群団。[N]

【分布】北海道・本州。東アジア北部。

【県内の状況】太平洋側のハマナスの分布域南限は茨城県といわれているが、県内でもこれまでに数ヶ所、自生していた記録がある。現在、確認されているのは九十九里町（藤の下納屋、1972年に発見（読売新聞）、1983年に九十九里町天然記念物に指定され保護されている）のみであるが、そのほかにも以下の4ヶ所で報告されている。銚子市

（1929年標本）、1935年千葉県植物（与世里盛春 1935）、現在はなし。旭市（1932年標本）、現状不明。富津市：1955年に記録あり（川名興 1973）、現在はなし。九十九里町：1962年に発見、1973年（篠崎秀次、千生誌）。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】与世里盛春 1935 千葉県博物研究 5 : 17 / 川名興 1973 千葉県生物誌 23 : 1 / 千植誌 2003 : 285, 280

(御巫由紀)



D ミヤマフユイチゴ バラ科	2009	D
	2017	C
	2023	D

Rubus hakonensis Franch. & Sav.

【種の特性】夏緑小低木。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。[Ch] クレミノースダジイ群目。

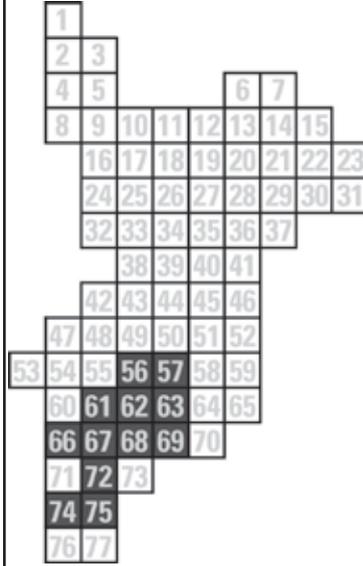
【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】県内では房総丘陵を中心に自生し、君津市、富津市、市原市等で確認されている。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003 : 270, 266

(御巫由紀)



一般保護
D

D ヒメバライチゴ バラ科*Rubus minusculus* H.Lév. & Vaniot

2009	D
2017	D
2023	D

【種の特性】 夏緑性の低木。葉は花枝で5~7小葉、徒長枝で7~11小葉からなる羽状複葉。虫媒で食散布。花は白色、4~5月。果実は球形で紅熟する。茎や葉裏の黄色い腺点が特徴。[Ch]

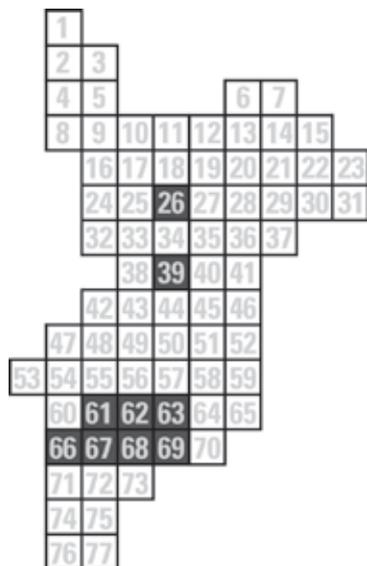
【分布】 本州（房総、伊豆、紀伊半島および山陽）・四国・九州・琉球。朝鮮（南部）。

【県内の状況】 県内では房総丘陵の君津市、大多喜町、南房総市、鴨川市等のほか、佐倉市でも標本が採集されている。

【保護対策】 生育地の環境を良好に保つ。

【文献】 千植誌 2003：271, 268

(御巫由紀)

**D ナガボノシロワレモコウ バラ科***Sanguisorba tenuifolia* Fisch. ex Link. var. *alba* Trautv. & C.A.Mey.

2009	D
2017	D
2023	D

【種の特性】 大型の多年生草本。葉は羽状複葉で互生。虫媒で、重力散布。ヨシ群綱。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、極東ロシア。

【県内の状況】 県北部に自生し、佐倉市、八千代市、柏市、我孫子市で標本が採集されている。

【保護対策】 生育地の環境を良好に保つ。

【文献】 千植誌 2003：276, 279

(御巫由紀)

**D エビガライチゴ バラ科***Rubus phoenicolasius* Maxim.

2009	D
2017	D
2023	D

【種の特性】 別名ウラジロイチゴ。夏緑性の低木。葉はふつう3小葉、徒長枝で5小葉になることもある。虫媒で、被食散布。花は淡紅紫色、6月。果実は球形で紅熟する。葉裏は綿毛に被われ雪白色。[N]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 県内では房総丘陵の君津市、大多喜町、鴨川市、南房総市等で標本が採集されている。

【保護対策】 生育地の環境を良好に保つ。

【文献】 千植誌 2003：271, 268

(御巫由紀)

**D ヤマミズ イラクサ科***Pilea japonica* (Maxim.) Hand-Mazz.

2009	C
2017	D
2023	D

【種の特性】 小形の一年生草本。高さ10~15cmで黄緑色で軟弱。群れて生える。花は雌雄異花で9~10月に咲き淡緑色で雌雄が混じって柄のある花序、または無柄の集散花序に密につく。ほかのミズの仲間とは異なって柄のある花序が茎の頂に立つところが異なる。

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮、中国、ブリモリア。

【県内の状況】 房総丘陵の記録が多いが、佐原市などの記録もある。

【保護対策】 自生環境を保全する。

【文献】 千植誌 2003：125, 123, 129

(大場達之/天野誠)



D ゴキヅル ウリ科	2009	
	2017	D
	2023	D

Actinostemma lobatum (Maxim.) Maxim.

【種の特性】 つる性一年生草本。雌雄同株。高さ、100～200cm。葉は三角形で、先が尖り、長さ3～10cm。雄花序は、総状花序。雌花は、雄花序の脇に付く。果実は、卵状で、下部には突起があり、上部は滑らか。熟すと上半分が取れる。中には、扁平な種子が2個入る。花期は、8月～11月。虫媒で重力散布。河岸などの水辺に生育する。[Th]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、台湾、東南アジア。

【県内の状況】 主に北総と南総の水辺に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:320 / 新千植誌 1975:365 / 千植誌 2003:166 / 改訂新版日本の野生植物 3 2016:121

(天野誠)



D ヤマハンノキ カバノキ科.	2009	D
	2017	D
	2023	D

Alnus hirsuta Turcz. var. *sibirica* (Fischer) C.K.Schn

【種の特性】 夏緑低木。葉は単葉で互生。河原、崩壊地、伐採跡地などの二次的な裸地に先駆的に生える。県内のもは近隣の産地から風で飛来した種子に由来する偶生的なものであろう。虫媒で、風散布。[MM]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、サハリン、東シベリア。

【県内の状況】 主として北総台地に分布。

【保護対策】 生育地を良好に保つ。

【文献】 千植誌 2003 : 100, 106

(大場達之／天野誠)



D アカシデ カバノキ科	2009	D
	2017	D
	2023	D

Carpinus laxiflora (Siebold & Zucc.) Blume

【種の特性】 夏緑高木。葉は単葉で互生。風媒で、風散布。[MM] ツガ群団。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】 ほぼ全域に見られ雑木林などに生えるが普通ではない。一般に関東地方の関東ローム層で被われた地域ではイヌシデが多く、基岩のあらわれた土壌の薄いところではアカシデが多い傾向がある。

【保護対策】 自生環境を保全する。

【文献】 千植誌 2003 : 109, 107
(大場達之／天野誠)



D ハシバミ カバノキ科	2009	D
	2017	D
	2023	D

Corylus heterophylla Fischer ex Vessel var. *thunbergii* Blume

【種の特性】 夏緑低木。葉は単葉で互生。風媒で、重力散布。低地遺存ブナ帯要素。[N]

【分布】 北海道、本州、九州。

【県内の状況】 下総台地の谷沿いにみられ、谷津の水田の周辺などに見られ、刈られていることが多く、大きな個体は稀である。

【保護対策】 自生地を保全する。谷津の側壁などを人工物に置き換えることをやめる。

【文献】 千植誌 2003 : 109, 107

(大場達之／天野誠)



一般保護
D

D オニグルミ クルミ科

2009	D
2017	D
2023	D

Juglans ailanthifolia Carr.

【種の特性】夏緑高木。葉は羽状複葉で互生。風媒で、重力散布。河川中流域の川岸に多く、下流域にも見られる。[MM] ケヤキ群団。

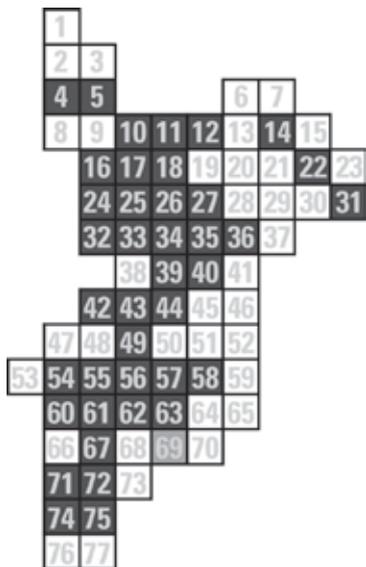
【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】記録地点は多いが、大部分は植栽株などからの逸出と考えられる。保護対象は自生と認められるものに限る。

【保護対策】無用な伐採を防止する。

【文献】千植誌 2003 : 86, 101

(大場達之/天野誠)



D ウシタキソウ アカバナ科

2009	D
2017	C
2023	D

Circaea cordata Royle

【種の特性】高さ 30 ~ 70cm の夏緑の多年生草本。スギ林などの暗くて湿った林床に生育する。地下茎を長く伸ばす。茎は四稜形で十字対生。葉は広卵形で、下の葉の基部は心形、浅い鋸歯がある。葉の両面に絹毛がある。葉柄は長く、葉身の約半分からほぼ同長。総状花序を頂生および上部の葉腋につける。花弁は白色、2枚。長さ約 2mm で、深く 2 裂する。果実は閉果で、ほぼ球形。一面に鉤状の剛毛が生える。虫媒で付着散布。低地遺存ブナ帯要素。[G]

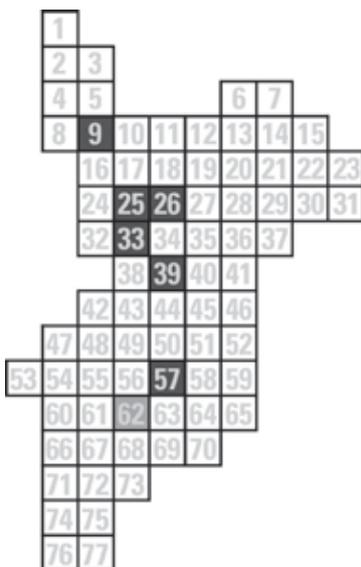
【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】北総台地の西端、南総の山地、清澄山山系などに点々と分布する。

【保護対策】生育地の環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 394, 398

(大場達之/天野 誠 追補)



D タチフウロ フウロソウ科

2009	D
2017	D
2023	D

Geranium krameri Franch. & Sav.

【種の特性】中型の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で、自散布。低地遺存ブナ帯要素。[H] ススキ群目。

【分布】本州・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】乾いた半自然のススキ草地、明るい雑木林、林縁などに生え、かつての牧には多かったと推定される。現在は著しく衰退している。

【保護対策】半自然草地を計画的に管理する。

【文献】千植誌 2003 : 315, 321, 314

(大場達之/天野誠)



D コイヌガラシ アブラナ科

2009	D
2017	D
2023	D

Rorippa cantoniensis (Lour.) Ohwi

【種の特性】中形の一〜二年生草本。池、川などの一時的に干上がる泥地に生える。茎は直立し上部で枝を分かつ。葉は互生し羽状に全裂。花は 4 ~ 6 月。黄色。虫媒で、自力散布 + 水流・鳥への付着散布。[Th].

【分布】本州 (関東以西)・四国・九州。朝鮮、中国、台湾、プリモリア。

【県内の状況】利根川水系に見られ、鳥の付着散布と考えられるものが内陸に点在する。千葉県立中央博物館の生態園の湿地にもジョウロウスゲなどと共に一時的に生えたことがある。

【保護対策】河川の冠水湿地を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 235, 237

(大場達之/天野誠)

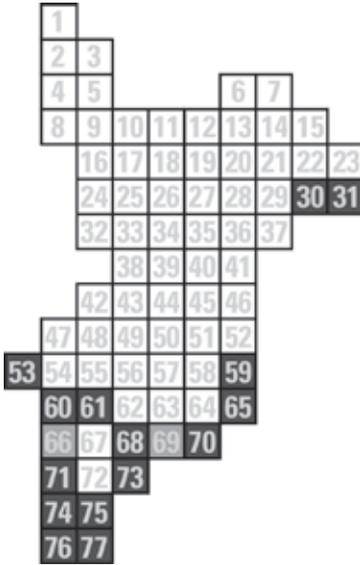


一般保護
D

D ハマナデシコ ナデシコ科	2009	D
	2017	D
	2023	D

Dianthus japonicus Thunb.

【種の特性】 別名フジナデシコ。高さ15cm～35cmの夏緑の多年生草本。海岸の崖地に生育する。1本から数本の茎を立てる。未開花株は密な十字対生のロゼットを形成する。葉は長楕円形で、長さ3～7cm、鋭頭、基部は楔形で、ほぼ無柄。葉は全縁で、無毛、光沢があり、厚い。花は頂生および上部の葉腋に密集する。花は5数性で、萼片は癒着して円筒形になる。花弁は、倒卵形で先端は細かく切れ込み、鮮やかな赤紫色で、長さ約10mmで、長い爪がある。果実は蒴果で、



円筒形、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で、重力散布。ワダン-イソギク群綱。

【分布】 本州・四国・九州・琉球。中国。

【県内の状況】 南総、安房地域の海岸および銚子半島に分布する。

【保護対策】 海崖植生の保全。

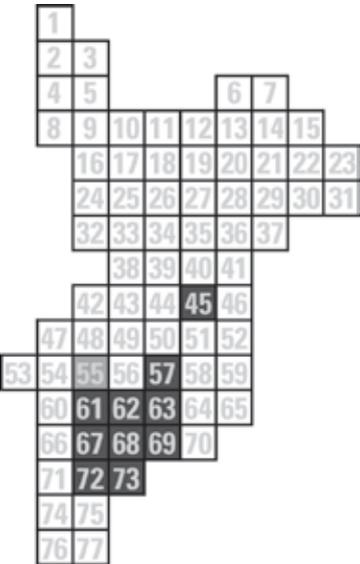
【文献】 千植誌 2003: 153, 163

(大場達之 / 天野誠 追補)

D サワハコベ ナデシコ科	2009	D
	2017	D
	2023	D

Stellaria diversiflora Maxim.

【種の特性】 高さ5～10cmの夏緑の多年生草本。スギ林等の湿った林に生育する。茎は無毛、基部は匍匐し、不定根を伸ばす。葉は三角形から菱形で、鋭尖頭、対生する。葉身とほぼ同長の柄がある。葉は全縁で、葉面にわずかな毛がある。花は上部の葉腋に単生する。花は5数性で、萼片は披針形で、鋭尖頭、白膜の縁取りはない。花弁は、倒披針形で深く2裂する。白色で、長さ約4mm。雄しべの数は2～10本。果実は蒴果で、楕円球。虫媒で、重力散布。[H] 低地遺存ブ



ナ帯要素。

【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 主として南総台地に分布する。

【保護対策】 自生環境を保全する。

【文献】 千植誌 2003: 155, 173

(大場達之 / 天野誠 追補)

D モウセンゴケ モウセンゴケ科	2009	C
	2017	C
	2023	D

Drosera rotundifolia L.

【種の特性】 食虫性の小型の多年生草本。湿地性。葉は根生し、単葉で互生。花序は直立し、先端の若い部分は螺旋状に巻き、花は白色5弁。虫媒で風散布。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。北半球北部。

【県内の状況】 茂原市、成東・東金食虫植物群落のような湿地のほか、谷津田側壁の湿った崖などにも見られる。

【保護対策】 観賞用などでの採集をしない。



【文献】 Komiya, S. & C.

Shibata 1978

Distribution of the

Droseraceae in Japan.

Bull. Nippon Dental Univ.

Gen. Edc. 7: 180-188 /

千植誌 2003: 220, 223

(大場達之 / 天野誠)

D ウリノキ ミズギ科	2009	C
	2017	C
	2023	D

Alangium platanifolium (Siebold & Zucc.) Harms var. *trilobum* (Miq.) Ohwi

【種の特性】 夏緑低木。葉は単葉で互生。虫媒で鳥散布。[N] サワグルミ群団。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 房総丘陵の湿った谷間の林に生える。

【保護対策】 自生環境を保全する。

【文献】 千植誌 2003: 406, 401

(大場達之 / 天野誠)



一般保護
D

D リョウブ リョウブ科

Clethra barbinervis Siebold & Zucc.

2009	D
2017	D
2023	D

【種の特性】夏緑中高木。主に夏緑林の林縁に生える。葉は単葉で互生。虫媒で、風散布。低地遺存ブナ帯要素。[M] ミヤマタタビーヤマブドウ群団。

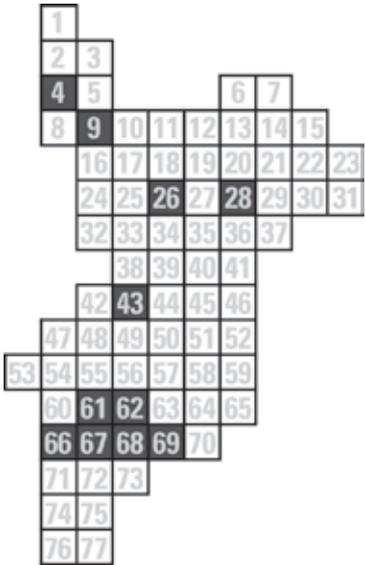
【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】公園などに植えられることがあり、真の自生と確認できるものは少ない。

【保護対策】低木の集まる林縁環境を良好に保つ。かつての牧の点在する藪には多く見られた可能性がある。牧場、農地などの境界としての自然の生け垣を積極的に保護すべきである。

【文献】千植誌 2003：430, 418

(大場達之／天野誠)



D ウメガサソウ ツツジ科

Chimaphila japonica Miq.

2009	C
2017	C
2023	D

【種の特性】常緑多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で、風散布。[Ch]

【分布】北海道・本州・四国・九州。サハリン、朝鮮、中国、千島。

【県内の状況】照葉樹林、とくにモミの混じった林に生える。

【保護対策】生育環境の保全。

【文献】千植誌 2003：430, 418

(大場達之／天野誠)



D オオバマンリョウ サクラソウ科

Ardisia crenata Sims var. *taquetii* (H.Lév.) Nakai

2009	D
2017	C
2023	D

【種の特性】常緑小低木であるが、2mを超えるようなものもある。マンリョウに似ているが葉は細長く、先端は長く尖り、葉質は薄く、濃い緑色で鋸歯は数が少ない。虫媒で、鳥散布。[N]

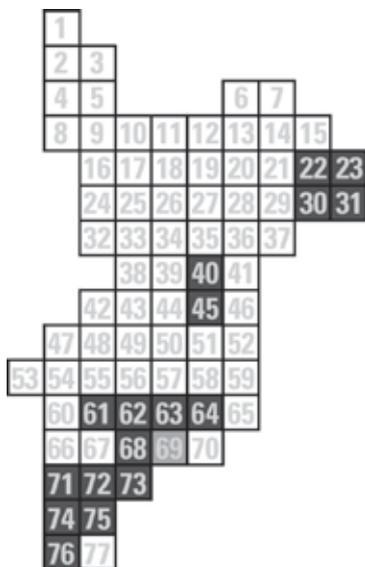
【分布】本州（関東南部以西）・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、東南アジア、インド。

【県内の状況】房総半島南部に見られ、里近くではマンリョウと混生するところもある。清澄山などでは草食獣が食べないために個体数が異常に多いところがある。

【保護対策】自然に近い照葉樹林を保全する。

【文献】千植誌 2003：434, 438

(大場達之／天野誠)



D ミツバツツジ ツツジ科

Rhododendron dilatatum Miq.

2009	C
2017	C
2023	D

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で3輪生。虫媒で、風散布。

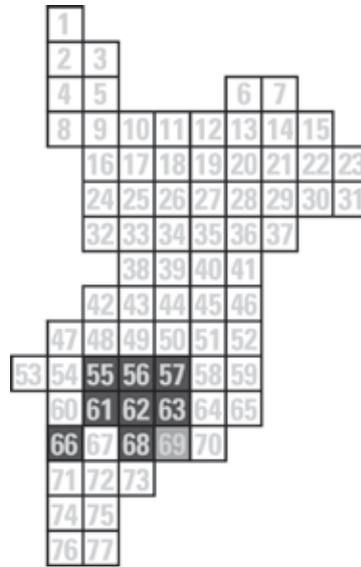
【分布】本州（関東、中部、近畿）。

【県内の状況】房総丘陵に生育する。

【保護対策】園芸品のミツバツツジが容易に入手できるにもかかわらずいまだに山採りをする人がいる。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】浅野貞夫 1976 ヒロハドウダンツツジの自生地、房総に見つかる。植物採集ニュース 88：45-46 / 木村陽子ほか 1997 白浜自然環境保全地域・白浜町・平成8年度千葉県自然環境保全地域等変遷調査報告書：1-36 / 千植誌 2003：433, 437

(大場達之／天野誠)



D シャクジョウソウ ツツジ科	2009	D
	2017	C
	2023	D

Monotropa hypopithys L.

【種の特性】多年生草本。菌根性。植物体は無葉緑で淡褐色。花は7月に咲き、はじめ下向きに咲き、後上を向いて熟す。虫媒で、風散布。[G]

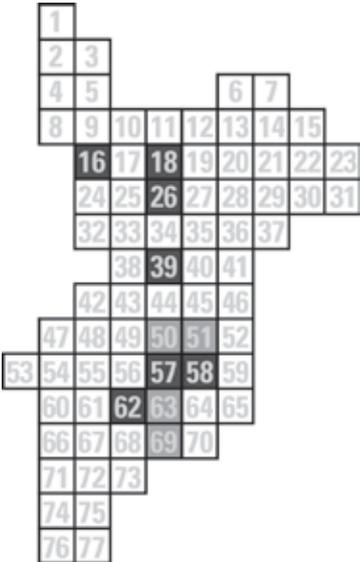
【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、北半球北部。

【県内の状況】スギ林、照葉樹林などにはえるが、アキノギンリョウソウなどに比べて記録が少ない。

【保護対策】自生環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003：431, 418

(大場達之/天野誠)



D サカキカズラ キョウチクトウ科	2009	C
	2017	C
	2023	D

Anodendron affine (Hook. & Arn.) Druce

【種の特性】夏緑藤本。照葉樹林の林床、林縁に生えるが開花結実する株は少ない。葉は単葉で対生。虫媒で、風散布。カクレミノースダジイ群目。[M]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド。

【県内の状況】房総丘陵のスダジイ林の周辺に見られる。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003：462, 454

(大場達之/天野誠)



D クロバイ ハイノキ科	2009	D
	2017	D
	2023	D

Symplocos prunifolia Siebold & Zucc.

【種の特性】常緑中高木。やや乾いた照葉樹林に生える。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。[MM] カクレミノースダジイ群目。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】房総丘陵に分布するが、安房丘陵には確認されていない。

【保護対策】自生環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003：446, 441

(大場達之/天野誠)



D スズサイコ キョウチクトウ科	2009	C
	2017	C
	2023	D

Vincetoxicum pycnostelma Kitag.

【種の特性】多年生草本。草刈りを定期的に行っている斜面草地に見られる。茎は直立し高さ40～80cm。葉は単葉で対生。花は7～8月に咲き黄褐色。虫媒で、風散布。[G] ススキ群目。

【分布】北海道・本州・四国・琉球。朝鮮、中国。

【県内の状況】ほぼ全域に見られるが半自然草地の衰退で少なくなっている。

【保護対策】半自然草地を維持・管理する。

【文献】千植誌 2003：464, 455

(大場達之/天野誠)



一般保護
D

D イヨカズラ キョウチクトウ科

2009	D
2017	D
2023	D

Vincetoxicum japonicum C.Morren & Decne.

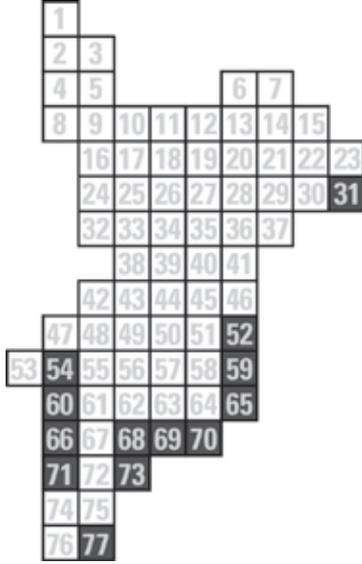
【種の特性】多年生つる草本海岸の波しぶきを受ける崖にイソギクなどと共に生える。葉は単葉で光沢があり対生。花は5~7月に咲き、淡黄色。虫媒で、風散布。[G] ボタンボウフウ群団。別名スズメノオゴケ。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】太平洋側では銚子市から館山市まで、東京湾側では富津市が北限。

【保護対策】海崖の自然植生を破壊しない。

【文献】千植誌 2003 : 464, 455
(大場達之/天野誠)



D ケイワタバコ イワタバコ科

2009	C
2017	D
2023	D

Conandron ramondioides Siebold & Zucc. var. *pilosu*

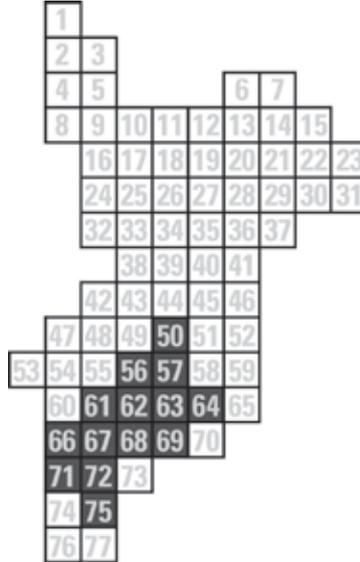
【種の特性】多年生草本。溪谷などの湿った岩場に群れて生える。葉は単葉で対生。花は7~8月に咲き、花冠は5裂し紫色で、直径約15mm。虫媒で、風散布。[E] チャセンシダ群綱。

【分布】本州（関東~近畿）。花茎、花序などに毛のないものが母種のイワタバコで、本州・四国・九州・琉球に分布する。関東南部ではシイカシ帯にケイワタバコ、ブナ帯にイワタバコが分布する。

【県内の状況】房総丘陵の溪谷の岩場に見られる。

【保護対策】観賞用目的の採取を防ぐ。

【文献】千植誌 2003 : 543, 532
(大場達之/天野誠)



D ホウライカズラ マチン科

2009	D
2017	D
2023	D

Gardneria nutans Siebold & Zucc.

【種の特性】常緑藤本。葉は単葉で対生。虫媒で、風散布。[M] カクレミノースダジイ群団。

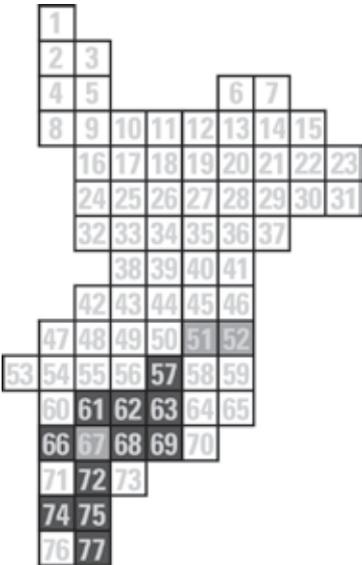
【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。

【県内の状況】照葉樹林に生えるが、開花結実するような個体は少ない。房総丘陵の照葉樹林に生える。

【保護対策】自生環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 450, 443

(大場達之/天野誠)



D クルマバナ シソ科

2009	
2017	D
2023	D

Clinopodium chinense (Benth.) O.Kuntze var. *parviflorum* (Kudo) H.Hara

【種の特性】多年生草本。高さ、20~80cm。葉は卵形、長さ2~4cm。小苞は線形で花柄より長く開出する長毛がある。花冠は赤紫色。輪散花序は、やや離れて付く。花期は、8月~9月。虫媒で重力散布。草地に生育する。ススキ群綱。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。千島、朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】主に南総の草地、南総と安房の風衝草原に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:330 / 新千植誌 1975:376 / 千植誌 2003:505 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:132

(天野誠)



一般保護 D

D ミゾコウジュ シソ科	2009	D
	2017	D
	2023	D

Salvia plebeia R.Br.

【種の特性】二年生草本。河川の氾濫原や水田に生える。葉は単葉で対生。虫媒で重力散布。茎は直立し枝を分かつ。[Th] タウコギ群綱。

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】利根川沿岸などにはやや普通であるが、水田環境では耕地整理で著しく減少している。

【保護対策】河川氾濫原を過度に管理しない。水田では除草剤の過度の使用をつつしむ。

【文献】千植誌 2003 : 492, 496
(大場達之/天野誠)



D アブノメ オオバコ科	2009	C
	2017	D
	2023	D

Dopatrium junceum (Roxb.) Buch.-Ham. ex Benth.

【種の特性】一年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で、水散布。水田に生えるが少ない。[Th] アゼナ群団。

【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】県北部の水田に普通であったが、農薬の使用や水田耕作の方法の転換で著しく減少している。

【保護対策】農薬の過度の使用をやめる。

【文献】千植誌 2003 : 538, 528
(大場達之/天野誠)



D ヒメナミキ シソ科	2009	D
	2017	D
	2023	D

Scutellaria dependens Maxim.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で、風散布。[HH] ヨシ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。サハリン、朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】県の中から北部の湿地、水田のあぜ道などに見られるが普通ではない。

【保護対策】湿地を保全する。またあぜ道などを牧草などで緑化することを再考する。

【文献】千植誌 2003 : 490, 494
(大場達之/天野誠)



D シソクサ オオバコ科	2009	D
	2017	D
	2023	D

Limnophila chinensis (Osbeck) Merr. subsp. *aromatica* (Lam.) T.Yamaz.

【種の特性】二年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で、重力散布。アゼナ群団。[Th]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】千葉県では中～北部に見られるが普通ではない。

【保護対策】耕作中の水田に生えるので保護対策は難しい。

【文献】小松崎一雄 1971 千葉県下のシソクサの産地。植物採集

ニュース 57 : 86-87 / 浅野貞夫 1972 千葉県下のシソクサの産地に再追加。植物採集ニュース 62 : 38 / 千植誌 2003 : 537, 528

(大場達之/天野誠)



一般保護

D

D トウオオバコ オオバコ科

Plantago japonica Franch. & Sav.

2009	
2017	D
2023	D

【種の特性】 多年生草本。根は多数。高さ、40～80cm。葉は卵形で、厚めな革質、葉身の長さは、8～25cm。多数の白い花を、穂状に付ける。種子は角張っていて、1果に7～14個。花期は、7月～8月。虫媒で重力散布。汽水域の河岸などの水辺に生育する。[H]

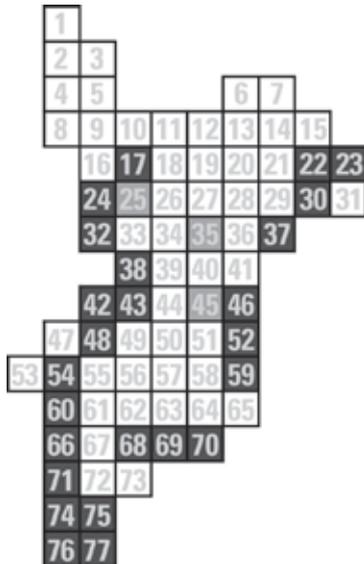
【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、サハリン、ウスリー。

【県内の状況】 主に北総と南総の水辺に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:324 / 新千植誌 1975:369 / 千植誌 2003:547 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:81

(天野誠)



D イガホオズキ ナス科

Physalistrum echinatum (Yatabe) Makino

2009	
2017	C
2023	D

【種の特性】 中型の多年生草本。茎はまばらに分枝して、高さ50～70cm。葉は卵形で、先が尖る。葉柄は徐々に狭くなる。花は葉腋に1～3個付く。萼には縮れた軟毛が生える。液果は丸くて下垂し、径1cmになる。外側にまばらに棘状突起を付ける。花期は、6月～8月。虫媒で、動物内散布。丘陵地の林床に生育する。[G]

【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国。

【県内の状況】 主に北総と南総の丘陵地の林床に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:329 / 新千植誌 1975:347 / 千植誌 2003:520 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:38

(天野誠)



D イヌノフグリ オオバコ科

Veronica polita Fr.

2009	
2017	C
2023	D

【種の特性】 小型の一年生草本。高さ、5～10cm。基部で枝分かれして、斜上する。葉は対生で、先に2、3の鋸歯がある。茎の上部に1花ずつ花を付ける。花冠は4裂し、色は桃色。果実は、心形で長さ約3mm。種子は舟形。花期は、4月～5月。虫媒で、重力散布。道ばたの石垣の隙間や畑の畦道などに生育する。[Th]

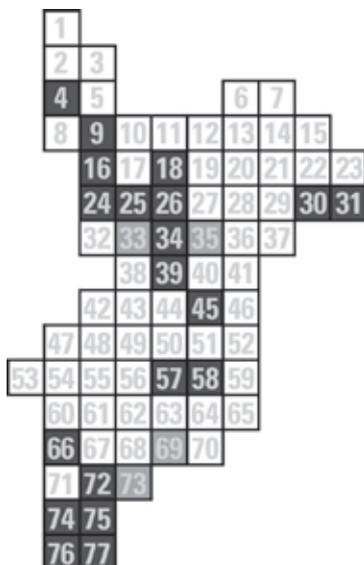
【分布】 本州・四国・九州・琉球。ユーラシア。

【県内の状況】 主に安房地方および北総東部に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:328 / 新千植誌 1975:374 / 千植誌 2003:534 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:84

(天野誠)



D ノブキ キク科

Adenocaulon himalaicum Edgew.

2009	
2017	C
2023	D

【種の特性】 中型の多年生草本。長い根茎から茎を伸ばす。高さ30～50cm。葉柄には、翼がある。葉は三角状心形、長さ5～13cm。裏面に密綿毛がある。頭花は4から5mm、20～30の小花がある。果実は、熟すと黒くなり、多数の腺体がある。花期は、8月～10月。虫媒で、動物外散布。主に山地の林床に生育する。ミズヒキードクダミ群団。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。千島、サハリン、朝鮮、台湾、中国、ヒマラヤ。

【県内の状況】 主に丘陵地の林床に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:309 / 新千植誌 1975:352 / 千植誌 2003:600 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:209

(天野誠)



一般保護
D

D ヌマダイコン キク科	2009	
	2017	C
	2023	D

Adenostemma lavenia (L.) Kuntze

【種の特性】 中型の多年生草本。細長い根茎から茎を伸ばす。下部で枝が分かれ、上部は直立する。葉は対生する。葉には、4～20対の低く鈍い鋸歯がある。花は長い枝先に数個ずつつく。小花は全て筒状花。花期は、9月～11月。虫媒で、重力散布。主に湿地や湧水の縁に生育する。[H]

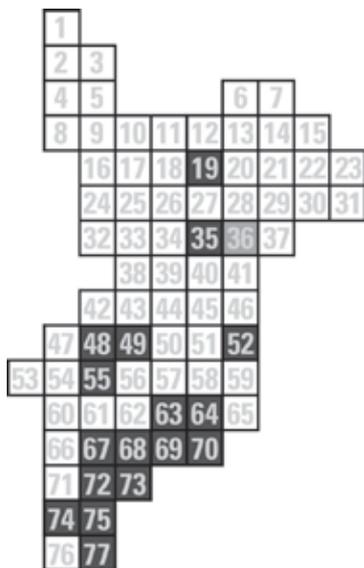
【分布】 本州・四国・九州・琉球。台湾、中国

【県内の状況】 主に南総の湿地に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1 58:309 / 新千植誌 1975:352 / 千植誌 2003:591 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:365

(天野誠)



D カワラニンジン キク科	2009	
	2017	D
	2023	D

Artemisia apiacea Hance

【種の特性】 一年生草本。高さ、40～150cm。葉は2回羽状で深裂する。頭花は5～6mm。頭花を花序枝に総状に付け、全体は円錐花序になる。花期は、8月～9月。風媒で風散布。河原に生育する。[Th]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国、ヒマラヤ。

【県内の状況】 主に利根川水系、江戸川水系に生育する

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:310 / 新千植誌 1975:353 / 千植誌 2003:618 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:330

(天野誠)



D ノコギリソウ キク科	2009	
	2017	D
	2023	D

Achillea alpine L.

【種の特性】 多年生草本。高さ、30～70cm。葉は羽状に中・深裂する。白色の舌状花は5～7個付き、長さ3.5～4.5mm。頭花は密な散房状に付く。花期は、7月～9月。虫媒で風散布。草地に生育する。ススキ群綱 [H]

【分布】 北海道・本州。

【県内の状況】 本に南総の草地、南総と安房の風衝草原に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:309 / 新千植誌 1975:352 / 千植誌 2003:615 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:327

(天野誠)



D センダングサ キク科	2009	
	2017	
	2023	D

Bidens biternata (Lour.) Merr. & Sherff ex Sherff

【種の特性】 一年生草本。やや湿った所を好む。茎の断面は四角形。葉は対生する。葉は5小葉からなる羽状複葉。頭状花には、短い黄色舌状花が数個ある。瘦果には3つの刺がある。虫媒で、動物外散布。[Th]

【分布】 本州、四国、九州、琉球。朝鮮、中国、マレーシア、インド、オーストラリア、小アジア、アフリカ。

【県内の状況】 各地の平地に散在する。

【保護対策】 生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:311 / 新千植誌 1975:354 / 千植誌 2003:631 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:356

(天野誠)



一般保護
D

D タカアザミ キク科*Cirsium pendulum* Fisch. ex DC.

2009	D
2017	D
2023	D

【種の特性】大形の夏緑多年草で高さ1～2.5 m。河川敷に見られるが、宅地造成地などに偶生することがある。茎は直立し上部で枝を分かち。根生葉は花時には枯れている。頭花は多数で下向きに咲く。筒状花は紅紫色。虫媒で風分布。[H]

【分布】北海道・本州。朝鮮、中国東北部、プリモリア。

【県内の状況】分布は県の北部に集まっているが、鴨川市からの報告もある。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 578, 570
(大場達之/天野誠)

**D オグルマ キク科***Inula japonica* Thunb.

2009	C
2017	C
2023	D

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。オグルマに近縁のホソバオグルマおよびオグルマとホソバオグルマの雑種であるサクラオグルマが県内に分布する。ホソバオグルマに似ているが、葉は緑色が濃く幅広く、ロゼットをつくらず、花が大きい。[H] ヨシ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国。

【県内の状況】水田周辺の草地など、人為的な攪乱のある場所に見られ、かつて切り花用（ミソハギのように）あるいは薬用などの目的で、人家周辺に保護されていた可能性もある。現在の産地は限られている。

【保護対策】観賞目的などでの採集を控える。

【文献】千植誌 2003 : 613, 608
(大場達之/天野誠)

**D ワダン キク科***Crepidiastrum platyphyllum* (Franch. & Sav.) Kitam.

2009	D
2017	D
2023	D

【種の特性】多年生草本あるいは1回稔性の多年生草本。葉は単葉で全縁、ロゼット状で、白緑色を帯びキャベツに似た感じがある。花は秋遅くに咲き、花茎の先に密に黄色い花を集めて咲く。虫媒で、風散布。[Ch]

イソギクハチジョウススキ群集。

【分布】本州（伊豆諸島・房総半島・三浦半島）。

【県内の状況】全域の海崖に見られるが、個体数は少ない。

【保護対策】自然な海崖の開発を控える。

【文献】千植誌 2003 : 646, 637
(大場達之/天野誠)

**D ホソバオグルマ キク科***Inula linearifolia* Turcz.

2009	C
2017	C
2023	D

【種の特性】中形の多年生夏緑草本。自然的な湿地に生える。茎は高さ40～70cm。葉は線状披針形で明るい緑色、縁が下側に巻き込み、下面に白く光る腺点が多い。株の周囲にロゼットを出す。花は8～9月。[H]

【分布】本州・九州。朝鮮半島、中国、シベリア。

【県内の状況】産地は県の北部に集中している。

【保護対策】低地の自然的な湿地を保存する。

【文献】千植誌 2003 : 613, 608
(大場達之/天野誠)



D カセンソウ キク科	2009	C
	2017	C
	2023	D

Inula salicina L. var. *asiatica* Kitam.

【種の特性】多年生草本。半自然の管理の行き届いた草地、明るい雑木林などに生える。葉は単葉で互生。虫媒で、風散布。ススキ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。[H]

【県内の状況】ほぼ全域で記録されているが、房総丘陵では少ない。

【保護対策】観賞用などでの採取を防ぐ、自生環境を保持する。

【文献】千植誌 2003 : 613, 608

(大場達之)



D ノニガナ キク科	2009	D
	2017	C
	2023	D

Ixeris polyccephala Cass.

【種の特性】二年生草本。河川の氾濫原、田の畦など湿った粘土質の土壌に生える。葉は単葉で互生、根生葉は線状披針形、茎の葉は長いやじり形で全縁。茎は高さ 15 ~ 40cm。花は 5 月で、舌状花は黄色。虫媒で風散布。[H]

【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾、朝鮮、中国、インド、コーカサス。

【県内の状況】県北部の利根川水系に属する各地から報告され、八街市などの水田周辺からも記録されている。また千葉市へ移植した芝生に生えたこともある。

【保護対策】河川氾濫原の環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 648, 639
(大場達之/天野誠)



D ハマニガナ キク科	2009	D
	2017	D
	2023	D

Ixeris repens (L.) A.Gray

【種の特性】多年生草本。地下茎は白く砂中を横に這い、葉と花を砂上に出す。葉は五角状で、掌状に裂ける。葉は単葉で互生。花は 5 ~ 7 月。花茎は先端に 2 ~ 5 個の頭花をつける。虫媒で風散布。[G]

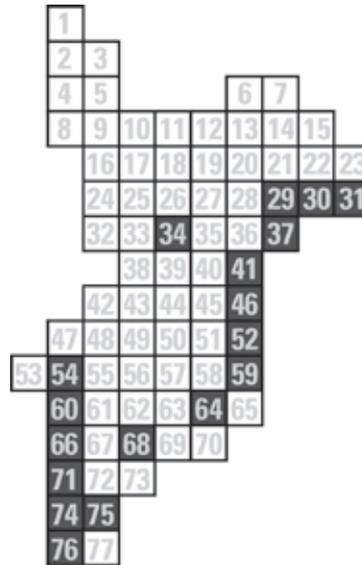
【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。サハリン、朝鮮、台湾、中国、カムチャッカ。

【県内の状況】千葉県の海岸砂浜に広く分布するが、攪乱された砂浜には見られず、少なくなっている。

【保護対策】自然の砂浜を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 648, 639

(大場達之/天野誠)



D サワオグルマ キク科	2009	D
	2017	D
	2023	D

Senecio pierotii Miq.

【種の特性】多年生草本。茎は高さ 50 ~ 80cm で直立し下部にロゼット状に葉が集まりつく。花は 4 ~ 5 月。舌状花は黄色。湿地に生え群生することがある。虫媒で風散布。[H] ヨシ群綱。

【分布】本州・四国・九州・琉球。

【県内の状況】九十九里低地、利根川沿岸など県の北部に多いが鴨川市でも記録されている。千葉市では放棄水田に群生するところがあるが、ほかでは個体数が減少している。

【保護対策】湿地を保全するとともに、観賞用などでの採取を防止する。

【文献】千植誌 2003 : 602, 605

(大場達之/天野誠)



一般保護
D

D クマノギク キク科*Wedelia chinensis* (Osbeck) Merr.

2009	D
2017	C
2023	D

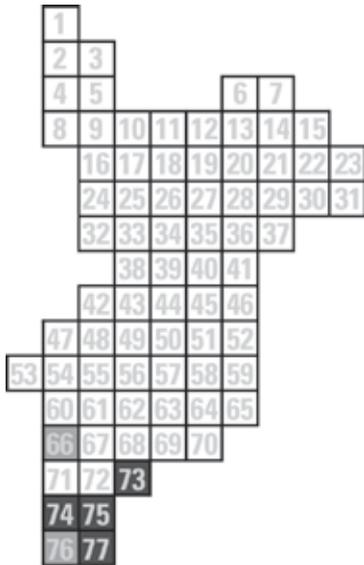
【種の特性】常緑多年生草本。海岸近くの湿った草地に生える。茎は地表あるいは浅い地中を横に走り、マット状に広がる。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。[G]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国、マレーシア。

【県内の状況】南房総市、鴨川市、館山市から記録されている。水田の畔にも見られる。千葉県産のものは帰化の可能性もあるが、1935年ころから記録がある。本種に限らずコスモポリタンの雑草は、自生か否かの判断が難しい。

【保護対策】生息地の砂浜の保全が望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 630, 623
(大場達之/天野誠)

**D ハマボウフウ セリ科***Glehnia littoralis* F.Schm. ex Miq.

2009	C
2017	C
2023	D

【種の特性】小形の多年生草本。砂浜でコウボウムギとよく共存する。葉は羽状複葉で互生。葉は地表に広がり、その中央から花茎を出す。葉柄は赤褐色。花は6~7月に咲き白色。花序には毛が多い。虫媒で重力散布。[G] ハマボウフウ群目。

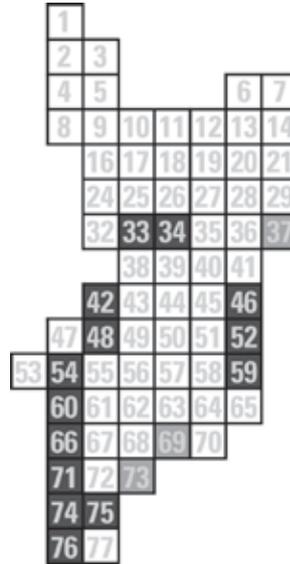
【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。台湾、サハリン、朝鮮、中国、ブリモリア。

【県内の状況】海岸の砂浜に普通であったが、場所によっては護岸などで、自然植生が失われ減少している。また食用としての採取も見られる。

【保護対策】砂浜を維持する。食用に採集しない。

【文献】千植誌 2003 : 428, 417

(大場達之/天野誠)

**D セリモドキ セリ科***Dystaenia ibukiensis* (Y.Yabe) Kitag.

2009	D
2017	D
2023	D

【種の特性】中形の夏緑多年草。湿った林床に生える。茎は高さ30~70cmで上部で分枝。葉は2回3出複葉。花は7~8月に咲き白色。虫媒で風分布。[H] 別名タニセリモドキ。

【分布】本州（東北・関東・中部）。

【県内の状況】県南部に分布するが普通ではなく、房総丘陵の西南部に限られる。

【保護対策】自生環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 426, 415

(大場達之/天野誠)

**D イブキボウフウ セリ科***Libanotis coreana* (H.Wolff) Kitag.

2009	C
2017	C
2023	D

【種の特性】夏緑の中から大形多年生草本。乾いたススキ草原などに生える。太い根茎がある。茎は高さ40~80cm。葉は複羽状に細かく分裂し毛がある。花は8~9月に咲き白色。散形花序には総苞片がなく小総苞片がある。果実は卵形で毛がある。[H] ススキ群綱。海岸の崖などに生えるハマノイブキボウフウは丈が低く葉に毛が少なく光沢がある。変種相当のものであろう。

【分布】北海道・本州（近畿以東）

【県内の状況】ほぼ千葉県全域から記録があるが、最近では少なくなっている。

【保護対策】自然的な草刈り草地进行を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 426, 416

(大場達之/天野誠)



D トチバニンジン ウコギ科

2009	D
2017	D
2023	D

Panax japonicus C.A.Mey.

【種の特性】 中型の多年生草本。葉は掌状複葉で互生。虫媒で、鳥散布。

[G] ブナ群綱。

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国。低地遺存ブナ帯要素。

【県内の状況】 県の南部では湿潤なケヤキ林などに見られるが、県北部では肥沃なスギの老齢林などに見られる。

【保護対策】 肥沃な谷沿いの林には希少な植物が集中しているので、計画的に生物多様性保全林のような形で保護する。

【文献】 千植誌 2003 : 409, 402

(大場達之／天野誠)



RH ボウシュウネズ ヒノキ科

2009	RH
2017	RH
2023	RH

Juniperus rigida Siebold & Zucc. × *taxifolia* Hook. & Arn. var. *lutchuensis* (Koidz.) Satake

【種の特性】ネズとオオシマハイネズの雑種と推定される。この組み合わせの雑種は国内に他に報告がない。

【分布】鋸南町の海岸近くのネズとオオシマハイネズの混生する岩場にまれに見られる。

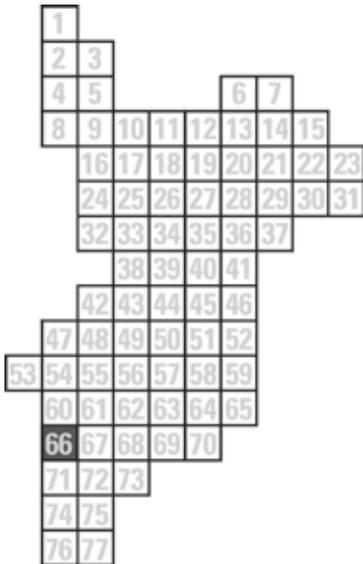
【県内の状況】現在まで上記の1地点のみに知られる。

【保護対策】分布が限られており、開発等により生育地が失われると絶滅する可能性がある。生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：79-80, 83

【写真】1998.4.10 鋸南町 大場達之

(齋木健一)



RH オオササエビモ ヒルムシロ科

2009	RH
2017	RH
2023	RH

Potamogeton xanguillanus Koidz.

【種の特性】沈水性の多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。葉身基部は茎を半周ほど巻き、葉縁は波打つ。湖沼に生える。結実は極めて稀。[HH]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

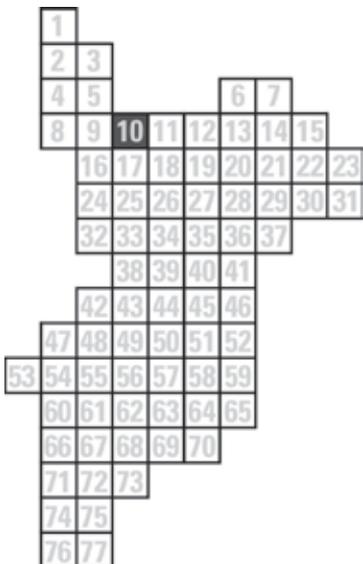
【県内の状況】1990年に手賀沼畔の造成池に発生したが、植生の遷移と水質の変化により数年後には消滅した。かつての水質が良好に維持されていた時代の手賀沼に生育があったものと思われる。本種は雑種起源の可能性が高い。

【保護対策】生育地の水質を良好に維持することが望ましい。

【文献】角野康郎 1994 日本水草図鑑：40 / 谷城勝弘 1995 調査会目録：122 / 千植誌 2003：669

【写真】1990.7.12 柏市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



保護参考雑種
RH

RH インバモ ヒルムシロ科

Potamogeton × inbaensis Kadono

2009	RH
2017	RH
2023	RH

【種の特性】多年生草本。湖沼性。葉は単葉で互生～対生。風媒で水散布。ササバモとガシャモクの雑種で両者の中間的形質をもつ。葉柄の長さ1～3.5cm、葉身は長さ5～15cm。結実しない。[HH]

【分布】本州（千葉県 印旛沼、手賀沼）・九州。

【県内の状況】1980年に印旛沼で採集された標本に基づいて記載された（角野1983）。同時に発表された印旛沼産のヒロハノササバモ（*Potamogeton inbaensis* nm. *pseudomalainanus* Kadono）は両親がインバモと共通の自然雑種である。印旛沼、手賀沼で記録されるが、現在は沼本体に生育がない。沼岸での工事や実験堀の創出により埋土種子による発生がしばしば確認される。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】角野康郎 1984 ヒルムシロ属同定の実際. 水草研会報 16 : 6-11 / 角野康郎 1994 日本水草図

鑑 : 37 / 谷城勝弘

1995 調査会目

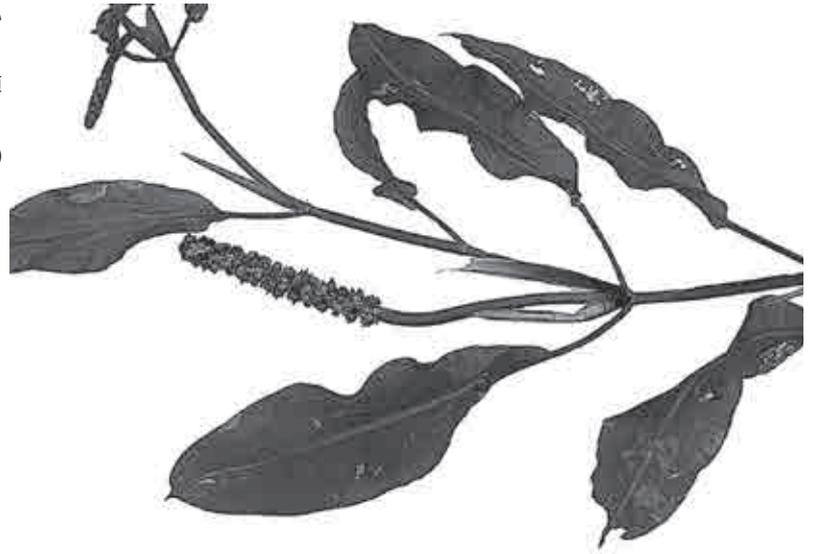
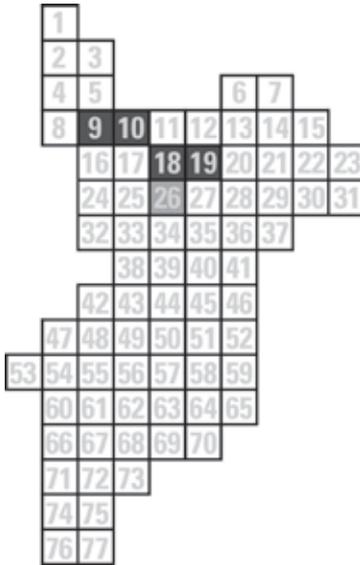
録 : 121 / 千葉植

誌 2003 : 669,663

【写真】2007.6.30

印西市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



RH アイノコイトモ ヒルムシロ科

Potamogeton × orientalis Hagstr.

2009	
2017	C
2023	RH

【種の特性】水生の多年生草本。ヤナギモとイトモの雑種。葉は、線形、長さ4.5～7cm、幅1.2～2mm。葉は、全縁で鋭頭。花穂は2～5mmで、数花。殖芽で繁殖する。花期は、7月～9月。河川や水路に生育する。[HH]

【分布】本州。

【県内の状況】主に北総の水系に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003:669 / 日本の水草 2014:135

【写真】2007.5.13 東京都 石川和宏



(天野誠)



保護参考雑種
RH

RH ヒメスガモ アマモ科

2009	RH
2017	RH
2023	RH

Phyllospadix iwatensis Makino × *P.japonica* Makino

【種の特性】 岩礁海岸の潮干帯最下部に生える多年生草本。分岐した強い根茎で岩面に固着する。スガモとエビアマモの雑種と推定され、生育地周辺には両親と目されるスガモとエビアマモが生育するが、生育環境は両親種が潮干帯最上部に生育し、干潮時にも干出しないのにもかかわらずヒメスガモはより高い場所を占めている。葉はスガモやエビアマモより短く 20～40cm で幅 0.1～0.3cm で 3～5 脈があり、葉縁には鋭い鋸歯とリボン状透明の縁が混在し、母種の中間の形質を持っている。海水水媒で、海水水

散布。[HH]

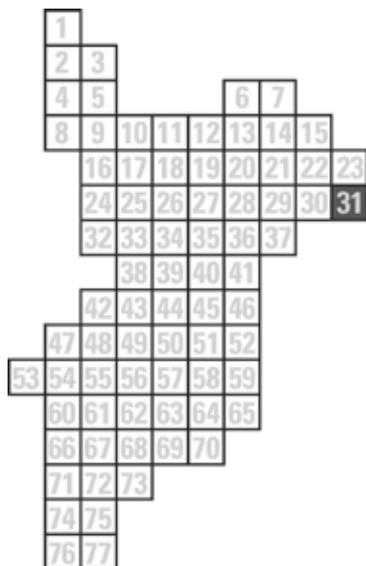
【分布】 本州（千葉県（銚子市）と茨城県）。

【県内の状況】 銚子市に見られる。

【保護対策】 生育環境を保存する。

【文献】 宮田昌彦・大場達之 2007 日本海草図譜 10,42-43

【写真】 2004.5 銚子市 大場達之（宮田昌彦・大場達之）



RH イソハマアオスゲ カヤツリグサ科

2009	
2017	
2023	RH

Carex × *bosoensis* Yashiro

【種の特性】 ハマアオスゲとイソアオスゲの推定雑種。2007年5月12日に長生郡一宮町東浪見の海岸松林で発見、採集された個体を基準標本として記載された（Yashiro 2010）。葉縁はあまりざらつかず、果胞は微毛があってやや上方が幅広になるなど概ね両種の間形質を発現する。花粉は変形して萎縮するものが多く、ほとんど結実しない。

【分布】 千葉県。

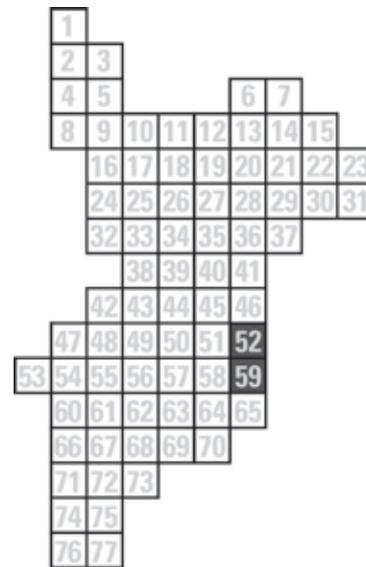
【県内の状況】 本雑種は初めに一宮町、その後長生村にも見出された。しかし、両生育地はその後、大規模造成の実施により環境が改変され、本雑種を含む植被の殆どを失った。

【保護対策】 旧生育地には少数個体が残存するので、環境を良好に保全することが望ましい。

【文献】 Yashiro, K. 2010. *Carex* × *bosoensis* (Cyperaceae), a New Hybrid from Central Japan. J. Jap. Bot. 85(2): 74-78 / 谷城勝弘 2013 雑種イソハマアオスゲの形成要因について 千葉生物誌 62(2): 23

【写真】 2009.5.22 一宮町 谷城勝弘

(谷城勝弘)



保護参考雑種 RH

RH ハシナガアワボスゲ カヤツリグサ科

Carex × furusei T.Koyama

2009	
2017	
2023	RH

【種の特性】多年生草本。ヤワラスゲとアワボスゲの推定雑種。1952年5月16日に古瀬義が館山市で採集した標本（TNS-20452）に基づいて小山鉄夫が記載した。[H]

【分布】本州（千葉県、長野県）

【県内の状況】横芝光町で1個体の生育が確認された。ヤワラスゲとアワボスゲの混生地は県内に複数箇所存在するが、雑種形成は極めて稀であり、タイプ産地の館山市以外には知られていなかった。

【保護対策】生育地の河川敷の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】Koyama T. 1955 Les diagnoses des Cyperacees nouvelles pour la flore de Japon. J. Jap. Bot.30(5)129-137 / 千植誌 2003: 833

【写真】2011.5.7 横芝光町 谷城勝弘



(谷城勝弘)



RH ムジナクグ カヤツリグサ科

Carex × takoensis Endo & Yashiro

2009	RH
2017	RH
2023	RH

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。風媒で水散布。ムジナスゲとオオクグの雑種で両者の中間的性質をもつ。果胞には少毛がある。[HH]

【分布】本州（千葉県）。多古町で発見され命名された（Endo & Yashiro 1995）。

【県内の状況】多古町及び横芝光町にまたがる多古光湿原には本雑種の両親種のムジナスゲ、オオクグが生育しており、それらの中間的性質をもつムジナクグが広い範囲で確認される。元は1株であったものが、根茎による栄養繁殖を続けて生育範囲を拡大したと思われる。個体の一部は横芝光町坂田湿性植物園に移植されている。

【保護対策】多古光湿原には保護上重要な種類が複数生育している。古くからヨシの刈り取り続けられてきたが、近年は刈り取りに従事する人がいなくなった。そのため枯れ草が堆積して乾燥化が進むと共にセイタカアワダチソウが繁茂し、種組成が貧弱になりつつある。定期的な刈り取りを継続して複数の希少な種が消滅しないように維持することが重要である。

【文献】谷城勝弘 1991 調査会目録：167 / 岩瀬・谷城・小野沢 1993 栗山川中流部の湿原. 千葉県自然環境保全学術調査報告書：7-56 / 谷城勝弘 1993 調査会目録：249 / 谷城勝弘 1995 調査会目録：117 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物. 新版千葉県の生物：37-50 / Endo & Yashiro (1995) J. Jap. Bot. 70：273-279 / 千植誌 2003：855,848. / 谷城勝弘 2004 栗山川中流部の湿原の植物. 千葉県自然環境保全学術調査報告書. 千葉県環境生活部自然保護課 7-29

【写真】1989 多古町 谷城勝弘



(谷城勝弘)



保護参考雑種 RH

RH ナガボトネテンツキ カヤツリグサ科

2009	RH
2017	RH
2023	RH

Fimbristylis xitaru-itoana T.Koyama

【種の特性】小型の一年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。トネテンツキとヒメテンツキの雑種。小穂は長卵形～やり型。ヨシ群綱。風媒で、水散布。[Th]

【分布】本州（千葉県）。

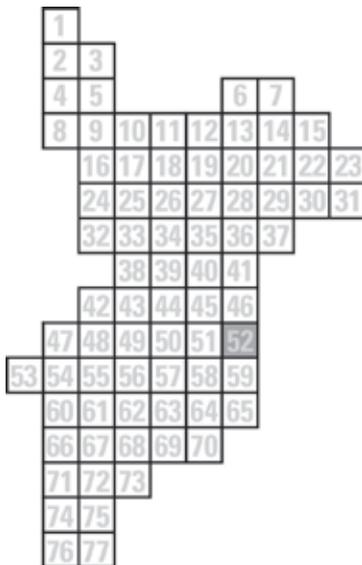
【県内の状況】一宮町で発見されたテンツキ属としては初めての雑種。基準産地の一宮町には個体数も相当数あり、果実の結実も良いと記されている。長生村での採集例もある(1936.10.11, S.Okuyama, CBM 該当標本なし)。しかし、その後は生育が確認されていない。トネテンツキ、ヒメテンツキの両者が混生して生える場所は複数見られるので、今後注

意して調査すれば再発見される可能性はある。

【保護対策】旧生育地には再度発生する可能性もあるので、良好な自然環境を維持することが望ましい。遷移の初期群落中に発生する種で、群落の遷移とともに消滅する特性があるため、今後生育が確認された場所は適切に管理していくことが望ましい。

【文献】小山鉄夫 1955 日本産カヤツリグサ科の新植物。植物研究雑誌 30(5)：1-9 / 小山鉄夫 1958 カヤツリグサ科について。千植誌 1958：172-194 / 新千植誌 1975：461. / 千植誌 2003：861

【写真】一宮町 国立科学博物館所蔵標本 (谷城勝弘)



RH イガホタルイ カヤツリグサ科

2009	RH
2017	RH
2023	RH

Schoenoplectiella xigaensis (T. Koyama) Hayasaka

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。ヒメホタルイとホタルイの雑種。ヒメホタルイに比べて根茎は短く、茎は接近してつく。ホタルイに比べて小穂は狭く細長い。風媒で水散布。[HH]

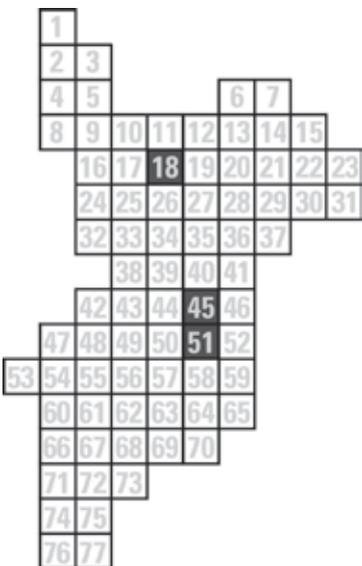
【分布】本州。

【県内の状況】長生村、印西市で確認され、標本が得られている。長生村ではヒメホタルイとホタルイの混生する休耕田に混生する。印西市では、造成湿地にヒメホタルイとホタルイが多数生育し、翌年にイガホタルイが2個体発生した。なお、県内にはヒメホタルイとホタルイが同所的に生育するところは極めて稀である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1994 調査会目録：122 / 谷城勝弘 1995 調査会目録：118 / 岩瀬・谷城・野口・久保田 1998 長生村湿地帯の植物。千生誌 48(1)：6-22 / 千植誌 2003：882,875

【写真】2003.8.17 長生村 谷城勝弘 (谷城勝弘)



保護参考雑種 RH

RH スナシバ イネ科

2009	RH
2017	RH
2023	RH

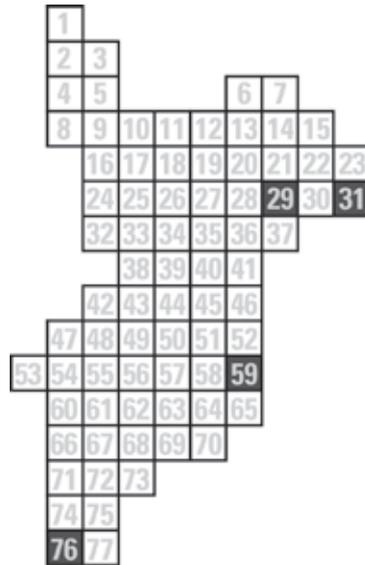
Zoysia × hondana Ohwi

【種の特性】 多年生草本。海岸に生育。シバ（小穂3～4mm）に似るが、小穂は4～5mmとシバより大きく、5～7mmあるナガミノオニシバよりは小さい。花序が葉鞘から抜き出るのでオニシバとも異なる。大井次三郎によればシバとオニシバの雑種とされる。海岸の砂浜に生育する。

【分布】 本州（神奈川県平塚市（基準産地）・福島県四ツ倉・千葉県）。

【県内の状況】 鴨川市で採集された標本の記録のみであったが、2001年に匝瑳市でも採集された。

【保護対策】 開発により残り少なくなった自然海岸を保全することが望ましい。



【文献】 奥山春季 1937 植物研究雑誌 13 : 35-36 / 木村陽子 2000 スナシバ再発見と千葉県のシバ属 . 千資料 18 : 137-138 / 千植誌 2003 : 761, 752

【写真】 2001.6.10 匝瑳市 大場達之 (木村陽子)



RH ワレモコウモドキ バラ科

2009	
2017	
2023	RH

Sanguisorba × pseudoofficinalis Nuruh.

【種の特性】 多年生草本。ワレモコウとナガボノワレモコウの推定雑種で、大型の多年草草本。茎は直立し高さ1.5m近くに達する。小葉は長楕円形～線状長楕円形で、基部は心形。小葉柄は明瞭。花穂は3～5cmで直立し、紅紫色～暗紅色。花糸の長さは萼裂片と同長かやや長い。完全不稔ではあるが、根茎による栄養繁殖は可能。[H]

【分布】 本州（千葉、滋賀、広島）四国（香川）

【県内の状況】 2018年に野田市で発見された。稀なものであることには違いないが、一方で認知度の低い雑種でもあるため、今後精査すると新たな記録が増える可能性がある。

【保護対策】 ワレモコウとナガボノワレモコウの混生は、それ自身が自然度が高い植生であることを示唆しており、他の希少種も生育している可能性が高い。生育環境を良好に維持することが望ましい。



【文献】 岩槻秀明 2022 江戸川におけるワレモコウモドキとアイノコヘビイチゴの観察記録 . 千葉県立関宿城博物館研究報告 26 : 64-69

【写真】 2020.10.27 野田市 岩槻秀明 (岩槻秀明)



保護参考雑種 RH

RH ナンキンギシギシ タデ科

Rumex x nankingensis Rchb.f.

2009	
2017	
2023	RH

【種の特性】 多年生草本。ギシギシとコギシギシの推定雑種で、両者の中間的な性質を持つ。多年草草本と考えられる。株元から茎を叢生し、大株に育つこともある。完全不稔では無いが、稔性は悪く、果期花被片の形や大きさは不揃い。よく育った果実の果期花被片はギシギシのそれに類似するが、縁の切れこみは深く、鋭い刺状となる。成熟しても赤みを帯びず、淡茶褐色に色づくことが多い。[H]

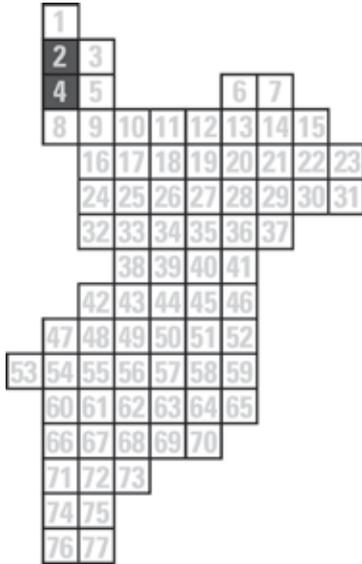
【分布】 ギシギシとコギシギシが混生している場所で稀に見られるが、分布状況は不明。

【県内の状況】 野田市では複数地点で見つかっている。ギシギシ雑種群については分布実態の不明なものが多く、両種が混在している場所を精査すると、さらに記録が増える可能性がある。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。ギシギシとコギシギシの混生は、それ自体が自然度が高い植生であることを示唆しており、他の希少種も生育している可能性が高い。氾濫原に生えるコギシギシはかく乱依存性があるため、遷移の進行に伴う湿地の草原化に留意が必要。

【文献】 岩槻秀明 2022 千葉県立関宿城博物館周辺におけるギシギシ雑種群の観察記録・千葉県立関宿城博物館研究報告 26：70-75

【写真】 2020.6.7 野田市
(岩槻秀明)



RH サクラオグルマ キク科

Inula x yosezatoana Makino

2009	RH
2017	RH
2023	RH

【種の特性】 中形の夏緑多年草。オグルマとホソバオグルマの雑種と推定され中間的な形態を持っている。佐倉市で採集された標本を元に命名されたが、正式な発表がないまま、図鑑などに図説されている。

【分布】 オグルマとホソバオグルマの分布している地域に広く見られるものと考えられる。ホソバオグルマと混同されている場合が多い。

【県内の状況】 佐倉市では広い範囲で採集されている。最初の採集地と考えられる佐倉市は道路建設と開発でほとんど絶滅している。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 牧野富太郎・前川文夫・原寛・津山尚 1955 牧野日本植物図鑑増補：1096 / 前川文夫・原寛・津山尚編 1961 牧野新日本植物図鑑 635 / 大場達之 2000 佐倉市の維管束植物相。佐倉市自然環境調査報告書 11-21 / 千植誌 2003：613, 608

【写真】 1999.8.4 佐倉市 大場達之
(大場達之 / 天野誠)



保護参考雑種 RH